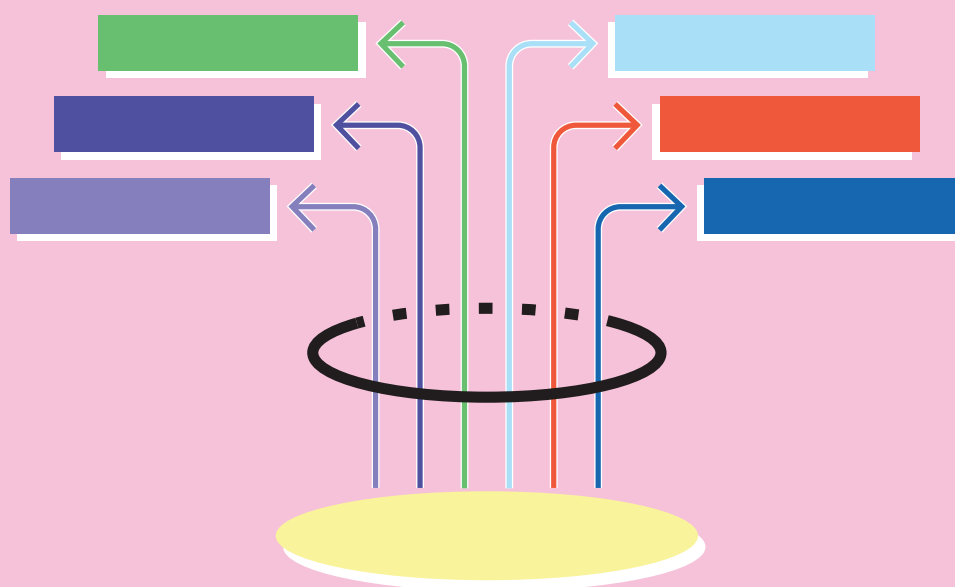


ガイダンス時に必ず持参すること

2017 (平成29年度)

全学教育科目 履修案内

Handbook for General Education Requirements



静岡大学大学教育センター

休業・臨時休講

2017(平成29)年度 授業日カレンダー

試験 集中 月曜日授業 補講日
静大祭(浜松) 静大祭(静岡)

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

前学期	月	火	水	木	金
	16	16	16	16	16

後学期	月	火	水	木	金
	16	16	16	16	16

※1 上記表の回数は、試験中の回数を各学期に1回含む
 ※2 人文社会科学部夜間主コースのみ、土曜日にも授業を行います

目 次

静岡大学のビジョン	1
学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針	2
新入生の皆さんへ	3
1 学期と授業時間	4
2 事務手続き	4
3 履修科目について	5
4 全学教育科目の性格と科目区分	5
5 全学教育科目の学部別授業科目一覧	6
6 各学部の教養科目必要単位数	21
7 全学教育科目の性格と履修方法	29
8 授業時間割枠	31
9 履修の手続き	34
履修決定について	38
教室で抽選する授業の履修手続き	39
10 英語、初修外国語、健康体育、日本語・日本事情の履修について	40
11 学外での授業の履修について	47
12 学務情報システムの利用について	48
13 情報基盤センターの利用について	65
14 本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ	66
15 静岡大学全学教育科目規程、別表Ⅲ（第13条関係）	67
16 教養科目の成績評価に関わる指針	70
17 入学前の既修得単位等の取り扱い等について	71
18 編入学等の単位の取り扱いについて	72
19 科目等履修生等の取り扱いについて	72
20 留学生科目等に関する申合せ	73
21 TOEIC スコアのデータ登録に関する申合せ	74
22 副専攻プログラム（ABP・学環）の履修について	75
23 防災マイスター称号制度について	78
24 静岡キャンパス共通教育棟校舎配置図	79
25 共通教育棟周辺揭示板	80
26 浜松キャンパス建物配置図・教室名	81
27 全学教育科目の学部別授業科目一覧及び必要単位数（ABP留学生コース）	83
行事予定	裏表紙の裏面

自由啓発・未来創成

質の高い教育と創造的な研究を推進し、社会と連携し、ともに歩む存在感のある大学

静岡大学のビジョン「自由啓発・未来創成」

わたしたちの大学は、旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松工業専門学校（旧浜松高等工業学校）の統合（1949年）と静岡県立農科大学の移管（1951年）とともに、こんにちの「静岡大学」としてのスタートを切りました。これらの前身校では、「自由啓発」、「自由闊達」など、学生の主体性に重きをおく教育方針がとられました。なかでも浜松高等工業学校では、「自由啓発」という理念のもと、「生徒の素質、学力、性能等を十分に考慮し」つつ、「学徒を最も自由な境遇に置き、その個性を十分に尊重し、その天賦の才能を遺憾なく伸展せしめる」教育が行われました。

この理念は、教育だけでなく、なにごとにもとらわれない自由な発想に基づく独創的な研究、相互啓発的な社会との協働に不可欠です。この認識のもと、静岡大学は、教育・研究・社会連携の柱として、「自由啓発」を発展的に継承していきます。

「自由啓発」をもとに、静岡大学の学生・教職員は、平和で幸福な「未来創成」をめざして、教育、研究、社会連携に積極的に取り組んでいきます。地域社会の一員として、地域の自然と文化に対する敬愛の念をもち、社会からよせられる期待に応えます。さらに地球規模の環境問題、食料問題、貧困、戦争、伝統的な共同体や価値観の崩壊などの大きな課題に果敢にチャレンジします。このようにして、学生・教職員、静岡大学にかかわるすべての人々が、互いに信をおき、学びあい、それぞれの多様性を尊びながら、「自由啓発・未来創成」の理念を広く共有し、平和かつ幸福な未来を創り上げていきます。

わたしたちの大学は、「自由啓発・未来創成」の理念のもと、多様な背景・価値観を認めあい、気高い使命感と探究心に溢れた人間性をはぐくみ、知の創成・継承・活用を推進し、人類の平和・幸福と地球の未来のため、地域社会とともに発展していきます。

使 命

教 育

地球の未来に責任をもち、国際的感覚を備え、高い専門性を有し、失敗を恐れないチャレンジ精神にあふれ、豊かな人間性を有する教養人を目指します。

研 究

世界の平和と人類の幸福を根底から支える諸科学を目指し、創造性あふれる学術研究を行います。

社会連携

地域社会とともに歩み、社会が直面する諸問題に真剣に取り組み、文化と科学の発信基地として、社会に貢献します。

静岡大学 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

静岡大学は、教職員、学生の主体性の尊重と相互啓発の上に立ち、平和で幸福な未来社会の建設への貢献をめざす「自由啓発・未来創成」のビジョンを掲げ、教育・研究に携わっている。このようなビジョンのもとで、国際感覚と高い専門性を有し、チャレンジ精神にあふれ、豊かな人間性を有する教養人を育成することが本学の教育目標であり、下記に示すそれぞれの資質・能力を身につけていることを学位授与の条件とする。

- 1 専門分野についての基本的な知識を習得し、これを社会の具体的文脈のなかで活用することができる。
- 2 外国語を含む言語運用能力、情報処理、キャリア形成等の基本的スキルを身につけている。
- 3 多様性を認め、幅広い視点から物事を考え、行動することのできる国際感覚と深い教養を身につけている。
- 4 主体的に問題を発見し、自らのリーダーシップと責任のもとで、様々な立場の人々と協同して、その解決にあたることができる。

<各学部の「学位授与の方針」については省略>

静岡大学 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

静岡大学は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、下記の方針に従って教育課程を編成し実施する。

- 1 全学教育科目においては、基礎的な学習方法、外国語の運用能力、情報処理、キャリア形成等の基本的スキルを身につけるために「基軸教育科目」を、国際感覚と教養を身につけるために「現代教養科目」を、理系の基礎的知識習得や教職等の資格取得のために「理系基礎科目」及び「教職等資格科目」をおく。
- 2 専門科目においては、各学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、それぞれの専門分野についての主体的な学びを促し、基本的知識・方法を身につけるための系統的な授業配置を行う。
- 3 自ら問題を発見し、その解決のために他者と協同して行動できるようにするため、学生参加型授業、フィールドワーク、実験・実習等の授業を配置すると共に、地域社会との交流や国際交流の機会を積極的に提供する。
- 4 すべての授業について十分な学習時間を確保すると共に、客観的な評価基準に基づく成績評価を行う。

<各学部の「教育課程編成・実施の方針」については省略>

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これからいよいよ皆さんの静大生としての新しい生活がはじまります。勉学に課外活動に、また友人同士の楽しい語らいにと、ぜひ有意義な4年間をすごしてください。

このうち静岡大学での勉学について言うと、皆さんが学ぶ授業科目のおよそ3分の1は、すべての学部の学生を対象とする「全学教育科目」と呼ばれる科目群です。この科目群は、それぞれの専門的な学問分野について学ぶ「学部専門科目」とは異なって、(1)大学生として学んで行く上で共通に身につけておく必要のある基礎的な知識・スキルや教養についての科目、(2)教員資格等の取得に必要な学部横断的な科目、(3)理工系学部学科で共通に求められる基礎的な知識についての科目から成っており、その大半を1、2年次に履修することになります。また、「全学教育科目」には、グローバル人材育成を目指して開設されたアジア・ブリッジ・プログラムの副専攻科目群（英語で行われる授業や海外研修を含む）や、地域の課題に処し解決する人材育成を目的とする地域創造学環の副専攻科目群も準備していますので、是非チャレンジしてみてください。

この「履修案内」はこれらの「全学教育科目」全体の構成と履修方法を説明するものですので、入学時に行われる履修ガイダンスを参考にしながら、注意深く読み、自分が履修しなければならない科目は何なのかをよく確認してください。

大学の授業は、高校までの授業よりも選択の幅が広く、「全学教育科目」のうちでも特に「現代教養科目」に分類されている科目群については、一定の制限はありますが、多くの科目のなかから自分の興味関心に基づいて選択することができ、また他学部の学生たちと肩を並べて勉強する機会を得ることもできます。個々の授業内容を紹介するシラバスを一覧すれば、それぞれの授業のねらいやどのようなテーマが扱われるのかを事前に知ることができるようになっていますので、ここで大学生活に不可欠な「正しく選ぶ」訓練をしてみてください。

大学での4年間で豊かなものにするためには、多くの授業のなかから自分にとって必要なものを「選ぶ」、サークルや友人やゼミを「選ぶ」、そして最終的には社会のなかで自分が進むべき道を「選ぶ」ことが皆さんには求められます。そしてこのように「正しく選ぶ」ためには、自分がいったい何者であり、何をしようとしているのかを知ることが必要です。しかしただ自分の内面を見つめていても、「本当の自分」を発見することはできません。これからの様々な出会いを大切に、そのなかで「よく考えて選ぶ」営みを何度も繰り返すことによって、皆さんは少しずつ自分の真の姿を見つけ出していくことができるようになるでしょう。

大学教育センター長

1 学期と授業時間

(1) 学年、学期

学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日で終わる1年間をいいます。この1年間は前学期(前期)と後学期(後期)の二つの学期に分けられています。

前学期：4月1日～9月30日

後学期：10月1日～3月31日

通年：前学期と後学期にわたる授業について用います。

半期授業：前学期または後学期の半年間で完了する授業科目です。

この授業の成績は、その学期の終わりに評価・判定されます。

通年授業：通年にわたる授業です。

この授業の成績は後学期の終わりに評価・判定されます。

(2) 授業時間

1・2 時限	8 時 40 分～10 時 10 分
3・4 時限	10 時 20 分～11 時 50 分
5・6 時限	12 時 45 分～14 時 15 分
7・8 時限	14 時 25 分～15 時 55 分
9・10 時限	16 時 05 分～17 時 35 分
11・12 時限	17 時 50 分～19 時 20 分 (夜間主)
13・14 時限	19 時 30 分～21 時 00 分 (夜間主)

たとえば1・2時限の90分の授業を「1コマ」(ヒトコマ)といいます。

2 事務手続き

全学教育科目の授業に関する事務手続きは下記窓口で行います。また、履修に関する教務的な連絡は、静岡キャンパスは教務課教務係、浜松キャンパスは浜松教務課共通教育係掲示板で行います。(掲示の場所はp.80からp.81参照)。掲示に常に注意して、見落としのないようにしてください。

[静岡キャンパス]

教務課教務係

【共通教育A棟 2階】

[浜松キャンパス]

浜松教務課共通教育係 【S-P o r t 1階】

[受付時間]

8 時 30 分～12 時 30 分、13 時 30 分～17 時 15 分

3 履修科目について

本学における4年間のカリキュラムには、全学部の学生を対象に開設されている「全学教育科目」と各学部・学科（課程）の「学部専門科目」があります。これらの授業は、1年次から4年次まで、学期ごとに履修するように配分されています。

この冊子では、「全学教育科目」の履修について説明しますので、各学部・学科（課程）の「学部専門科目」の履修については、各学部の「学生便覧」と「時間割」等を参照してください。なお、「履修する」とは授業を受講して単位を取得することを意味します。

4 全学教育科目の性格と科目区分

「全学教育科目」は、静岡大学全体に共通する教育理念・目標に基づいて教養教育と専門教育の有機的連関をもった四年一貫教育をねらいとして設定されています。大別すると、教養科目と専門科目に区分されます。

教養科目には、在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための基軸教育科目、各専門分野と有機的に関連させて幅広い教養を習得するための現代教養科目、留学生のための留学生科目、および教員免許等の資格取得に必要な教職等資格科目が設定されています。専門科目には、専門科目の中で全学に共通する教職等資格科目、および理系学部に通ずる理系基礎科目が設定されています。

必修科目と選択科目等の種別があり、学部・学科（課程）ごとに履修の方法・ルールは異なりますので、本冊子の「全学教育科目の学部別授業科目一覧」(p.6 から p.20)、「各学部の教養科目必要単位数」(p.21 から p.28) および各学部の「学生便覧」等をみて、間違いのないように履修計画をたててください。（※A B P留学生は p.83 から p.100 を参照してください。）

全学教育科目の区分

大区分	科目区分	小科目区分
教養科目	基軸教育科目	新入生セミナー
		情報処理
		英語
		初修外国語
		健康体育
		フィールドワーク
		キャリア形成科目
	現代教養科目	個別分野科目
		学際科目
	留学生科目	日本語
		日本事情
		基礎日本語 *
	教職等資格科目	教職教養科目
	日本語・日本文化研修科目 **	日本語研修科目
		日本文化研修科目
専門科目	教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ
		教職専門科目Ⅱ
		学芸員科目
	文系基礎科目 *	
	理系基礎科目	

* 基礎日本語及び文系基礎科目は、A B P留学生コース対象科目です。

** 日本語・日本文化研修科目は、非正規留学生（交換留学生・日研生）対象科目です。

5 全学教育科目の学部別授業科目一覧

「必修・選択の別」の用語説明

「必修」:卒業するために必ず履修しなければならない科目

「選択必修」:複数の授業科目のなかから定められている単位数を必ず履修しなければならない科目

「選択」:必ず履修しなければならない科目ではないが、卒業に必要な履修単位に含まれる科目

(1)人文社会科学部

(教養科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
基礎教育科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)
	情報処理	*情報処理	2	選択	演習	1	学部指定履修科目
	英語	*英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1～2	英語コミュニケーションⅠの単位修得者が履修できる。
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	TOEIC400点以上取得者が履修できる。
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2	
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	TOEIC400点未満の者は基礎英語演習の履修をもって替えることができる。)
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	
		*英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		*英語インテンシブA	2	選択	演習	1	
		*英語インテンシブB	2	選択	演習	2	クラスごとに履修条件の設定がある。
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		*英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		*英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	英語 (夜間主コース)	英語演習	1	必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションA	1	必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションB	1	選択	演習	2	
		*英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		*英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	必修	演習	1	初修外国語Ⅰ及びⅡを学部指定履修科目とする。初修外国語入門Ⅰ及びⅡと併せて同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	必修	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	2	
	初修外国語 (夜間主コース)	初修外国語a	1	必修	演習	1	3科目とも同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語b	1	必修	演習	1	
		初修外国語c	2	必修	演習	2	
	健康体育	*健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	1～4	
		*健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	1～4	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1	
現代教養科目	個別分野科目						
	〈人文・社会分野〉	*日本国憲法	2	選択	講義	2	夜間主コースに「日本国憲法」は開設しない。 〈自然科学分野〉の科目から3科目6単位必修
	〈自然科学分野〉	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	

	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は 演習	2～3	1科目2単位必修 夜間主コースは1年次から履修できる。
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ 日本語Ⅴ 日本語Ⅵ	2 2 2 2 2 2	選択 選択 選択 選択 選択 選択	演習 演習 演習 演習 演習 演習	1～2 1～2 1～2 1～2 1～2 1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
教職等資格科目	教職教養科目	*(中等)教育の原理 *(中等)発達と学習 *(中等)教育と社会	2 2 2	選択 選択 選択	講義 講義 講義	2～4 2～4 2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目(もしくは区分単位数)である。
2. *印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。(英語については、必修の英語コミュニケーションⅠ(夜間主コースは英語コミュニケーションA)のほかに*印の英語の授業科目から1単位以上(*印、合計2単位以上)履修すること。)
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
4. 夜間主コース学生の「昼間コース開講科目」履修については、別に定める。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	(中等)教職入門Ⅰ (中等)教職入門Ⅱ 教育課程の意義及び編成の方法 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) 道徳指導論 特別活動論 生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む。) 教育相談	1 1 1 1 2 2 2 2		演習 演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義	1 1 3 3 2～3 3 3 3	
	教職専門科目Ⅱ	国語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ 社会科教育法Ⅱ 社会科教育法Ⅲ(地歴) 社会科教育法Ⅳ(公民) 英語科教育法Ⅱ 英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ ドイツ語教育法Ⅱ ドイツ語教育法Ⅲ ドイツ語教育法Ⅳ 中国語教育法Ⅱ 中国語教育法Ⅲ 中国語教育法Ⅳ 教育実習事前・事後指導 教育実習Ⅱ 教育実習Ⅲ 教職実践演習(中・高)	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 演習 実習 実習 演習	2 2 3 2 2 2 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3～4 4 4 4	
	学芸員科目	生涯学習概論 博物館概論 博物館経営論 博物館資料論Ⅰ 博物館資料論Ⅱ 博物館展示論 博物館情報・メディア論 博物館資料保存論 博物館教育論	2 2 2 1 1 2 2 2 2		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	1 1 2 2 2 2 2 3 3	

(2)教育学部

(教養科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考
基軸教育科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)
	情報処理	*情報処理	2	必修	演習	1	
	英語	*英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションⅡ	1	選択必修	演習	1～2	英語コミュニケーションⅠの単位修得者が履修できる。
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2	TOEIC400点以上取得者が履修できる。
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	
		*英語ディスカッション	2	選択必修	演習	1～2	
		*英語インテンシブA	2	選択必修	演習	1	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		*英語インテンシブB	2	選択必修	演習	2	
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	クラスごとに履修条件の設定がある。
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		*英語海外研修A	2	選択必修	演習	1～4	
		*英語海外研修B	2	選択必修	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	必修	演習	1	初修外国語入門Ⅱは学部指定履修科目とし、初修外国語入門Ⅰと併せて同一言語を履修すること。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	*健康体育Ⅰ	1	必修	講義・実技	1～4	
		*健康体育Ⅱ	1	必修	講義・実技	1～4	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～4	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～4	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1	
現代教養科目	個別分野科目						2科目4単位必修
	(人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	日本国憲法を含めて2科目4単位を履修すること。
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	(自然科学分野)	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	

	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	1科目2単位必修
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
教職等資格科目	教職教養科目	*教育の原理	2	必修	講義	1	
		*発達と学習	2	必修	講義	1	
		*教育と社会	2	必修	講義	2～4	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目(もしくは区分単位数)である。
2. *印の科目は、教員免許状取得のため、必ず履修しなければならない科目である。
(英語については、必修の英語コミュニケーションⅠのほか、*印の科目から1単位以上(*印、合計2単位以上)履修すること。)
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
教職等資格科目	学芸員科目	生涯学習概論Ⅰ	2		講義	1	
		博物館概論	2		講義	1	
		博物館経営論	2		講義	2	
		博物館資料論Ⅰ	1		講義	2	
		博物館資料論Ⅱ	1		講義	2	
		博物館展示論	2		講義	2	
		博物館情報・メディア論	2		講義	2	
		博物館資料保存論	2		講義	3	
		博物館教育論	2		講義	3	

注意 学芸員資格を取得できる課程(専攻・専修)

学校教育教員養成課程(教育実践学専修、国語教育専修、美術教育専修)

(3)情報学部

(教養科目)

科目 区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修 の別	授業 形態	履修 年次	備 考
基軸教育 科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)
	情報処理	*情報処理	2	選択	演習	1	
	英語	*英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1～2	英語コミュニケーションⅠの単位修得者が履修できる。
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2	TOEIC400点以上取得者が履修できる。
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	
		*英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2	
		*英語インテンシブA	2	選択	演習	1	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		*英語インテンシブB	2	選択	演習	2	
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	クラスごとに履修条件の設定がある。
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		*英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		*英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	必修	演習	1	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。 必修2単位を超える単位は8単位までを教養科目選択の単位として認める。
		初修外国語入門Ⅱ	1	必修	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	2	
	健康体育	*健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	1～3	4単位までを教養科目選択の単位として認める。
		*健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	1～3	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～3	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～3	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1	
現代教養 科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	2分野からそれぞれ2科目合わせて4科目8単位必修 8単位を超える単位は4単位までを教養科目選択の単位として認める。
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	(自然科学分野)	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	

	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	2科目4単位必修 4単位を超える単位は2単位までを教養科目選択の単位として認める。
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。 12単位までを教養科目選択の単位として認める。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
教職等資格科目	教職教養科目	*教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。 6単位までを教養科目選択の単位として認める。
		*発達と学習	2	選択	講義	2～4	
		*教育と社会	2	選択	講義	2～4	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目(もしくは区分単位数)である。
2. *印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。(英語については、必修の英語コミュニケーションⅠのほかに*印の英語の授業科目から1単位以上(*印、合計2単位以上)履修すること。)
3. 学部横断セミナーとして開講する工学部のフィールドワーク科目「ものづくり・理科教育支援」の単位修得をした場合は、学際科目として認定する。
4. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
理系基礎科目		線形代数学Ⅰ	2	科学必修、行動選必	講義	1	科学は情報科学科 行動は行動情報学科
		線形代数学Ⅱ	2	科学必修、行動選必	講義	1	
		微分積分学Ⅰ	2	科学必修、行動選必	講義	1	
		微分積分学Ⅱ	2	科学選必、行動選必	講義	1	
		離散数学	2	科学必修、行動選必	講義	2	
		情報代数及び符号理論	2	科学選必	講義	2	
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	教職入門Ⅰ	1		演習	1	
		教職入門Ⅱ	1		演習	2	
		教育課程の意義と方法	1		講義	3	
		教育の方法及び技術	1		講義	3	
		特別活動論	2		講義	3～4	
		生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む)	2		講義	3	
		教育相談	2		講義	3	
	教職専門科目Ⅱ	情報科教育法Ⅰ	2		講義	3	
		情報科教育法Ⅱ	2		講義	3	
		教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4	
		教育実習	2		実習	4	
		教職実践演習(中・高)	2		演習	4	
	学芸員科目	博物館概論	2		講義	1	
		生涯学習概論	2		講義	2	
		博物館経営論	2		講義	1～2	
		博物館資料論	2		講義	1～2	
		博物館資料保存論	2		講義	1～2	
		博物館展示論	2		講義	1～2	
		博物館教育論	2		講義	1～2	
		博物館情報・メディア論	2		講義	1～2	

(4)理学部

(教養科目)

科目 区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修 の別	授業 形態	履修 年次	備 考
基軸教育 科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)
	情報処理	*情報処理	2	選択	演習	1	学部指定履修科目
	英語	*英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1～2	英語コミュニケーションⅠの単位修得者が履修できる。
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2	TOEIC400点以上取得者が履修できる。
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	
		*英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2	
		*英語インテンシブA	2	選択	演習	1	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		*英語インテンシブB	2	選択	演習	2	
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	クラスごとに履修条件の設定がある。
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		*英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		*英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	必修	演習	1	同一言語を履修すること。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	*健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	1～4	学部指定履修科目
		*健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	1～4	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1	
現代教養 科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	4科目8単位必修
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	2	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	2科目4単位必修
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	

教職等資格科目	教職教養科目	*(中等)教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*(中等)発達と学習	2	選択	講義	2～4	
		*(中等)教育と社会	2	選択	講義	2～4	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目(もしくは区分単位数)である。
2. *印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。(英語については、必修の英語コミュニケーションⅠのほかに*印の英語の授業科目から1単位以上(*印、合計2単位以上)履修すること。)
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
理系基礎科目		数学Ⅰ(微分積分A)	2	PCBG必修	講義	1	Mは数学科 Pは物理学科 Cは化学科 Bは生物科学科 Gは地球科学科
		数学Ⅱ(線形代数A)	2	PCBG必修	講義	1	
		数学Ⅲ(微分積分B)	2	PC必修、 BG選択	講義	1	
		数学Ⅳ(線形代数B)	2	PC必修、 BG選択	講義	1	
		数学Ⅴ(統計)	2	PCBG選択	講義	2	
		数学Ⅵ(微分積分C)	2	PCBG選択	講義	2	
		物理学Ⅰ(力学)	2	MC選択、 BG必修	講義	1	
		物理学Ⅱ(電磁気)	2	MCBG選択	講義	1	
		物理学Ⅲ(現代物理)	2	MCBG選択	講義	2	
		化学Ⅰ(物理化学A)	2	MP選択、 BG必修	講義	1	
		化学Ⅱ(物理化学B)	2	MPBG選択	講義	1	
		化学Ⅲ(有機化学)	2	MPBG選択	講義	2	
		生物学Ⅰ(基礎A)	2	MPC選択、 G必修	講義	1	
		生物学Ⅱ(基礎B)	2	MPCG選択	講義	1	
		地球科学Ⅰ(基礎A)	2	MPC選択、 B必修	講義	1	
		地球科学Ⅱ(基礎B)	2	MPCB選択	講義	1	
		物理学実験	1	P必修、 CBG選択	実験	2	
		化学実験	1	CB必修、 PG選択	実験	1	
		生物学実験	1	B必修、 PCG選択	実験	1～2	
		地学実験	1	G必修、 PCB選択	実験	2	
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	機器分析科学入門Ⅰ	1	PCBG選択	講義	2	
		機器分析科学入門Ⅱ	1	PCBG選択	講義	2	
		(中等)教職入門Ⅰ	1		演習	1	
		(中等)教職入門Ⅱ	1		演習	1	
		教育課程の意義及び編成の方法	1		講義	3	
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	1		講義	3	
		道徳指導論	2		講義	2～3	
		特別活動論	2		講義	3	
		生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む。)	2		講義	3	
		教育相談	2		講義	3	
	教職専門科目Ⅱ	数学科教育法Ⅱ	2		講義	2～3	
		数学科教育法Ⅲ	2		講義	2～3	
		数学科教育法Ⅳ	2		講義	2～3	
		理科教育法Ⅱ	2		講義	2～3	
		理科教育法Ⅲ	2		講義	2～3	
		理科教育法Ⅳ	2		講義	2～3	
		教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4	
		教育実習Ⅱ	2		実習	4	
		教育実習Ⅲ	2		実習	4	
		教職実践演習(中・高)	2		演習	4	
	学芸員科目	生涯学習概論	2		講義	1	
		博物館概論	2		講義	1	
		博物館経営論	2		講義	2	
		博物館資料論Ⅰ	1		講義	2	
		博物館資料論Ⅱ	1		講義	2	
		博物館展示論	2		講義	2	
		博物館情報・メディア論	2		講義	2	
		博物館資料保存論	2		講義	3	
		博物館教育論	2		講義	3	
		博物館実習Ⅰ	1		実習	2～4	
		博物館実習Ⅱ	2		実習	2～4	

(5)工学部

(教養科目)

科目 区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修 の別	授業 形態	履修 年次	備 考
基軸教育 科目	新入生セミナー	新入生セミナー	1	必修	演習	1	
	情報処理	*情報処理	2	必修	演習	1	
	英語	*英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	1～2	TOEIC400点以上取得者が履修できる。
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	
		*英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2	
		*英語インテンシブA	2	選択	演習	1	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		*英語インテンシブB	2	選択	演習	2	
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	必修	演習	3	クラスごとに履修条件の設定がある。
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		*英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		*英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	2	※「世界のことばと文化」の単位修得者が履修できる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	3	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	4	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	4	
	健康体育	*健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	3～4	
		*健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	3～4	
	フィールドワーク	工学基礎実習	1	必修	実習	1	
		創造教育実習	1	必修	実習	1	
		ものづくり・理科教育支援	2	選択	演習	2～3	学部横断セミナーとして開講する。
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	2	
現代教養 科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	〈人文・社会分野〉の科目から4科目8単位必修8単位を超える単位は分野を問わず4単位まで卒業単位として認める。 左記の授業科目一覧に記載のない授業科目は履修できない。
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		世界のことばと文化	2	選択必修	講義	1	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	〈自然科学分野〉	数理の構造	2	選択	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択	講義	1～3	
		生命科学	2	選択	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択	講義	1～3	
		地球科学	2	選択	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択	講義	1～3	

	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	1科目2単位必修。2単位を超える単位は6単位まで卒業単位として認める。
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～3	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
教職資格科目	教職教養科目	*教育の原理	2	選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
		*発達と学習	2	選択	講義	2～4	

注意

- *印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。(英語については、必修の英語コミュニケーションⅠのほかに*印の英語の授業科目から1単位以上(*印、合計2単位以上)履修すること。)
- 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
理系基礎科目		微分積分学Ⅰ	2	MEDCS必修	講義	1	Mは機械工学科 Eは電気電子工学科 Dは電子物質科学科 Cは化学バイオ工学科 Sは数理システム工学科
		微分積分学Ⅱおよび演習	3	MEDCS必修	講義・演習	1	
		線形代数学Ⅰおよび演習	3	MEDCS必修	講義・演習	1	
		線形代数学Ⅱ	2	MEDCS必修	講義	1	
		力学・波動Ⅰ	2	MEDCS必修	講義	1	
		力学・波動Ⅱ	2	MEDCS必修	講義	1	
		電磁気学	2	MC(環境)必修 S選択	講義	2	
		現代物理	2	MED必修	講義	2	
		熱統計力学	2	EC(環境)必修 S選択	講義	2	
		工学基礎化学Ⅰ	2	MEDCS必修	講義	1	
		工学基礎化学Ⅱ	2	MEDCS必修	講義	1	
		基礎無機化学	2	D必修	講義	1	
		生物学Ⅰ	2	C(バイオ)必修 S選択	講義	2	
		生物学Ⅱ	2	C(バイオ)必修 S選択	講義	2	
		物理・化学実験	1	MEDC(環境) S必修	実験	2	
		化学・生物実験	1	C(バイオ)必修	実験	2	
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	教職入門Ⅰ	1		演習	1	
		教職入門Ⅱ	1		演習	2	
		教育と社会	2		講義	2～4	
		教育課程の意義と方法	1		講義	3～4	
		教育の方法及び技術	1		講義	3～4	
		特別活動論	2		講義	3～4	
		生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む)	2		講義	3～4	
		教育相談	2		講義	3～4	
	教職専門科目Ⅱ	工業科教育法Ⅰ	2		講義	3～4	
		工業科教育法Ⅱ	2		講義	3～4	
		数学科教育法Ⅲ	2		講義	2～3	
		数学科教育法Ⅳ	2		講義	2～3	
		教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4	
		教育実習	2		実習	4	
		教職実践演習(中・高)	2		演習	4	

(6)農学部

(教養科目)

科目 区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修 の別	授業 形態	履修 年次	備 考
基軸教育 科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)
	情報処理	*情報処理	2	選択	演習	1	学部指定履修科目
	英語	*英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2	
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	
		*英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2	
		*英語インテンシブA	2	選択	演習	1	
		*英語インテンシブB	2	選択	演習	2	
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		*英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		*英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	必修	演習	1	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	*健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	1～4	
		*健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	1～4	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～4	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～4	
	フィールドワーク	フィールド科学演習Ⅰ	2	選択	演習	1	学部指定履修科目
		フィールド科学演習Ⅱ	1	選択	演習	1	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1	
現代教養 科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	4科目8単位必修 ただし、(人文・社会分野)の科目から3科目6単位以上履修すること。
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	2	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	〈自然科学分野〉	数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	2科目4単位必修

留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	教員免許状取得希望者のみ履修できる。
教職等資格科目	教職教養科目	*(中等)教育の原理	2	選択	講義	2～4	
		*(中等)発達と学習	2	選択	講義	2～4	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目(もしくは区分単位数)である。
2. *印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。(英語については、必修の英語コミュニケーションⅠのほかに*印の英語の授業科目から1単位以上(*印、合計2単位以上)履修すること。)
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
理系基礎科目		数学概論A	2	Br必修	講義	1	Brは生物資源科学科、Alは応用生命科学科
		数学概論B	2	Br必修	講義	1	
		数学概論	2	Al必修	講義	1	
		統計学	2	Al必修	講義	1	
		物理学概論A	2	Br必修	講義	1	
		物理学概論B	2	Br必修	講義	1	
		物理学概論	1	Al必修	講義	1	
		化学概論A	2	Br必修	講義	1	
		化学概論B	2	Br必修	講義	1	
		化学概論	1	Al必修	講義	1	
		物理化学1A	1	Al必修	講義	1	
		物理化学2A	1	Al必修	講義	1	
		物理化学1B	2	Al必修	講義	1	
		物理化学2B	2	Al必修	講義	1	
		生物学概論A	2	Br必修	講義	1	
		生物学概論B	2	Br必修	講義	1	
		生物学A	2	Al必修	講義	1	
		生物学B	2	Al必修	講義	1	
		物理学実験	1	Br選択	実験	1	木質科学コースのみ必修とする。
		化学実験	1	BrAl必修	実験	1	
		生物学実験	1	BrAl必修	実験	1	
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	(中等)教職入門Ⅰ	1		講義	1	
		(中等)教職入門Ⅱ	1		講義	1	
		(中等)教育と社会	2		講義	3～4	
		教育課程の意義と編成の方法	1		講義	3～4	
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	1		講義	3～4	
		特別活動論	2		講義	3～4	
		生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む。)	2		講義	3～4	
		教育相談	2		講義	3～4	
	教職専門科目Ⅱ	理科教育法Ⅲ	2		講義	2～3	
		理科教育法Ⅳ	2		講義	2～3	
		農業科教育法Ⅰ	2		講義	2～3	
		農業科教育法Ⅱ	2		講義	2～3	
		教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4	
		教育実習Ⅱ	2		実習	4	
		教職実践演習(中・高)	2		演習	4	

(7)地域創造学環(教育プログラム)

(教養科目)

科目 区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修 の別	授業 形態	履修 年次	備 考
基軸教育 科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)
	情報処理	*情報処理	2	選択	演習	1	学部指定履修科目
	英語	*英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2	
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	
		*英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2	
		*英語インテンシブA	2	選択	演習	1	
		*英語インテンシブB	2	選択	演習	2	
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		*英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		*英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	必修	演習	1	初修外国語入門Ⅱは学部指定履修科目とし、初修外国語入門Ⅰと併せて同一言語を履修すること。異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	*健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	1～3	
		*健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	1～3	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～3	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～3	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1	
現代教養 科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	3科目6単位必修 ただし、地域環境・防災コース履修の学生は地球科学を除く。
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	2	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	(自然科学分野)	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	
	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	1科目2単位必修 ただし、履修コースの学環指定科目(教養科目)の学際科目を除く。

	「生命・人間(文化・芸術を含む)」						
	「科学・技術」						
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
教職等資格科目	教職教養科目	* (中等) 教育の原理	2	MI選択	講義	2～4	教員免許状取得希望者のみ履修できる。 Mは地域経営コース Iは地域共生コース Eは地域環境・防災コース Aはアート&マネジメントコース Sはスポーツプロモーションコース
		* (中等) 発達と学習	2	MI選択	講義	2～4	
		* (中等) 教育と社会	2	MI選択	講義	2～4	
		* 教育の原理	2	EAS選択	講義	1	
		* 発達と学習	2	EAS選択	講義	1	
		* 教育と社会	2	EAS選択	講義	2～4	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目(もしくは区分単位数)である。
2. *印の科目は、教員免許状取得希望学生が必ず履修しなければならない科目である。(英語については、必修の英語コミュニケーションⅠのほか、*印の英語の授業科目から1単位以上(*印、合計2単位以上)履修すること。)
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。

(学環指定科目(教養科目))

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
基軸教育科目	フィールドワーク	フィールドワークⅠ	1	必修	実習	1	
		フィールドワークⅡA	1	必修	実習	2	
		フィールドワークⅡB	1	必修	実習	2	
		フィールドワークⅢA	1	必修	実習	3	
		フィールドワークⅢB	1	必修	実習	3	
		地域創造演習Ⅰ	2	必修	演習	1	
		地域創造演習ⅡA	2	必修	演習	2	
		地域創造演習ⅡB	2	必修	演習	2	
		地域創造演習ⅢA	2	必修	演習	3	
		地域創造演習ⅢB	2	必修	演習	3	
		地域創造演習ⅣA	3	必修	演習	4	
		地域創造演習ⅣB	3	必修	演習	4	
現代教養科目	個別分野科目 (自然科学分野)	※地球科学	2	E選択必修	講義	1～3	Mは地域経営コース Iは地域共生コース
	学際科目	地域創造概論	2	必修	講義	1	Eは地域環境・防災コース Aはアート&マネジメントコース Sはスポーツプロモーションコース
		地域づくりの課題Ⅰ	2	選択必修	講義	1	
		地域づくりの課題Ⅱ	2	選択必修	講義	1	
		プレゼンテーション入門	2	選択必修	講義	1	
		ファシリテーション入門	2	選択必修	講義	1	
		地域創造特論Ⅰ	2	選択必修	講義	2～4	
		地域創造特論Ⅱ	2	選択必修	講義	2～4	
		地域創造特論Ⅲ	2	選択必修	講義	2～4	
		地域創造特論Ⅳ	2	選択必修	講義	2～4	
		地域創造特論Ⅴ	2	選択必修	講義	2～4	
		※社会資本マネジメント論	2	M選択必修	講義	2～4	
		文化政策論	2	MA選択必修	講義	2～4	
		※NPO・ボランティア論	2	MI選択必修	講義	2～4	
		実践からの防災行政論	2	E選択必修	講義	1～3	
		※公共施設デザイン論	2	E選択必修	講義	2～3	
		※地域社会と災害	2	E選択必修	講義	2～3	
		※地震防災	2	E選択必修	講義	2～3	
		※災害時におけるリスク危機マネジメント	2	E選択必修	講義	2～3	
		※静岡県の防災・減災と原子力	2	E選択必修	講義	2～3	
		スポーツプロモーション論	2	S選択必修	講義	1	
		ヘルスプロモーション論	2	S選択必修	講義	1	
		スポーツマネジメント論	2	S選択必修	講義	1	
		フィジカルフィットネス論	2	S選択必修	講義	1	
		地域創造インターンシップⅠ	2	選択必修	実習	2～4	
		地域創造インターンシップⅡ	2	選択必修	実習	2～4	

注意

1. 学環指定科目の詳細については、地域創造学環規則を参照すること。
2. 学環指定科目(教養科目)のうち、履修コース以外の科目を修得した場合は、履修年次にかかわらず通常の教養科目として認定される。
3. ※印の授業科目は、全学部生を対象として開講している科目である。

(専門科目)

科目 区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修 の別	授業 形態	履修 年次	備 考
教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ	(中等)教職入門Ⅰ	1		演習	1	
		(中等)教職入門Ⅱ	1		演習	1	
		教育課程の意義及び編成の方法	1		講義	3	
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	1		講義	3	
		道德指導論	2		講義	2～3	
		特別活動論	2		講義	3	
		生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む。)	2		講義	3	
		教育相談	2		講義	3	
	教職専門科目Ⅱ	社会科教育法Ⅱ	2		講義	2	
		社会科教育法Ⅲ(地歴)	2		講義	2	
		社会科教育法Ⅳ(公民)	2		講義	2	
		教育実習事前・事後指導	1		演習	3～4	
		教育実習Ⅱ	2		実習	4	
		教育実習Ⅲ	2		実習	4	
	学芸員科目	教職実践演習(中・高)	2		演習	4	
		生涯学習概論Ⅰ	2		講義	1	
		博物館概論	2		講義	1	
		博物館経営論	2		講義	2	
		博物館資料論Ⅰ	1		講義	2	
		博物館資料論Ⅱ	1		講義	2	
		博物館展示論	2		講義	2	
		博物館情報・メディア論	2		講義	2	
		博物館資料保存論	2		講義	3	
		博物館教育論	2		講義	3	

6 各学部の教養科目必要単位数

(1)人文社会科学部)

学科区分				社会学科	言語文化 学科	法学科	経済学科	備 考	
科目区分									
教 養 科 目	必 修	基 軸 教 育 目 的	英語	2	2	2	2		
			初修外国語	2	2	2	2		
		現 代 教 養 目 的	個別分野科目	6	6	6	6		
			学際科目	2	2	2	2		
		小 計			12	12	12		12
	選 択	(学 部 指 定 履 修 目 的 目 的)	英語	2	2	2	2		
			初修外国語	4	4	4	4		
			新入生セミナー	2	2	2	2		
			情報処理	2	2	2	2		
		その他			6	6	6		6
		小 計			16	16	16		16
	合 計			28	28	28	28		
科 専 目 門	合 計			76	66	70	78	(専門科目の詳細は学部規則を参照)	
科 自 目 由	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			20	30	26	18	(専門科目の詳細は学部規則を参照)	
合 計(卒業単位数)				124	124	124	124		

人文社会科学部夜間主コース

学科区分				法学科	経済学科	備 考
科目区分						
教 養 科 目	必 修	基 軸 科 目	英語	2	2	
			初修外国語	4	4	
		現 代 科 目	個別分野科目	6	6	
			学際科目	2	2	
		小 計		14	14	
	選 択	基 軸 （学 部 指 定 履 修 目 的 科 目	新入生セミナー	2	2	
			情報処理	2	2	
		その他		6	6	
		小 計		10	10	
	合 計			24	24	
科 専 目 門	合 計			66	66	(専門科目の詳細は学部規則を参照)
科 自 目 由	法学科・経済学科で開講する専門科目			34	34	(専門科目の詳細は学部規則を参照)
合 計(卒業単位数)				124	124	

(2)教育学部

学科区分 科目区分				学校教育教員養成課程	備 考	
教 養 科 目	必 修	基 軸 教 育 科 目	英語	3		
			初修外国語	1		
			情報処理	2		
			健康体育	2		
		現 代 教 養 科 目	個別分野科目	4		
			学際科目	2		
		資 格 教 職 等 科 目	教職教養科目	6		
		小 計		20		
	選 択	(学部指定履修科目) 基 軸 教 育 科 目	初修外国語	1		
			新入生セミナー	2		
		その他		0		
		小 計		3		
	合 計			23		
専 門 科 目	合 計			90	(専門科目の詳細は学部規則を参照)	
自 由 科 目	教育学部の専門科目、及び教養科目で各々の必要単位数を超えた単位数、並びに地域創造学環の授業科目の単位数			11		
合 計(卒業単位数)				124		

(3)情報学部

科目区分				学科区分	情報科学科	行動情報学科	情報社会学科	備 考
教 養 科 目	必 修	基 軸 科 目 教 育	英語	2	2	2		
			初修外国語	2	2	2		
		現 代 科 目 教 養	個別分野科目	8	8	8		
			学際科目	4	4	4		
		小 計			16	16		16
	選 択	(学部指定履修科目) 基軸教育科目	英語	2	2	2	選択科目の範囲 新入生セミナー 0～2単位 情報処理 0～2単位 英語 0～8単位 初修外国語 0～8単位 健康体育 0～4単位 キャリア形成科目 0～2単位 個別分野科目 0～4単位 学際科目 0～2単位 留学生科目 0～12単位	
			新入生セミナー	2	2	2		
		その他			12	12		12
		小 計			16	16		16
		合 計			32	32		32
専 門 科 目	必 修 科 目			86～92	86～92	86～92	(専門科目の詳細は学部規則を参照) ただし、行動情報学科は(2)の科目は認めない。	
	選 択 科 目							
	そ 他	(1) 他大学、他学部、他学科の専門科目 (2) 教養科目の語学系科目で必要単位数を超えた科目		0～6	0～6	0～6		
合 計(卒業単位数)				124	124	124		

(4)理学部

科目区分 \ 学科区分				数学科	物理学科	化学科	生物科学科	地球科学科	備 考	
教 養 科 目	必 修	基 軸 教 育 科 目	英語	2	2	2	2	2		
			初修外国語	1	1	1	1	1		
		現 代 教 養 科 目	個別分野科目	8	8	8	8	8		
			学際科目	4	4	4	4	4		
		小 計			15	15	15	15		15
	選 択	(学 部 指 定 履 修 科 目)	英語	2	2	2	2	2		
			新入生セミナー	2	2	2	2	2		
			情報処理	2	2	2	2	2		
			健康体育	2	2	2	2	2		
		その他			4	4	4	4		4
		小 計			12	12	12	12		12
	合 計			27	27	27	27	27		
専 門 科 目	合 計			82	85	80	83	86	(専門科目の詳細は 学部規則を参照)	
自 由 科 目	他学部・他学科専門科目を含む専門 科目、及び教養科目で必要単位数を 超えた単位数			15	12	17	14	11		
合 計(卒業単位数)				124	124	124	124	124		

理学部(創造理学(グローバル人材育成)コース)

科目区分				学科区分	数学科	物理学科	化学科	生物科学科	地球科学科	備 考
教 養 科 目	必 修	基 軸 教 育 科 目	英語	2	2	2	2	2		
			初修外国語	1	1	1	1	1		
		現 代 教 養 科 目	個別分野科目	8	8	8	8	8		
			学際科目	4	4	4	4	4		
		小 計			15	15	15	15		15
	選 択	(学 部 基 軸 指 定 履 修 科 目)	英語	2	2	2	2	2		
			新入生セミナー	2	2	2	2	2		
			情報処理	2	2	2	2	2		
			健康体育	2	2	2	2	2		
		その他			4	4	4	4		4
		小 計			12	12	12	12		12
	合 計			27	27	27	27	27		
専 門 科 目	合 計			92	95	90	93	94	(専門科目の詳細は学部規則を参照)	
自 由 科 目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、創造理学コース科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			5	2	7	4	3		
合 計(卒業単位数)				124	124	124	124	124		

(5)工学部

学科区分 科目区分				機械工学科	電気電子 工学科	電子物質 科学科	化学バイオ 工学科	数理システ ム工学科	備 考
教 養 科 目	必 修	基 軸 教 育 科 目	英語	4	4	4	4	4	
			新入生セミナー	1	1	1	1	1	
			情報処理	2	2	2	2	2	
			フィールドワーク	2	2	2	2	2	
			キャリア形成科目	1	1	1	1	1	
		現 代 教 養 科 目	個別分野科目	8	8	8	8	8	
			学際科目	2	2	2	2	2	
			小 計	20	20	20	20	20	
	選 択	小 計		6	6	6	6	6	(注) 学科ごとの履修条件は 下段参照
	合 計			26	26	26	26	26	
専 門 科 目	合 計			98	98	98	100	96	(専門科目の詳細は学部 規則を参照)
自 由 科 目	教養科目,学部専門科目で必要単位 数を超えた単位数			2	2	2	0	4	
合 計(卒業単位数)				126	126	126	126	126	

(注)

機械工学科

個別分野科目(人文・社会分野)1科目および外国語(英語あるいは初修外国語)2科目を含むこと。
ただし、外国語は英語2科目を強く勧める。

電子物質科学科・化学バイオ工学科

個別の人文・社会科目、英語、初修外国語から少なくとも2科目以上を含むこと。ただし、英語2科目を強く勧める。

電気電子工学科・数理システム工学科

英語2科目を含むことを強く勧める。

(6)農学部

科目区分				学科区分	生物資源科学科	応用生命科学科	備 考
教 養 科 目	必 修	基軸教育科目	英語	2	2		
			初修外国語	1	1		
		現代教養科目	個別分野科目	8	8		
			学際科目	4	4		
		小 計			15		15
	選 択	(学部基軸指定履修科目)	英語	1	1		
			新入生セミナー	2	2		
			情報処理	2	2		
			フィールドワーク	3	3		
		その他			8		8
		小 計			16		16
	合 計			31	31		
専 門 科 目	合 計			73	81	(専門科目の詳細は学部規則を参照)	
自 由 科 目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			20	12		
合 計(卒業単位数)				124	124		

(7)地域創造学環(教育プログラム)

科目区分				学科区分	地域経営 コース	地域共生 コース	地域環境・防 災コース	アート&マネ ジメントコース	スポーツプロ モーションコー ス	備 考
教 養 科 目	必 修	基 軸 教 育 科 目	英語	2	2	2	2	2		
			初修外国語	1	1	1	1	1		
		現 代 教 養 科 目	個別分野科目	6	6	6	6	6		
			学際科目	2	2	2	2	2		
		小 計			11	11	11	11		11
	選 択	(学 部 指 定 履 修 科 目)	英語	2	2	2	2	2		
			初修外国語	1	1	1	1	1		
			新入生セミナー	2	2	2	2	2		
			情報処理	2	2	2	2	2		
		その他			10	10	10	10		10
		小 計			17	17	17	17		17
	合 計				28	28	28	28	28	
学 環 指 定 科	合 計			51	51	51	51	51	(学環指定科目の詳細は学環規則を参照)	
自 由 選 択 科 目	学環指定科目、各学部専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			45	45	45	45	45		
合 計(卒業単位数)				124	124	124	124	124		

7 全学教育科目の性格と履修方法

＜教養科目＞

(1) 基軸教育科目

この科目群に設定されている科目は、在学中や卒業後に必須となる基本的スキル・素養・実践力を身につけるための科目です。この科目群の内、「新入生セミナー」、「情報処理」、「英語」、「初修外国語」、「健康体育」は、1 年次から（ただし、工学部生は初修外国語 2 年次から、健康体育 3 年次から）履修するように開講クラスを用意します。

① 新入生セミナー

大学生活と大学における学問・研究の基本的な進め方を体得することを目的として、1 年次前期に 1 クラス 15 人を目安として開講します。大学への導入・転換を目的としていますので特別な許可のない限り、1 年次前期のみの履修となります。2 年次以降は、必修科目となっている工学部生以外は履修できませんので注意してください。

なお、工学部「新入生セミナー」は他学科クラスでの履修（再履修を含む。）はできません。

② 情報処理

高度に情報化された社会の中で自立的で正確な対応ができる情報処理の能力を体得させることを目的とします。情報機器数に応じてクラスサイズを決定します。

③ 英語

英語のコミュニケーション能力と専門的な学習に必要な基礎力を養うため、必修科目に加えて、英語力のレベルと学習意欲の多様性に対応した多彩な選択科目を用意しています。履修方法は、p. 40 を参照してください。

④ 初修外国語

幅広い国際性と外国語コミュニケーション能力を備えるため、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、現代韓国語、ポルトガル語のコースを開講します（ロシア語は静岡キャンパスのみ、ポルトガル語は浜松キャンパスのみ）。1 クラスの人数は 40 名を目安として開講します。履修の方法は p. 46 を参照してください。

⑤ 健康体育

運動と健康などとの関係をより深く理解し、健康な生活を送る方法を身につけるとともに、豊かな生活を送るためのスポーツ技術を修得するため、1 クラス 40 名を目安として工学部以外の学生には 1 年次から開講します。「健康体育」は、学部によっては選択科目ですが、健康な大学生活への導入と基本スキルの獲得を目的としていますので、1 年次開講の「健康体育」は特殊な事情がない限り履修することを薦めます。

履修の方法は p. 46 を参照してください。

⑥ フィールドワーク

農学部では、講義形式の座学にとらわれず、地域をキャンパスに見立てて実社会の様々な人々との連携・交流を重視する科目として 1 年次に開講します。

工学部では、ものづくりの基礎を実習することを主目的として 1～3 年次に開講します。1 クラスの履修人数は授業形態により違いますので、特に定めません。

地域創造学環では、学環指定科目として 1～4 年次に開講します。

⑦ キャリア形成科目

職業意識や人生設計への問題意識を喚起するための講義科目です。4 年間の学生生活をどのように過ごしていくのか、将来を見据えながら考えていく科目です。

工学部は2年次必修となっています。他学科クラスでの履修（再履修含む。）はできません。

(2) 現代教養科目

広い意味の教養（問題発見・解決能力・視野の広さ・思考の柔軟性・問題意識の高さ等）を身につけるための科目群です。1クラス120人を目安（履修希望者が多数の場合にはこの限りではない）として開講します。

① 個別分野科目

各専門分野と有機的に関連させて幅広い教養の習得をめざし、自らの専門を超えた学問分野への関心を喚起するための科目で、1～3年次（農学部生は2～3年次）に履修します。文系学生は理系科目、理系学生は文系科目を重点的に履修する「たすきがけ・クロス履修」のシステムが設定されています。

教育学部生は、文系・理系科目をバランス良く履修することが望まれます。

工学部生にのみ1年次後期に開講される「世界のことばと文化」は、2年次からの初修外国語履修の準備科目（履修条件）として開講します。初修外国語の履修を予定せずに、単純に個別分野科目としても履修できます。

なお、人文社会科学部生が人文・社会分野の「日本国憲法」を履修した場合、教養科目の選択科目として扱われます。

② 学際科目

広く現代が提起している諸課題への問題意識を明確にし、広い視野から柔軟な思考力にもとづいて問題を発見・分析できる能力を育てるとともに、分野横断かつ学際的・複合領域にわたる知識をもとに、総合的に問題を解決しうる資質を身につけるための科目で、2～3年次に履修します。5つのテーマ群が設定され、各年度の初めに授業科目が発表されます。（学環指定科目を除く。なお、「※」の付されていない学環指定科目（p.19 参照）を地域創造学環以外の学生が履修した場合は、必修の学際科目ではなく、教養科目選択として取り扱われます。）

なお、演習形式の小人数クラスも開講されます。

(3) 留学生科目

① 日本語・日本事情

外国人留学生（国費外国人留学生、外国政府派遣留学生、ABP留学生及び私費外国人留学生）のために開講される科目です。日本語の単位は英語、初修外国語、現代教養科目のいずれかに、日本事情の単位は現代教養科目に振り替えることができます。1クラスの人数は当該年度の留学生等の数により異なります。「各学部の教養科目必要単位数」（p. 21からp. 28 ※ABP留学生コースはp. 95からp. 100）とp. 47 を参照してください。

(4) 教職等資格科目

① 教職教養科目

教員免許を取得するための科目で、教育学部学校教員養成課程の学生は1・2年次必修です。同課程以外の学生は、免許の取得を希望する人だけが履修できます。1クラスの人数は特に定めません。

＜専門科目＞

(1) 教職等資格科目

教職等の資格を取るための科目で、全学共通の科目だけが全学教育科目として開講されます。これらの科目は、資格取得を希望する者が履修できます。1 クラスの人数は特に定めません。

それぞれの資格を取得するためには、この他にも学部専門で開講される科目の履修が必要です。各学部の「学生便覧」と「時間割」を参照してください。

① 教職専門科目Ⅰ、教職専門科目Ⅱ

教員免許を取得するための科目で、教育学部学校教員養成課程の学生に対しては学部専門科目として1年次から開講されます。「教育学部学生便覧」と「教育学部時間割」を参照してください。教育学部以外の免許取得希望者は全学教育科目の専門科目として1年次から履修できます。

② 学芸員科目

学芸員の資格を取得するための科目で、資格取得希望者は1年次から履修できます。

(2) 理系基礎科目

理系専門教育のための基礎知識と理系分野における教養を習得するための科目です。この目的から情（情報科学科、行動情報学科）・理・工・農学部の学生を対象に1～2年次で開講されます。詳細は各学部の「学生便覧」を参照してください。

＜自由科目＞

上記の＜教養科目＞について各学部で履修すべき最低単位数（必修及び選択の合計）が定められていますが、＜自由科目＞単位数の枠内であれば、この最低単位数を越えて履修した＜教養科目＞を卒業単位数のなかに算入することができます。例えば人文社会科学部社会学科について言えば、外国語科目を中心的に履修したい場合、これを学科で定めた20単位すべてにあてるとも可能です。また外国語科目に限らず、この＜自由科目＞の単位数に現代教養科目等、他の＜教養科目＞をあてることもできます。（＜自由科目＞の単位数は各学部・学科によって異なる。情報学部には自由科目はない。）

なお、この＜自由科目＞の単位数に所属学部及び他学部等の専門科目をあてることも可能であり、＜教養科目＞よりも専門科目を中心に履修することを希望する場合には、そのような履修計画を立てるようにして下さい（＜自由科目＞に算入できる専門科目については、一部制限があるので、各学部の便覧を参照）。

8 授業時間割枠

各学部の時間割枠は次ページからの表のとおりです。学部ごとに指定された時間割枠で履修することになっています。原則として指定された時間割枠以外では履修できませんが、3年次以降は、授業の定員に対して履修学生数に余裕がある場合、履修を認められます。

平成29年度全学教育科目授業時間割枠

○＝前期

△＝後期

人文社会科学部 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語	○情報処理(経)	○△初修外国語		○セミナー(経)
火		○△英語	○△健康体育(社言法)	○セミナー(言法) ○△健康体育(経)	
水	○キャリア形成科目 △個別分野科目		○△初修外国語	○セミナー(社法) ○情報処理(言経)	△キャリア形成科目
木			○△日本語 △学芸員科目 △基礎英語演習(補習)		
金	○情報処理(法)		○△英語 △基礎英語演習	○情報処理(社言)	○学芸員科目

教育学部 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語	○△初修外国語	○△健康体育	○セミナー ○情報処理	
火	○△英語		○セミナー ○情報処理	○セミナー ○情報処理	
水	○キャリア形成科目 △個別分野(日本国憲法)	○△教職教養科目			△キャリア形成科目
木			○△日本語 △学芸員科目 △基礎英語演習(補習)		
金		○△英語 △基礎英語演習		○学芸員科目	

理学部 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語	○△初修外国語	○セミナー(P) ○情報処理(MCBS)	○△理系基礎科目	
火	○△理系基礎科目	○△英語	△理系基礎科目	○△理系基礎科目	○理系基礎科目
水	○セミナー(MCBS) ○情報処理(PG) △個別分野科目	○△健康体育	○セミナー(G) △理系基礎科目	○キャリア形成科目 △理系基礎科目	△キャリア形成科目
木	○△理系基礎科目	○△理系基礎科目	○△日本語 △基礎英語演習(補習)		
金	○△理系基礎科目	○△理系基礎科目	○△英語 △基礎英語演習		○学芸員科目

農学部 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△日本語	○△初修外国語	○△フィールドワーク ○△理系基礎科目	○△フィールドワーク ○△理系基礎科目	
火	○△英語	○セミナー	○△理系基礎科目	○△理系基礎科目	
水		○△理系基礎科目	○△健康体育	○理系基礎科目	△キャリア形成科目
木	○情報処理 △理系基礎科目	○△理系基礎科目	○△日本語 △基礎英語演習(補習)		
金	○△理系基礎科目	○△英語 △基礎英語演習	○理系基礎科目	○理系基礎科目	○理系基礎科目

地域創造学環 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月		○△初修外国語	○セミナー	○情報処理	
火	○△英語				
水	○キャリア形成科目 △個別分野科目	○△教職教養科目	○△健康体育		△キャリア形成科目
木			△学芸員科目 △基礎英語演習(補習)		
金		○△英語 △基礎英語演習		○学芸員科目	

情報学部 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○△学芸員科目 ○日本語				△理系基礎科目
火	○学芸員科目 △情報処理	○セミナー △個別分野科目 △日本語	○△初修外国語	○△英語	
水	△学芸員科目	○△英語 △基礎英語演習	○△健康体育(行・社)	○△健康体育(科)	○日本事情
木				○△日本語 △基礎英語演習(補習)	
金	○理系基礎科目		○△初修外国語	○セミナー	○△理系基礎科目

工学部 1年次生

	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
月	○日本語 ○セミナー(E) △理系基礎科目	○情報処理(M) ○△理系基礎科目	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク ○△英語	○△英語
火	○セミナー(C) ○情報処理(C)	○セミナー(MDCS) ○情報処理(C) △個別分野科目 △日本語	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△英語
水	○△英語 △基礎英語演習	○△英語 △基礎英語演習	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○日本事情
木	○セミナー(E) ○情報処理(D) ○△理系基礎科目	○情報処理(E) ○△理系基礎科目	○セミナー(E)	○△日本語 △基礎英語演習(補習)	
金		○情報処理(MS) △理系基礎科目	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	○△理系基礎科目 ○△フィールドワーク	

9 履修の手続き

(1) 履修計画の立て方

- (a) まず、p. 32 から p. 33 の「授業時間割枠」で、開講されている全学教育科目の種類を確認します。
- (b) 選択必修と選択科目については、選択する授業を以下の手順に従って決める必要があります。
 - 1) 別冊子『2017（平成29年度）全学教育科目 授業時間割』を使って、それぞれの時間にどのような科目を履修できるかを確認します。
注）対象となっている学部・学年・前学期・後学期などに注意します。
 - 2) ウェブサイト『静岡大学 学務情報システム シラバス検索』（<http://syllabus.shizuoka.ac.jp/>）を参照して、第一回授業の前までに第一希望、第二希望、・・・と希望授業を絞り込んでおきます。
注1）選択単位は開講されているすべての科目を履修できるとは限りません。
- (c) 授業を履修する際は、その他に以下のような注意事項があります。
 - 1) 授業科目名が同じものを2科目以上修得しても、卒業必要単位としては1科目しか認められません。また、合格済の科目は再度履修することができず、当初の評価を上げることはできません。
 - 2) 同一年度・学期に同一の授業科目を2クラス以上履修登録することはできません。
 - 3) 上位学年の時間割枠に開講されている科目は、履修できません。

(2) 履修の手続き

必修、選択必修、選択科目に限らず、履修する科目が決まったら、以下の一連の手続きを行うことによって履修手続きが終了し、成績評価を受けることができます。

(a) 履修クラス決定の手続き

- 1) 履修手続きの方法は科目によって異なります。「授業開始前にクラス指定されるもの」と「第一回授業前に抽選されるもの」と「第一回授業時に決定されるもの」とがあります。
(→ p. 38 「履修決定について」)
- 2) 「授業開始前にクラス指定されるもの」に関しては、指定されたクラスを掲示板(→ p. 80 から p. 81)や学務情報システム授業時間割などで確認しておきます。
- 3) 「第一回授業前に抽選されるもの」に関しては、学務情報システムを活用した Web 抽選が行われます。登録の方法は抽選登録に関する掲示を参照してください。
- 4) 「第一回授業時に決定されるもの」に関しては、履修希望者が多数の場合には抽選が行われます。
(→ p. 39 「教室で抽選する授業の履修手続き」)

(b) 学務情報システムへの履修登録

- 1) 履修が認められた全学教育科目と学部専門科目を指定された日までに、学務情報システムに履修登録してください。すでに登録済みの科目もありますが、間違いがないか確認してください。
(→ p. 48 「学務情報システムの利用について」)
- 2) 履修登録する科目の単位数の合計は各学期24単位を越えることはできません(通年科目は2分の1の単位数とする／集中講義及び各学部で指定する教職等資格科目(例：卒業単位にならない資格科目)を除く)。ただし、直前学期のGPA(後述)の値が2.0以上の場合は26単位まで、また2.5以上の場合は28単位まで登録できます。教育学部は、それぞれ2単位多い26単位、28単位、30単位まで登録可能です。
- 3) 履修登録に誤りがあると成績評価が得られないことになります。

＊なお、後学期からは、「英語」「個別分野科目」「学際科目」「キャリアデザイン」については、学務情報システムでの抽選登録を実施します。日程等の詳細は7月頃に掲示します。

(c) 試験

- 1) 「定期試験」・・・前学期・後学期の終わりには「定期試験」の期間が設けられます。
注 1) 「定期試験」の時間割は、通常授業の時間帯に行われるとは限りません。
試験期間の時間割は、1週間前までに掲示されます。
注 2) 出席状況が悪い場合には、受験資格を失う場合もあります。
- 2) 「追試験」・・・次の理由のいずれかに該当して受験ができなかった場合には、試験日から1週間以内に「追試験」を静岡キャンパスは教務課教務係、浜松キャンパスは浜松教務課共通教育係に願い出ることができます。(ただし、原則として事前に前述の係に連絡すること。) 追試験の許可者および日程等は掲示等で通知します。
理由 1) 病気または怪我
(試験当日の容態についての診断書等が必要。)
理由 2) 忌引 1 親等・2 親等の親族の死亡日から1週間以内の場合
(会葬の礼状等、事由を証明できる資料が必要)
理由 3) その他、緊急な事由として大学教育センターが認めたもの
(事由を証明できるものが必要)
- 3) 「再試験」・・・「定期試験」または「追試験」を受験したが不合格(「不可」)になった場合、担当教員の判断により「再試験」を行う場合があります。再試験の許可者および日程等は掲示で通知します。ただし、再試験に合格した場合の成績はすべて「可」となります。

＊ 試験における注意事項

- 注 1) 試験の際は、学生証を机の上に提示し、携帯電話等(スマートウォッチ等のウェアラブル端末を含む)は電源を切りカバンへ入れる。
- 注 2) 試験において不正行為が行われた場合は、当該学期の授業科目の履修をすべて無効とするなど規則によって処分されます。
- 注 3) 単位レポート等において Web サイトからのコピー・ペーストや、他人の作成した著作物の丸写しや無断引用及びレポートの代筆等の不正行為が行われた場合も、当該学期の授業科目の履修をすべて無効とするなど規則によって処分されます。

(d) 成績通知表の確認

- 1) 学務情報システムの成績情報参照画面から出力できます。
成績の評価は、「秀」「優」「良」「可」「不可」で表記され、「秀」「優」「良」「可」を合格とし、履修単位として認められます。(秀：100～90点、優：90点未満～80点、良：80点未満～70点、可：70点未満～60点、不可：60点未満)
 - 2) 「不可」となった科目については不合格とします。これは、「成績通知表」によって学生に通知しますが、「成績証明書」には記載されません。
 - 3) 不合格の場合は、同一授業科目(あるいは同じ科目区分の別科目)を再度履修(「再履修」)できます。
- ＊「再履修」とは、一度履修したものの「不可」となった科目(あるいは同じ科目区分

の別科目)を次の年次(又は学期)で履修することを言います。

(e) 評価方式による成績報告時の標準得点について

教員が学務情報システムから成績登録をする際には、得点方式(0~100点)と評価方式(秀・優・良・可・不可等)のいずれかを選択します。評価方式を使って報告された成績は、下記のようにそれぞれの評価に対応する標準得点へ換算された上で、GPAが計算されます。

評価	秀	優	良	可	不可
標準得点	95	85	75	65	30

(f) GPAについて

GPA(Grade Point Average)は、各科目のGP(Grade Point)を単位数に応じて加重平均した値で、在学中の成績評価の平均値を表します。静岡大学のGPAは以下の計算式で算出されます。

$$GP = (\text{成績評点(数字)} - 55) \div 10$$

(但し、0.5未満の場合は0.0とする。100点満点)

$$GPA = \sum (GP \times \text{当該科目の単位数}) \div \text{履修総単位数}$$

成績証明書には、各科目のGPは小数第2位まで、GPAは小数第3位まで表示されます。表示上は端数が切り捨てられる形になりますが、GPの小数第3位以下も含めた上でGPAは算出されます。また、キャップ制の基準単位計算などの際は、特段の明記がない限り端数が四捨五入されることはありません。

なお、成績評価が「合」「否」「認定」の科目はGP算定の対象としません。また、各学部のカリキュラムで卒業要件科目でない科目もGP算定の対象としません。

(3) 成績評価に関する疑義に対する手続き

- (a) 履修科目の成績評価に関して疑義がある場合は、成績確認後にまず授業担当教員に直接照会を行ってください。
- (b) 非常勤講師が担当の授業の場合や、授業担当教員に直接連絡がつかない場合には、静岡キャンパスは共通教育A棟2階の教務課教務係、浜松キャンパスはS-P o r t 1階の浜松教務課共通教育係に申し出てください。
- (c) 教員との相談を通してなお問題が解決しない場合には、(b)の窓口において質問書の様式等をもらい、所定の手続きを行ってください。
- (d) 上記質問書の受付期限は、次学期の履修登録期間終了日まで(最終学年の学生は、卒業予定月の前月末日まで)です。
- (e) 対象科目の成績が進級等に影響する場合には、所属学部が定める受付期限までに手続きを行い、所属学部の学務(教務)係に手続きを行っている旨を申し出てください。

(4) 授業における出欠席の取り扱い

授業は出席することが原則ですが、病気・怪我、忌引きのほか、正規の授業として行われる実習や留学等で欠席する場合や、学生担当副学長が特に認めた課外活動(コンサートや試合)での欠席は、決められた手続きをとれば欠席扱いとしません。ただし、追加実験

や補講への出席を免除するものではありません。

手続きについては所属学部の学務（教務）係に問い合わせてください。

一方、就職活動等での欠席の対応は、授業担当教員の判断に委ねられています。授業シラバス等で明示されている許容欠席回数を確認し、必要なら担当教員にも相談して卒業要件に注意して判断してください。

(5) 休講について

担当教員が病気や出張等の理由で授業が休講となる場合がありますが、事前に分かっているときには、学務情報システムに登録してあるメールアドレス宛に休講のお知らせが行きます。当日になって急に休講となるケースでは、掲示板でお知らせします。

しかし、上記いずれの連絡もなく、授業開始時間を30分以上過ぎても担当教員が教室に現れないときは、その旨を静岡キャンパスは教務課教務係、浜松キャンパスは浜松教務課共通教育係までお知らせください。休講とするかどうか判断します。

【平成29年度 履修決定について】

	静岡キャンパス	
	履修クラスの決定方法	決定時期
新入生セミナー	指定	授業開始前(4月7日(金)14:00)
情報処理	指定	授業開始前(4月7日(金)14:00)
英語コミュニケーションⅠ	指定 〔再履修クラスはWeb抽選〕	授業開始前(4月7日(金)14:00) Web抽選後(第一回授業前)〕
英語演習Ⅰ	指定	授業開始前(4月7日(金)14:00)
基礎英語演習	web抽選&一般登録	
英語 選択科目	Web抽選 ※集中講義については別途定める	Web抽選後(第一回授業前)
初修外国語 必修科目	指定	授業開始前(4月7日(金)14:00)
初修外国語 選択科目	1年後学期科目:指定 2年以降:担当教員の判断による	学務情報システムで通知 第一回授業時
健康体育	教室抽選	第一回授業時(次ページ参照)
フィールドワーク科目	科目ごとに異なる	
キャリア形成科目	前期:教室抽選 後期:Web抽選	第一回授業時(次ページ参照) Web抽選後(第一回授業前)
個別分野科目	Web抽選 教育学部 1年後学期「日本国憲法」:指定	Web抽選後(第一回授業前) 時間割冊子参照
学際科目	Web抽選(一部科目は担当教員の判断による)	Web抽選後(第一回授業前)
日本語・日本事情	担当教員の判断による	第一回授業時
教職教養科目	教育学部:クラス指定 人理農学部・学環:担当教員の判断による	時間割冊子参照 第一回授業時
教職専門科目Ⅰ・Ⅱ	担当教員の判断による	第一回授業時
学芸員科目	担当教員の判断による	第一回授業時
理系基礎科目	指定	時間割冊子参照

	浜松キャンパス	
	履修クラスの決定方法	決定時期
新入生セミナー	指定	授業開始前(4月7日(金)14:00)
情報処理	指定(情報学部を除く)	授業開始前(4月7日(金)14:00)
英語コミュニケーションⅠ	指定 〔再履修クラスはWeb抽選〕	授業開始前(4月7日(金)14:00) Web抽選後(第一回授業前)〕
英語演習Ⅰ	指定	授業開始前(4月7日(金)14:00)
基礎英語演習	web抽選&一般登録	
英語 選択科目	Web抽選 ※集中講義については別途定める	Web抽選後(第一回授業前)
初修外国語 必修科目	指定	授業開始前(4月7日(金)14:00)
初修外国語 選択科目	工学部(受講要件を満たした者): 入門Ⅰ・Ⅱのみ指定 情報学部:担当教員の判断による	掲示にて通知 第一回授業時
健康体育	教室抽選	第一回授業時(次ページ参照)
フィールドワーク科目	科目ごとに異なる	
キャリア形成科目	情報学部:人数により抽選 工学部:指定	授業開始前 授業開始前
個別分野科目	Web抽選	第一回授業時
学際科目	Web抽選(一部科目は担当教員の判断による)	第一回授業時
日本語・日本事情	担当教員の判断による	第一回授業時
教職教養科目	担当教員の判断による	第一回授業時
教職専門科目Ⅰ・Ⅱ	担当教員の判断による	第一回授業時
学芸員科目	担当教員の判断による	第一回授業時
理系基礎科目	指定	時間割冊子参照

- ・いずれの科目も「学務情報システム」上で履修情報の登録をすることによって、履修登録が完結します。
- ・履修クラスが指定される科目のクラス分けは静岡キャンパスでは共通教育B棟掲示板、浜松キャンパスでは教養教育掲示板(工学部8号館南側)に掲示します。
- ・web抽選に漏れ履修登録ができなかった場合、履修登録期間中に定員に余裕がある科目に履修登録をすることができます。
- ・再履修をする場合はこの限りではありません。
多くの科目は任意のクラスで再履修が可能です、一部の科目はかならず指定されたクラスを履修する必要があります。

【教室で抽選する授業（健康体育・キャリア形成科目（前期））の履修手続き】

	手 順
授業開始前	履修希望の授業を予め選んで、授業が行われる教室を確認しておく。 注 1
第 1 回授業時	希望する教室に行き、授業のガイダンスを聞く。 第 1 希望のクラスを決定し教員の指示に従う。 （当日配布される抽選カード等を提出する。） ① 希望者が定員に達していない場合は、全員の履修が認められる。 ② 希望者が定員を超えた場合は、 抽選カード等 による抽選を行う。
授業終了後	健康体育：抽選結果のクラスを学務情報システムに各自で履修登録する。 注 2、注 3 キャリア形成科目（前期）：抽選結果は、大学で学務情報システムに登録する。 注 4 （各自での登録不要）

※工学部のキャリアデザインは必修のため、抽選ではなくクラス指定です。

注 1：健康体育の集合場所

【静岡キャンパス】：体育館 1 階柔道場（更衣不要）

【浜松キャンパス】：体育館 1 階（更衣不要）

注 2：授業前に仮登録したクラスと抽選結果のクラスが違う場合は、必ず各自で履修登録の修正をしてください。

注 3：健康体育についての諸連絡は、静岡キャンパスは共通教育 B 棟ピロティ掲示板、浜松キャンパスは工学部 8 号館南側教養教育掲示板に掲示されます。

注 4：静岡キャンパスでは共通教育 B 棟掲示板に抽選結果が掲示されます。

10 英語、初修外国語、健康体育、日本語・日本事情の履修について

(1) 英語

本学の英語カリキュラムは学生の自主性を重視しており、1 年後学期以降の多くを選択科目として開講し、必修単位数を最小限にしています。すべての学部に通ずる 2 単位分の必修単位数を満たした後は、自らの学習意欲に応じた英語科目を選択していくことができます（学部によって、さらに必修科目が課される場合があるので、以下の表で確認すること）。必修 2 単位修得後に履修可能となる選択科目の多くには履修条件が設定され、受講者のレベルに制限が設けられています。各自で学習プランを立てながら、履修可能な科目群の中からより高いレベルの科目を選択し、自分の英語力を高めるように努めましょう。

（※人文社会科学部夜間主コースのみ、カリキュラム体系が異なります。45 ページ(d)を確認すること。）

(a) 必修単位数・選択単位数・学部指定履修科目単位数

卒業に必要な単位数および卒業単位に算入可能な単位数は以下の通りです。所属によって異なりますので、十分に注意して履修計画を立ててください。

	人文社会科学部		教育学部	情報学部	理学部	工学部	農学部	地域創造学環
		夜間主コース						
必修単位数	2	2	3	2	2	4	2	2
学部指定履修科目単位数 【注 1】	2	0	0	2	2	0	1	2
教養科目「選択」の「その他」 【注 2】	6	6	0	1 2	4	0 【注 4】	8	1 0
自由科目 (情報学部は専門科目「その他」) 【注 2】	学科により異なる	0	1 1	0 【注 3】	学科により異なる	学科により異なる	学科により異なる	4 5

【注 1】 学部指定履修科目は、英語については特定の科目が指定されていません。選択科目群の中から必要な単位数相当分を履修することが求められます。

【注 2】 教養科目の「選択」のうち「その他」及び自由科目は、英語を含むすべての選択科目（情報学部専門科目「その他」は外国語科目のみ）を履修できる単位数であり、必ずしもすべてを英語で履修することができるわけではありません。英語科目として履修できる選択単位数の上限は、提供される英語科目数により規定されます。

【注 3】 専門科目「その他」に教養科目の語学系科目で必要な単位数を超えた科目の換算が可能です。換算可能な単位数は各自で確認すること。

【注 4】 区分は「その他」ではありませんが、教養科目「選択」として 4-6 単位（学科により異なる）まで換算可能です。換算可能な単位数は各自で確認すること。

(b) 必修単位数を満たすのに必要な科目について

① 1 年前学期必修クラスの決定について

1 年前学期には原則として全員が共通の 2 科目（「英語コミュニケーションⅠ」および「英語演習Ⅰ」）を履修します。以下の日程で指定された履修クラスを掲示するので、必ず確認すること。

◎ 1 年前学期科目 履修クラス掲示日程

日時 平成 29 年 4 月 7 日 (金) 14 時
 掲示場所 静岡キャンパス： 共通教育 B 棟掲示板
 浜松キャンパス： 教養教育掲示板

1 年前学期の 2 科目は、両方とも 4 レベル（上級／中上級／初中級／初級）に分けられていますが、履修するクラスとレベルは①大学入試センター試験の結果、または②プレースメントテストの結果に基づいて決定されます。大学入試センター試験で英語を受験していない学生は、以下の要領で実施するプレースメントテストを必ず受験すること。（センター試験をすでに受験している場合は、プレースメントテストを受験することはできない）

実施日時	平成 29 年 4 月 3 日 (月)	10 : 30 ~ 12 : 00
実施場所	静岡：共通教育 A 棟 205 室	浜松：総合研究棟 24 室

② 必修科目・選択必修科目の概要

a. 「英語コミュニケーションⅠ」（1 単位）＜1 年前学期に履修＞

英語でのコミュニケーション能力を高めることを目標とする科目です。この科目に合格すると、1 年後学期以降に開講される「英語コミュニケーションⅡ」の受講資格を得ることができます。この科目は全学部に通ずる必修科目であるため、不可となった場合には合格するまで繰り返し再履修することが求められます（各学期に再履修生用クラスが用意されます）。また、「英語コミュニケーションⅠ」は教員免許状修得にも必要ですが、教員免許状の取得を希望する学生は、このほかに「英語コミュニケーションⅡ」（1 単位）「英語ディスカッション」（2 単位）「英語インテンシブ A・B」（各 2 単位）「英語海外研修 A・B」（各 2 単位）のうちから 1 単位以上修得する必要があります。

b. 「英語演習Ⅰ」（1 単位）＜1 年前学期に履修＞

4 技能（リーディング／リスニング／スピーキング／ライティング）のうち特にリーディングとリスニングに重点を置き、大学生として必要となる英語の基礎力を養います。TOEIC の対策なども含み、期末試験として **TOEIC[®] Listening & Reading IP テスト (TOEIC[®] L&R IP テスト)**を受験します^[注 5]。成績評価基準は以下のとおりです。

「英語演習Ⅰ」		TOEIC スコア				
		600 点以上	500 点以上	450 点以上	400 点以上	400 点未満 or 期末試験 未受験
教員 による 評価	90%以上	秀	秀	優	優	不可
	80%以上	秀	優	優	良	不可
	70%以上	秀	優	良	良	不可
	60%以上	優	良	可	可	不可
	60%未満	良	良	可	可	不可

「教員による評価」の評価基準は、初回授業時に担当教員により示されます。また、成績評価に用いる「TOEIC スコア」は、期末試験を含む当該学期中に複数回 TOEIC を受験した場合、そのうちの最高スコアを採用します。ただし、期末試験を受験しない場合には、自動的に不可となります。静大生協主催の

TOEIC[®] L&R IP テストについては自動的に登録されますが、*TOEIC*[®] L&R 公開テストのスコアを成績に反映させたい場合、各キャンパス教務窓口にて、期末試験（*TOEIC*[®] L&R IP テスト）実施前日までに、公式認定証とともに申請する必要があります。「英語演習Ⅰ」を不可になった場合、「英語演習Ⅰ」を再履修することは認められません。1 年後学期以降に設置される「基礎英語演習」の履修が義務付けられます【注 6】。

【注 5】 「英語演習Ⅰ」の期末試験として実施する *TOEIC*[®] L&R IP テストの受験料は、大学負担により支払いが免除されます。単位認定等によって単位修得済みの学生も受験することができます（*TOEIC* スコアのデータ登録が無い学生については受験推奨）が、当該試験の自主的な受験辞退による受験日の変更や受験料相当額の現金支給等はいたしません。

【注 6】 ただし、以下の条件を満たせば「可」として単位が認められ、後学期から履修条件を満たした選択科目を履修することができます。

- 1) 「英語演習Ⅰ」の期末試験日翌日以降、翌学期履修登録期間開始前日までに実施される *TOEIC*[®] L&R 公開テスト又は *TOEIC*[®] L&R IP テストを受験して 400 点以上を取得する。
- 2) 翌学期の履修登録期間開始前日までに各キャンパス教務窓口まで、公式認定証またはスコアシートとともに申告する。

c. 「基礎英語演習」（週 2 回、1 単位）＜1 年後学期以降各学期に設置＞

英語の基礎的な語彙力や文法力を徹底的に訓練することを目的とするクラスで、週 2 回の授業時間で徹底的に基礎的事項を復習します。「基礎英語演習」は、毎週テストが課されるほか、当該学期中に実施される *TOEIC*[®] L&R IP テストを受験します【注 7】。成績評価は以下の基準で行います。

「基礎英語演習」		TOEIC スコア				
		500 点以上	450 点以上	400 点以上	400 点未満	未受験
授業内テストの合計得点を含む平常点	90%以上	秀	優	優	良	不可
	80%以上	秀	優	優	良	不可
	70%以上	秀	優	良	良	不可
	60%以上	秀	良	良	可	不可
	60%未満	優	可	可	不可	不可

「平常点」の算定方法については、初回授業において担当教員によって示されます。欠席が 4 回以上の場合、平常点は 0 点として計算されます。また、成績評価に用いる「TOEIC スコア」については、当該学期中に TOEIC を複数回受験した場合、そのうちの最高スコアを採用します。「基礎英語演習」を履修している学期の間に一度も TOEIC の受験がない場合には不可となります。

静大生協主催の *TOEIC*[®] L&R IP テストについては自動的に登録されますが、*TOEIC*[®] L&R 公開テストのスコアを成績に反映させたい場合、各キャンパス教務窓口にて、当該学期の試験期間に実施される *TOEIC*[®] L&R IP テスト前日までに申請する必要があります。「基礎英語演習」は 1 年後学期以降すべての学期で開講されます。不可になった場合には、単位を修得するまで何回でも繰り返し履修することが義務付けられます【注 8】。

【注 7】 「基礎英語演習」の成績評価に用いる *TOEIC*[®] L&R IP テストは学生自身で申し込み、受験料を支払う必要があります。

【注 8】 ただし、以下の条件を満たせば「可」として単位が認められ、翌学期から履修条件を満たす。

たした選択科目を履修することができます。

- 1) 「基礎英語演習」の当該学期の試験期間に実施される TOEIC[®] L&R IP テスト翌日以降、翌学期履修登録期間開始前日までに実施される TOEIC[®] L&R 公開テスト又は TOEIC[®] L&R IP テストを受験して 400 点以上を取得する。
- 2) 翌学期の履修登録期間開始前日までに各キャンパス教務窓口まで、公式認定証またはスコアシートとともに申告する。

③ 教育学部・工学部の必修科目

以下の所属学生は、前述の必修2科目2単位の他にも以下の科目が必修に指定されています。

a. 教育学部：

以下の6科目のうち、いずれか1単位以上。

「英語コミュニケーションⅡ」 「英語ディスカッション」
「英語インテンシブA・B」 「英語海外研修A・B」

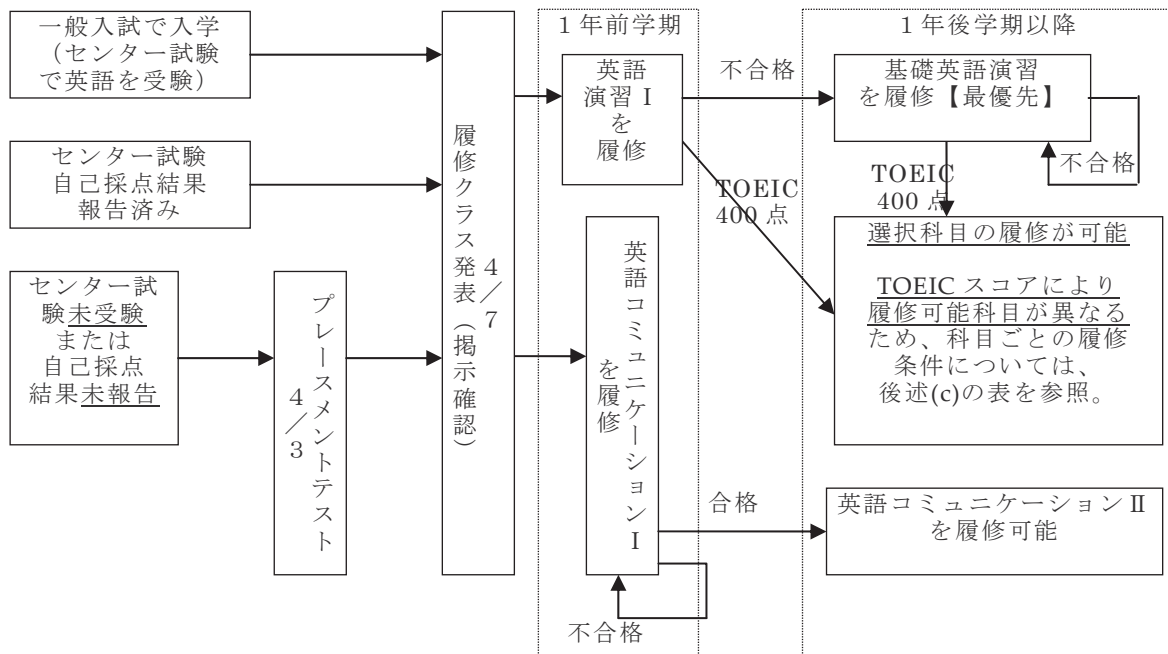
b. 工学部：

「アカデミックイングリッシュⅠ」

工学部の「アカデミックイングリッシュⅠ」は学科ごとに開設します。学科の指示に従って履修すること。再履修の場合でも他学科のクラスでは受講できません。

④ 英語科目履修のフローチャート

英語カリキュラムを効果的に学習するには、1年次の必修単位（「英語コミュニケーションⅠ」および、「英語演習Ⅰ」又は「基礎英語演習」）を優先して履修することが望めます。以下に入学時点から1年前学期、後学期以降の履修の流れを図示します。



卒業要件を満たすためには、最低でも必修単位数を満たしている必要があります。選択単位数を必修単位に振り替える措置がとられることはありません。

(c) 1年後学期以降：「学部指定履修科目」および「選択科目」の科目群

① 選択科目のリストと履修条件

各学期開始前の履修登録期間前日までに以下の各条件を満たしている場合、それぞれの科目を履修することができます。各学期に設置されている各科目の履

修条件を確認して、履修可能な科目の中から選択して履修してください。

また、受講者多数の場合には抽選を行います。希望のクラスを必ず受講できるとは限りませんが、1年後学期については、用意された2枠のうち最低でも1枠は受講できるよう配慮されています。(2枠とも抽選に外れた場合には、各キャンパス教務窓口にご相談してください。)

履修条件		科 目 名		単位 数
英語コミュニケーションⅠ に合格していること		英語コミュニケーションⅡ		各 1 単位
TOEIC スコア [注 9]	400 点 以上	英語リーディングⅠ	英語ライティングⅠ	
		英語演習Ⅱ		
	500 点 以上	英語リーディングⅡ	英語ライティングⅡ	各 2 単位
		英語演習Ⅲ	英語ディスカッション	
	600 点 以上	英語インテンシブ A (集中開講)	英語インテンシブ B (集中開講)	
クラスごとに設定 [注 10]				
		アカデミックイングリッシュ Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	ビジネスイングリッシュ	
		英語海外研修 A・B (夏期集中開講)		

【注 9】 静大生協主催の *TOEIC*[®] L&R IP テストを受験したスコアは学務情報システムに登録されます。それ以外の実施による TOEIC スコア (*TOEIC*[®] L&R 公開テスト等のもの) を取得した場合、各キャンパス教務窓口まで申請することで、学務情報システムに登録することができます。

【注 10】 クラスごとに設定された履修条件は、個々のシラバスで確認すること。特定期間に集中開講する科目については、履修登録期間が学期中に掲示案内されます。

② 各選択科目の概要

1 年後学期以降に以下の科目が選択科目として用意されています。

- a. 「英語コミュニケーションⅡ」(1 単位)
「英語コミュニケーションⅠ」に合格した学生を対象として、会話能力を高める訓練をします。受講者は授業中できるだけ英語で話すよう求められます。
- b. 「英語ディスカッション」(2 単位)
英語の基礎的運用能力が整った学生を対象に、与えられた話題について話し合える会話能力を鍛えます。
- c. 「英語リーディングⅠ」(1 単位)・「英語リーディングⅡ」(2 単位)
より高度な英語力をつけるために、リーディング能力に焦点を当てた授業がそれぞれの受講者のレベルに合わせて用意されます。
- d. 「英語ライティングⅠ」(1 単位)・「英語ライティングⅡ」(2 単位)
より高度な英語力をつけるために、ライティング能力に焦点を当てた授業がそれぞれの受講者のレベルに合わせて用意されます。
- e. 「英語演習Ⅱ」(1 単位)・「英語演習Ⅲ」(2 単位)
より高度な英語力をつけるために、4 技能(リーディング・リスニング・スピーキング・ライティング)の一部またはすべてに焦点を当てた授業がそれぞれの受講者のレベルに合わせて用意されます。
- f. 「英語インテンシブ A」(2 単位)・「英語インテンシブ B」(2 単位)
高度な英語力を有する学生を対象に、英語運用能力をさらに高めるための授業が用意されています。
- g. 「英語海外研修 A」(2 単位)・「英語海外研修 B」(2 単位)
それぞれネブラスカ大学オマハ校(アメリカ)およびアルバータ大学(カナ

ダ)への夏季短期留学に参加します。申し込み期間は4月から5月下旬に設定されます。実施詳細は授業担当者または国際交流課に問い合わせること。

h. 「アカデミックイングリッシュⅠ」(2単位)

「アカデミックイングリッシュⅡ」(2単位)

「アカデミックイングリッシュⅢ」(2単位)

2年前学期以降に設置が予定されている科目です。受講条件を含めて各科目の詳細は、開講年次に設置される授業のシラバスを参照してください。

i. 「ビジネスイングリッシュ」(2単位)

3年次に設置が予定されている科目です。受講条件を含めて各科目の詳細は、開講年次に設置される授業のシラバスを参照してください。

(d) 人文社会科学部夜間主コースのカリキュラム

他学部他学科とはカリキュラム体系が異なり、以下の5科目7単位までが卒業単位として認められます。「英語演習」「英語コミュニケーションA」「英語コミュニケーションB」は夜間主コースに所属する学生のみ受講できます。

必修科目(2科目2単位)

「英語演習」(1単位) 「英語コミュニケーションA」(1単位)

選択科目(3科目5単位まで)

「英語コミュニケーションB」(1単位)

「英語海外研修A」(2単位) 「英語海外研修B」(2単位)

(e) 外部試験の団体受験について(TOEIC[®] L&R IPテスト等)

本カリキュラムでは、英語能力の1つの指標としてTOEICスコアを利用します。近年では就職活動等でも多く利用されるため、学生の利便性を考慮して、キャンパス内でも団体受験が年複数回実施されます。また、海外留学を考える学生のためにTOEFLの団体受験の機会もありますので、各自の学習計画に活用しましょう。

2017年度のTOEIC[®] L&R IPテスト実施時期

実施回	実施時期	実施回	実施時期
第1回	5月中旬～下旬	第4回	8月下旬～9月上旬
第2回	6月上旬～中旬	第5回	10月下旬
第3回	7月上旬～中旬	第6回	12月上旬～中旬
前学期末試験 ^[注9]	8月3日	第7回	2月8日

[注9] 前学期末試験は受験有資格者のみが受験できます。

(f) コンピュータ学習教材(ALC NetAcademy2)の利用について

本学では、コンピュータ教材であるALC NetAcademy2(アルク教育社)を導入しており、希望する学生が利用することができます(利用料金はかかりません)。リスニング力・リーディング力・語彙力の向上やTOEIC対策のための学習を行うことができ、様々なレベルの練習問題に取り組むことができますので、積極的に活用してください(利用希望者に向けた講習会なども用意されますので、詳細については掲示を確認してください)。また、授業の中で、この教材を利用することもありますので、シラバスをよく読んで履修してください。

NetAcademy2 ウェブサイト: <https://alc.adb.shizuoka.ac.jp/anet2/>

*静大IDとパスワードでログインできます

(g) その他の注意事項

- ① (必修科目・選択科目にかかわらず)「基礎英語演習」を除くすべての英語科目の授業において、4 回以上欠席した場合には成績を不可とすることが共通ルールで規定されています。自分の出席状況については責任をもって管理すること。
- ② 本学以外の教育施設で授業を受講した場合や、外部試験で一定の成績を収めた場合に、英語科目の単位が認定されます。本履修案内 60 ページ「**本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ**」を参照すること。
- ③ 全学英语のウェブページ：http://web.hedc.shizuoka.ac.jp/?page_id=79

(2) 初修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、現代韓国語、ポルトガル語)

- (a) 以下の 1 年次必修科目 (クラス指定) は、学部・学科によって履修形態が異なりますので、全学教育科目および各学部のガイダンスには必ず出席してください。
- | | | |
|---------------------|-------------------|------|
| 人文社会科学部、情報学部 | 初修外国語入門Ⅰ、初修外国語入門Ⅱ | 2 単位 |
| 教育学部、理学部、農学部、地域創造学環 | 初修外国語入門Ⅰ | 1 単位 |
- (工学部は 2 年次から選択科目として履修します。)
- クラスについては、初修外国語に関する「履修言語選択申請書」に基づきクラス分けを行います。

◎クラス分け発表：

静岡キャンパス： 4 月 7 日 (金) 14:00
発表場所： 共通教育 B 棟 教務係掲示板

浜松キャンパス： 4 月 7 日 (金) 14:00
発表場所： 工学部 8 号館南側 教養教育掲示板

- (b) 1 年次の選択科目は、人文社会科学部・情報学部(初修外国語Ⅰ・初修外国語Ⅱ)、教育学部・理学部・農学部・地域創造学環(初修外国語入門Ⅱ)です。履修希望者は初回の授業時に担当教員に申し出てください。
- (c) 2 年次以降の選択科目は学部によって履修方法が異なりますので、全学教育科目および各学部のガイダンスでよく理解してください。
- (d) 留学生が、自分の言語(母国語等)を履修することは原則できません。
- (e) **第 3 外国語の履修について**
- 2、3、4 年次生が 2 つ目の初修外国語を履修した場合は、「初修外国語入門Ⅰ」及び「初修外国語入門Ⅱ」に限り選択科目の単位として卒業単位に含めることができます(※人文社会科学部は入門科目に限りません)。クラス人数等の制約があるので授業の時に担当教員に申し出てください。

(3) 健康体育

健康体育科目には、1 年次から履修できる(工学部は 3 年次から)実技＋講義の「健康体育Ⅰ(前学期)」「健康体育Ⅱ(後学期)」と、2 年次から履修できる実技を主とした「スポーツⅠ(前学期)」「スポーツⅡ(後学期)」があります。学部・学科によって履修形態が異なりますので、授業科目一覧表を参照してください。

(a) 健康体育の履修およびクラス分けについて

「健康体育Ⅰ」「健康体育Ⅱ」を履修する 1 年生は、第 1 回目の授業でガイダンス、

履修受付およびクラス分けを行いますので、学部学科ごとに指定された時限に体育館（静岡は体育館柔道場）へ集合してください。指定された時限以外の履修はできません。

「健康体育Ⅰ」「健康体育Ⅱ」を再履修する2年生以上は、健康体育が開講されているいずれかの時限を自由を選んで、第1回目の体育館でのクラス分けに参加してください。1年生と同じ扱いでクラス分けに参加できます。

クラスサイズは1クラス40名前後を基本としますが、希望者多数の場合はその場で抽選を行います。

第1回目のクラス分けを欠席した受講希望者のうち静岡キャンパスの学生は、後日、健康体育共同研究室（共通教育D棟3階）を訪ねてください。浜松キャンパスの学生には、後日、案内を掲示します。余裕のあるクラスに入ることができます（クラス選択はできません）。

(b) スポーツの履修およびクラス分けについて

「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」を履修する2年生以上は、第1回目の授業でガイダンス、履修受付およびクラス分けを行いますので、体育館に集合してください。

クラスサイズは1クラス40名以内を基本としますが、希望者多数の場合はその場で抽選を行います。

第1回目のクラス分けを欠席した受講希望者のうち静岡キャンパスの人は、後日、健康体育共同研究室（共通教育D棟3階）を訪ねてください。浜松キャンパスの人は、第2回目の授業で直接授業担当教員に相談してください。余裕のあるクラスに入ることができます。

なお、「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」を履修できるのは、原則として「健康体育Ⅰ」「健康体育Ⅱ」を1単位以上修得している者となります。

(4) 日本語・日本事情

「日本語」については一定以上の日本語力を有していると授業担当者が認定した場合を除いて、日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲの3科目は留学生全員が履修することとします。なお、日本語科目の履修を希望しない場合は、必ず授業担当者の認定を受けてください。

「日本事情」は、現代教養科目の単位として振り替えることができます。

＊「留学生科目等に関する申合せ」（p.73）を参照してください。

11 学外での授業の履修について

静岡大学以外の教育施設で学修した科目等が単位認定されるものとして、留学、語学研修、共同授業、単位互換授業、放送大学があります。

詳細は「本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ」（p.66）を参照してください。

12 学務情報システムの利用について

アクセスの方法

学務情報システムを利用する際は、以下の URL からトップページにアクセスしてください。

<https://gakujo.shizuoka.ac.jp> (先頭が https となっていますのでご注意ください。)

システムの利用は学外からも行えますが、学籍情報の更新機能は、学内ネットワークに接続している端末からのみアクセス可能です。

〔学内からの接続端末の例〕

- (1) 情報基盤センター実習室の P C
- (2) 教室等にある情報端末コンセントや無線 LAN のアクセスポイント
- (3) 研究室等に設置されている P C

〔スマートフォンの対応について〕

学務情報システムは P C 上のブラウザでの使用に対して動作保証がされておりますが、スマートフォンからも基本的機能の利用が可能です。なお、学内の無線 LAN ではなく通信事業者の回線を使用する場合は、学外接続の扱いとなります。

トップページには履修登録に関係する重要なお知らせ等が掲載されますので、システムの利用時には一通り内容を確認してください。また、システムの操作マニュアル等のファイルもアップロードされていますので、適宜参照願います。

The screenshot shows the homepage of the Shizuoka University Student Affairs System. At the top, there is a header with the university logo and name. Below the header, there is a large banner image of a university building. To the right of the banner, there are links to the official website and the information base center. In the center, there is a 'Login' button and a 'New Information' section. Below the login button, there is a 'Student Information' section. Annotations with arrows point to various parts of the page: one points to the 'Login' button, another points to the 'New Information' section, and a third points to the 'Student Information' section. A text box on the right explains that for password changes or reissues, users should go to the 'Unified Authentication Portal'. Another text box at the bottom right states that the homepage displays various notices.

トップページ

静岡大学 学務情報システム
Shizuoka University Student Affairs System

静岡大学公式サイト 情報基盤関連サイト
情報基盤センター 統合認証ポータル

ログイン

新着情報
2012/06/18 地震以外の気象警報発令時における授業休止措置のガイドラインについて
暴風、大雨等の気象に関する警報が発令された状況等における大学
気象警報発令時における授業休止措置のガイドライン
ガイドライン対応マニュアル

学生向け情報
共通のお知らせ
平成24年度に定める卒業
pdf
(4年7月27日更新)
専門科目の履替表を掲載します。旧カリの学生が新カリ科目を履修する際に参考にしてください。

パスワード変更や再発行については、「統合認証ポータル」のリンクから専用サイトを開き、確認してください。

「ログイン」ボタンを押すと「統合認証ログイン画面」が開きます。

トップページには様々なお知らせ情報が掲載されます。

- ・学務情報システムの操作方法について疑問や質問がある場合には、各学部の学務（教務）係の窓口にもずきおき合わせください。
- ・不測のシステム停止が発生してトップページ自体が閲覧できなくなった際は、静岡大学公式 HP の「在学生の皆様」のページにて情報を提供します。また、レポート締切等がある場合にはシステムが復旧し次第、教員から期限の延長等についてメール連絡を行います。

ログイン

パスワードは、統合認証用「アカウント通知書」に記載の内容を入力してください。

統合認証ログイン画面

国立大学法人
静岡大学 National University Corporation
Shizuoka University

Shibboleth Identity Provider Login

このサービスを利用するには、静大IDとパスワードが必要です。
You need to provide your SHIZUDAI ID/Password to use this service.

2014年10月以降、定期的に変更いたします情報基盤センターのパスワードと静大IDのパスワードが連動しております。
ログインできない場合は、静大IDと情報基盤センターのパスワード(@ipcメールのパスワード)を入力してください。

静大ID
パスワード

Login

静大IDとパスワードを入力して「ログイン」ボタンを押します。

- ・ログインが成功すると、学籍情報システムに登録されているメールアドレス2に「〇月〇日〇時〇分にあなたのIDで学務情報システムにログインしました。」という内容のメールが送信されます

〔統合認証からのログアウトについて〕

統合認証でログインをした際は、学務情報システム上のログアウトボタンを押しても、認証情報がWEBブラウザのCookieに残ったままになるため、パスワード入力無しで再ログインができてしまいます。(ログイン後4時間が経過するまで有効です)

統合認証からも完全にログアウトするためには、全てのWEBブラウザ画面を一度閉じる必要がありますのでご注意ください。

ホーム画面

ログイン直後のホーム画面には、新着情報や教務システムへのリンクが配置されています。

LiveCampus

ホーム トップメニュー

静岡 太郎さん 58:58 ログアウト

重要なお知らせ
履修登録や成績確認の画面を開くには、この画面の左側にある「システム連携リンク」を選択してください。

お知らせ 未読:0件

学内連絡	2012/06/11	駐輪場工事のお知らせ	教務課
学内連絡	2012/06/01	2012/06/28 就活セミナーの開催について	就職課
授業連絡	2012/06/01	2012/06/06「英語Ⅰ」休講となります	教員 太郎

システム連携リンク

- 教務システム
- 就職支援システム

個人リンク

履修登録、成績確認、学籍情報修正は、このリンクから教務システムを開いて行います。

お知らせの新着情報が一覧表示されます。

ログアウトボタンです。なお、統合認証から完全にログアウトするには、全てのWEBブラウザ画面を閉じる必要があります。

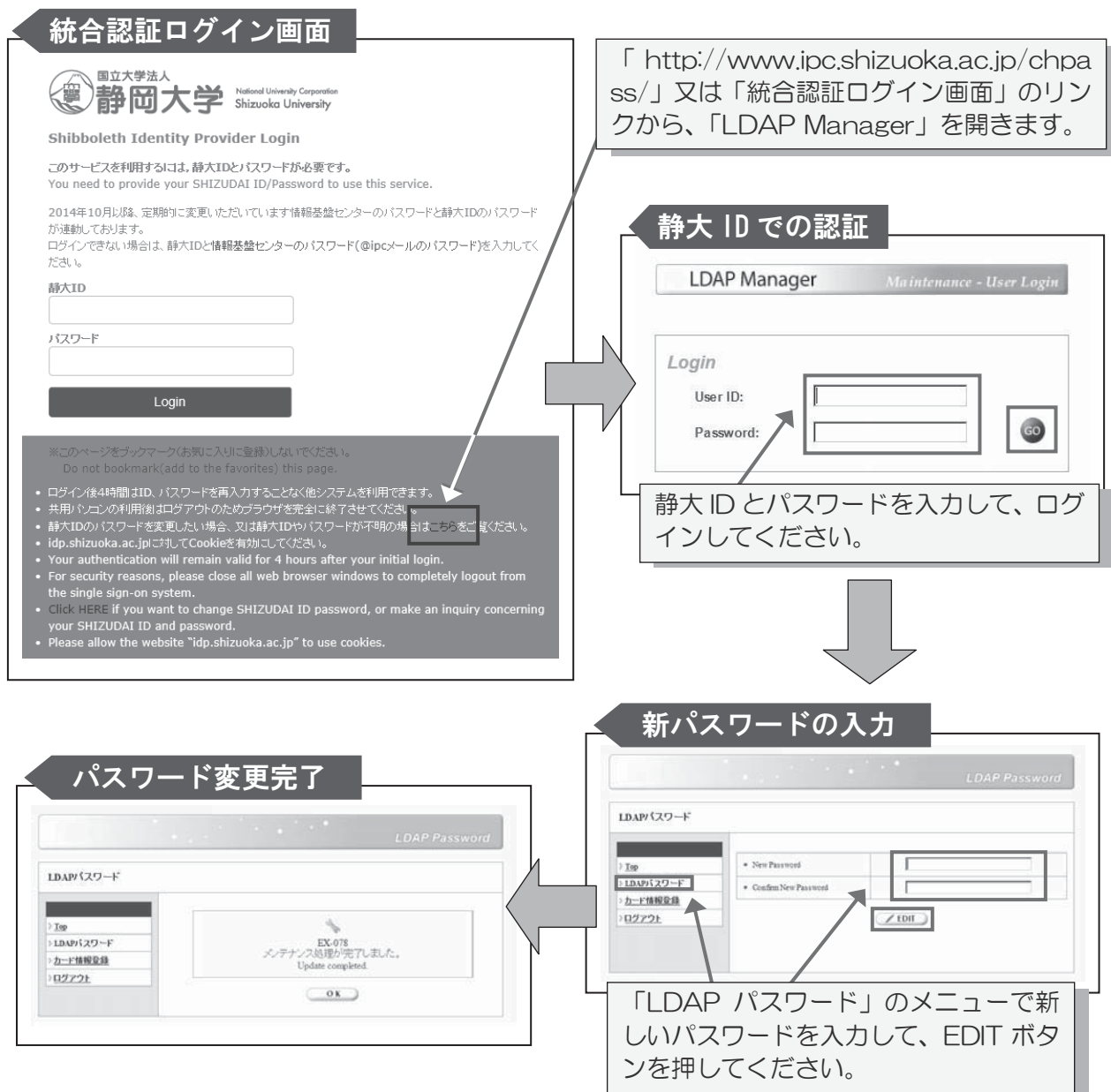
パスワード変更

アカウント通知書に記載の統合認証パスワードは、早めにオリジナルのパスワードに変更してください。設定の際は下記の項目に留意してください。

- ・パスワードには、個人が特定できる情報や辞書に載っている単語、他の者が推測できるような言葉は使用しないでください。

■ 統合認証パスワードを変更する場合

統合認証パスワードは、以下の流れで変更することができます。変更画面は学外からアクセスすることも可能です。



■ 統合認証パスワードを忘れた場合

統合認証のパスワードを忘れてしまった場合は、下記の場所に設置されている再発行端末に IC 学生証をかざすことで、新しいパスワードの通知を受取ることができます。

キャンパス	再発行端末の設置場所
静岡地区	・ 共通教育 L 棟 1 階 情報基盤センター静岡オフィス
浜松地区	・ 創造科学技術大学院棟 2 階 情報基盤センター浜松オフィス

〔・上記の端末を使うことで、統合認証パスワードが新しいランダムな文字列で書き換えられます。〕

■ 統合認証アカウント(静大ID)を忘れた場合

自分の静大 ID を忘れてしまった場合は、学内限定の下記 WEB 画面から確認することができます。

静大 ID 表示用画面

あなたのIDを確認します。

学籍番号、教職員番号、静大ID、IPC-IDのいずれかを入力してください

静大IDのパスワード、IPC-IDのパスワードのいずれかを入力してください

→パスワードが分からない場合は、情報基盤センター窓口(設置されているパスワード再発行機)にてパスワードの再発行を行い、印刷されたパスワード文字列を入力してください。

© 静大ID統括本部

「<https://simdb.in.shizuoka.ac.jp/sync/index2.htm>」又は「統合認証ログイン」画面のリンクから静大 ID 確認ページを開きます。

学籍番号と統合認証パスワードを入力して、確認ボタンを押してください。WEB 画面上に静大 ID が表示されます。

〔統合認証アカウントと IPC アカウントについて〕

統合認証アカウントは、学務情報システムその他、図書館システム等でも使用します。学内にはこの他に IPC アカウントと呼ばれるものがあり、こちらは実習室 PC へのログインや、学内の無線 LAN 接続等に使われます。

なお、平成 26 年度以降の入学生については、両方のアカウントの ID が同一文字列となり、パスワードも連携更新されるので、違いを意識する必要はほとんどありません。そのため、両者をまとめて「情報基盤サービスのアカウント」として案内されています。

〔各アカウントの取り扱い〕

種別	利用目的	初期値		忘れた場合		パスワード有効期限
		ID	パスワード	ID	パスワード	
静大 ID (統合認証)	学務情報システム 図書館システム etc.	ランダムな値	アカウント通知書で配布	上記 WEB 画面で表示	再発行端末に IC 学生証をかざす	なし
IPC-ID	実習室 PC 無線 LAN 接続 etc.	静大 ID と同じ	静大 ID と同じ			

学籍情報の更新

履修登録を行うためにはメールアドレス、現住所、電話番号の登録をする必要があります。メールアドレスは2種類の入力欄があり、メールアドレス1には情報基盤センターから割り当てられるアドレスが事前登録されています。メールアドレス2には、大学からの休講情報など重要なお知らせが送信されますので、各自の携帯電話等のアドレスを設定してください。

学籍情報更新画面

この画面は学内ネットワークからのみ利用可能です。

学籍情報更新

現住所、郵便番号、メールアドレス、住居区分等の「本人が管理するデータ」を入力／修正して確認ボタンをクリックしてください。
 メールアドレス2の入力は必須です。入力されていない場合は、メールの配信は行われません。

戻る

■学生基本情報

学籍番号	00000000		
氏名(フリガナ)	静岡 太郎(シズオカ タロウ)		
メールアドレス1(半角50文字まで)	@shizuoka.ac.jp		
メールアドレス2(半角50文字まで)	@docomo.ne.jp		
生年月日	1900年 00月 00日	性別	男
在学形態	一般学生	在籍状況	在学中
学生所属	理学部／数学科／		

戻る

■学生在籍情報

学年	2	在学年次	
適用課程年度	2012	適用要件	
TOEIC最高得点	450 TOEIC履歴	TOEIC受験日	2013年9月1日

戻る

■学生連絡先

郵便番号(半角8文字まで)	422 - 8531	住所検索		住居区分	学生寮
住所(全角50文字まで)	静岡県静岡市駿河区大谷836 片山寮				
電話番号1(半角17文字まで)	000-000-0000				
電話番号2(半角17文字まで)	000-0000-0000				

戻る

■保証人連絡先

保証人氏名	続柄
保証人住所	

戻る

OK 確認

リセット

事前に情報基盤センターのアドレスが入力されています。

各自の携帯アドレス等を入力します。

TOEIC 最高得点と履歴を確認できます。この数値は教養科目の英語を履修する際に、基準点として利用されます。

学生本人の現住所を入力します。

固定電話の番号を入力します。

携帯電話の番号を入力します。

確認ボタンを押して登録を確定させると、メールアドレス2へ更新通知メールが送信されます。しばらく待ってもメールが届かない場合は、アドレスに入力ミスがないか、迷惑メールフィルタの設定に問題がないか確認してください。通知メールの送信元アドレスには、「@adb.shizuoka.ac.jp」や各教員のアドレスとして「@shizuoka.ac.jp」等が使われますが、基本的に「shizuoka.ac.jp」で終わります。

メールアドレス、現住所、電話番号に変更が出た際は、各自で最新の情報に更新してください。

【安否情報システムについて】

「静岡大学安否情報システム」は大規模な地震等が発生した時に、各学生が静大のWEBサイトへ現在の所在地や健康状態を登録し、親や大学が安否を確認できるようにするためのシステムです。 【 URL : <http://anpi.ipc.shizuoka.ac.jp/> 】

地震発生後、携帯電話等に登録URLがメール送信されますが、この宛先には学務情報システムの「メールアドレス2」が使用されています。安否情報システムとは1日1回の頻度でデータ連携を行っています。

- 53 -

一般講義履修登録

WEB 抽選をしない定期開講授業の履修登録は、「一般講義履修登録」のリンクから行います。なお、集中講義については各学部で指定する登録期間中に「集中講義履修登録」のリンクで履修登録をしますが、操作方法は基本的に一般講義と同様なので、説明は割愛します。

また、WEB 抽選対象科目は「抽選履修登録」のリンクから志望順位の登録を行います。1 年次の後期以降に、該当する学部でのみ実施されますので、別途掲示される案内を参照してください。基本的に抽選科目の登録は、非抽選科目の登録期間の前に行われます。

■ 履修登録期間中の操作

「一般講義履修登録」は前学期（前学期分と通年分）及び後学期毎に予め決められた履修登録期間に行います。以下の手順を参考に、各自で締切日までに忘れずに登録を行ってください。

1. システム登録をする前に、シラバス（授業概要）、時間割、履修の手引き等により、まずどの科目を履修するか決めておきます。

- ・本学の多くの授業は 90 分 1 コマを基本に行われますので、履修科目の曜日とコマを調べておいてください。なお、「コマ」は「時限」の 2 つ分に相当し、例えば「火曜 2 コマ」と「火曜 3・4 時限」は同じ意味になります。
- ・外国語や健康体育等の科目では、1 つの科目名に複数のクラスが立てられています。それぞれのクラス分けは掲示板等に案内されていますので、正しいクラスを選んで登録してください。クラス名を誤ると履修登録忘れと同様にみなされ、試験に合格しても単位が認定されないことがあります。

2. システム上の各コマ（開講曜日時限）の鉛筆ボタンをクリックして、開講されている科目のリストから履修したい科目を選択します。1 年次の必修科目等では、あらかじめ履修科目が一括登録されている場合もあります。

3. 上記の処理を履修登録するすべての科目に対して繰り返し行います。各コマに科目が黄色で表示されれば、その時点で履修登録済みになります。履修登録期間中であれば、何度でも追加・取消が可能です。

4. すべての登録が終わったら、「戻る」ボタン等で画面を閉じてください。履修データはコマ毎に独立して登録処理されますので、全体的な最終確認ボタンはありません。

- ・病気等の理由により履修登録期間中に登録できない場合は、事前に所属学部の学務（教務）係の窓口へ連絡してください。
- ・他学部の専門科目も WEB 登録できますが、学務（教務）係窓口で配布される「他学部授業履修届」を別途提出する必要があります。

〔キャップ制について〕 ※平成 24 年度以前入学生には制限は掛かりません。

平成 25 年度入学の学部生からキャップ制（履修登録上制限）が導入され、半期毎に登録できる総単位数がシステム上で制限されるようになっていきます。

上限単位は直前学期の GPA 値により変動し、具体的な数値は「一般講義履修登録」画面の右上に表示されています。上限を超える単位を選択しようとする、「登録」ボタンを押した際にエラーが出ます。

表示されている上限単位数等に不明な点がある場合は、所属学部の学務（教務）係の窓口へ申し出てください。

一般履修登録画面

LiveCampus

Academic Affairs System

メニュー

LOGOUT

履修情報関連 > 一般講義履修登録 > 一般講義履修登録

① 一括履修

② 修得済科目

③ 確認メール

④ 読替表

⑤ 印刷

⑥ 科目名検索

⑦ 直前学期 GPA 値とそれに基づく履修上限単位数が表示されます。(H25 以降入学生のみ適用)

⑦

直前学期 GPA 値	3.251
履修上限単位数	28.0

2013 年度 後期

設定ボタンを押すと該当する曜日・時間割として登録されている科目を検索して履修登録することができます。

取消ボタンを押すと登録されている科目を取り消すことができます。

⑧ 科学の現状と(〇〇)

⑨ 微分積分学Ⅳ(〇〇)

⑩ マルチメディア(〇〇)

⑪ 情報化社会論(〇〇)

科目詳細

確認が終わったら、開じるボタンをクリックしてください。

科目名

科目番号

読替前科目名

読替後科目名

クラス名

担当教員

科目区分

必修選択区分

単位数

半コマ科目又はクォータ科目は1コマに2科目登録できます。

科目名のリンクをクリックすると科目詳細画面が表示されます。

項目名	説明
① 一括履修	必修科目を一括して履修登録できます。
② 修得済科目	単位修得済の科目を一覧表示します。
③ 確認メール	登録されているメールアドレス2に履修確認メールを送信します。
④ 読替表	全学共通の読替表がPDFファイルで参照できます。
⑤ 印刷	履修登録した科目の履修確認表をPDFファイルで出力します。
⑥ 科目名検索	全てのコマの開講科目を検索・登録します。
⑦ 履修上限単位数	キャップ制が適用される H25 以降入学生が対象。履修上限単位数を超えて登録しようとすると、エラーメッセージが表示されます。
⑧ コマ	履修登録中の科目を表示します。 空白：履修中の科目がないコマ（曜日時限）です。 黄色：履修登録済みの科目です。取消・追加ができます。半コマ科目（1時限のみ）又はクォータ科目の場合、前半と後半の組み合わせであれば同一コマ内に両方登録することが可能です。 オレンジ色：履修確定している科目です。取り消すことはできません。
⑨ 鉛筆ボタン	該当するコマの開講科目を検索・登録します。講義検索画面が表示されますので、検索条件を設定して履修登録したい科目を検索・登録します。
⑩ 消しゴムボタン	履修登録科目を取り消します。科目の登録をやり直す場合は該当コマの消しゴムボタンをクリックして登録済みの科目を削除します。
⑪ 授業科目名	授業科目名をクリックすると科目詳細画面が表示されます。
⑫ 戻る	全ての履修科目の登録が完了した場合や途中保存する場合にクリックします。

講義検索画面

講義検索

月曜日 1・2限

検索条件を選択して、検索ボタンをクリックしてください。

学部／研究科

学科・課程／専攻

コース・専攻等

学年

科目区分

必修選択区分

初期画面には、自分の所属学部・学科・コース・学年が表示されます。

科目区分、必修選択区分は「選択してください」の状態でご検索ボタンを押してください。

検索条件に該当する科目が表示されますので、希望科目を選択してください。科目名のリンクをクリックすると、シラバスが表示されます。

登録したい科目を選択して、登録ボタンをクリックしてください。

	科目名(クラス名)	担当教員	単位数	曜日	時限	講義室
☐	日本語Ⅲ(人教理農)	〇〇 〇〇	2	月	1・2限	日本語教室
☐	フランス事情Ⅱ(人文専門)	〇〇 〇〇		月	1・2限	共A404

科目を選択したら登録ボタンを押します。

- ・対象学年以外の科目も検索することができますが、登録ボタンを押した際にエラーが表示されます。なお、シラバスの学年表示は、便宜上最低学年のみが記載されています。
- ・既に単位修得済の科目については、検索結果一覧に表示されません。

不定期開講科目の登録

卒業研究やゼミのような、集中講義ではない不定期開講科目は、コマ毎の鉛筆ボタンではなく「一般講義履修登録」画面の最下段にある「設定」ボタンから行います。

不定期科目登録画面

11・12限					
13・14限					

不定期科目（卒研・ゼミ）の登録は、一般履修登録画面の最下段の欄で行います。

■卒研・ゼミ

設定ボタンを押すと、時間外科目を検索して、履修登録することができます。

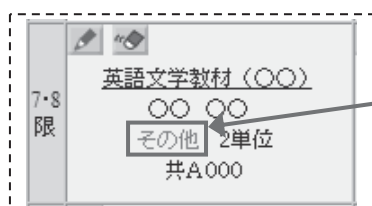
取消ボタンを押すと登録されている科目を取り消すことができます。

「設定」ボタンを押すと科目選択画面が開き、希望科目の登録ができます。

科目名	クラス名	担当教員	必修選択区分	単位数
卒業研究	〇〇	〇〇 〇〇	選必	2

■ 卒業要件外の科目

科目区分が「その他」になっているものは、カリキュラム外科目であり、そのままでは卒業要件として利用できません。新旧カリキュラム読替表等に対応科目があれば、単位修得のタイミングで読替先科目に置き換えられます。履修登録の段階で、読替対応科目があるか十分注意をしてください。



履修登録画面で単位数の左側にある区分表示が、「必」「選必」「選択」でなく「その他」になっている場合は卒業要件外科目となります。

■ 履修取消期間中の操作

各学期の授業開始 1 カ月後頃に履修取消期間が設定されており、掲示板等で案内されます。この期間中に限り、学務情報システムから登録済の履修科目を各自で削除することが可能です。継続履修する意思のない科目を削除することで、「不可」の評価で GPA 値を下げることを回避できます。

一般履修登録画面(取消期間中)

LiveCampus Academic Affairs System

メニュー

ログアウト

Login User

履修情報関連 > 一般講義履修登録 > 一般講義履修登録

タイムアウトまでおよそ3596秒です。印刷

一般講義履修登録

2012 年度 後期

取消ボタンを押すと登録されている科目を取り消すことができます。

一度取り消した科目は再登録ができませんので、十分確認した上で取消ボタンを押してください。

戻る

修得済科目

確認メール

読替表

印刷

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1・2 限				位相数学入門(〇〇) 〇〇 〇〇 必 2単位 共A.000		
3・4 限	科学の現状Ⅱ(〇〇) 〇〇 〇〇 選必 2単位 共A.000		微分積分Ⅳ(〇〇) 〇〇 〇〇 必 2単位 共A.000		〇〇〇〇論(〇〇) 〇〇 〇〇 必 2単位 共A.000	
5・6 限		発生物学Ⅰ(〇〇) 〇〇 〇〇 選必 1単位 (後期前半) 共A.000		マルチメディア(〇〇) 〇〇 〇〇 選必 2単位 共A.000		
7・8 限		発生物学Ⅱ(〇〇)		情報化社会論(〇〇) 〇〇 〇〇 選必 2単位		
9・						

講義取消

以下の講義を取り消します。

一度取り消した科目は再登録ができませんので、十分確認した上で取消ボタンを押してください。

科目名

〇〇〇〇論

クラス名

〇〇

担当教員

〇〇 〇〇

単位数

2単位

取消

閉じる

一度「取消」ボタンを押すと再登録ができなくなりますので、十分確認した上で操作してください。

「取消」ボタンを押した時点で、授業担当教員（分担教員も含む）へメール通知が送られます。基本的に教員による承認手続きは不要となります。

成績は授業担当教員が成績報告を行った後に、所属学部の学務（教務）係で公開処理をして、初めて参照可能になります。新学期の履修登録期間の開始前までに、各自で成績の確認を行ってください。

成績情報参照画面

LiveCampus

Academic Affairs System

メニュー

LOGOUT

成績情報関連 > 成績情報の参照 > 成績情報参照

Login User

タイムアウトまでおよそ3345秒です。印刷

成績情報参照

学籍番号: 00000000 学生氏名: 静岡 太郎

評価別単位

印刷

GPA

年別単位

卒業要件

戻る

科目名	担当教員名	科目区分	必修選択区分	単位	評価	得点	科目GP	取得年度	報告日	履修種別
新生生セミナー	〇〇 〇〇	新生生セミ...	選択	2	良	75	2.00	2010	2010-09-01	
情報処理	〇〇 〇〇	情報処理	選択	2	不可	30	0.00	2010	2010-09-01	
TOEIC演習SE	〇〇 〇〇	実用英語 1...	選択	2	優	85	3.00	2010	2010-09-01	
総合英語	〇〇 〇〇	実用英語 1...	選択	2	良	75	2.00	2010	2011-02-01	
応用英語A	〇〇 〇〇	実用英語 2...	選択	2	良	75	2.00	2011	2011-08-01	
応用英語B	〇〇 〇〇	実用英語 2...	選択	2	秀	92	3.70	2011	2012-02-25	

評価別単位

確認が終わったら開じるボタンをクリックしてください。

秀	6
優	25
良	49
可	28
合	2
認定	0
合計	110

閉じる

評価毎の合計単位数を一覧表示します。

各科目の評価とあわせて、得点及びGPが表示されます。

GPA

確認が終わったら、開じるボタンをクリックしてください。

GPAグラフは、同一学部、同一学年の学生を対象として人数の分布を集計しています。

学年	3年
前GPA値	1.725
0年度 前期 GPA値	1.802
0年度 後期 GPA値	1.845
1年度 前期 GPA値	1.701
1年度 後期 GPA値	1.835
2年度 前期 GPA値	1.553
GPA算出日	2013年 02月 06日

同一学部・同一学年における、GPA 値の人数分布をグラフ表示します。

あなたのGPA値は1.725です

人数

GPA値

学期毎のGPA 値を一覧表示します。

閉じる

履修中科目や過去の不合格科目も含めた成績通知表を、PDF 形式で出力します。学部によっては、定期的にこの様式により、成績を保証人へ郵送しています。

成績通知表

PDF

単位修得情報の参照

卒業要件・資格要件それぞれについて、要件区分毎の修得済単位数を確認することができます。必要な単位を正しく修得しているかを簡単に調べることができますが、卒業・資格単位の確認は基本的に学生便覧を使って行うようにし、WEBの集計単位数はあくまで二重チェック用として捉えてください。

- ・「教養科目選択」等、余剰単位を他の科目区分に振替える処理についても、反映済みの数値で表示されます。振替元の単位数は、移動した分減算されています。
- ・学部運用によっては、この画面を参照できない設定にしている場合があります。

単位修得情報参照画面

LiveCampus
Academic Affairs System

成績情報関連 > 単位修得情報の参照 > 単位修得情報参照

単位修得情報参照

学籍番号: 00000000 学生氏名: 静阿 太郎

余剰単位を他に振り替える扱いをする科目区分においては、上限単位の値を超えた単位数が振替先に加算されます。

卒業要件・資格要件の種別を切り替えることで、各集計表を参照できます。資格要件は「取得希望資格登録」画面で追加したものがリストとして表示されます。

大要件区分	中要件区分	科目区分	必修選択区分	必要単位	上限単位	修得単位	履修単位
【教養科目】	〔基礎教育科目〕	表用英語 1年次	選必	4	4	4	0
		表用英語 2年次	選必	4	0	4	0
		初修外国語	選必	4	0	4	0
	中要件合計			12		12	0
	〔現代教養科目〕	個別分野 人文	選必	2	2	2	0
		個別分野 自然	選必	4	4	4	0
		学際科目	選必	2	2	2	0
	中要件合計			8		8	0
	〔教養科目 選択〕	表用英語 選択	選択	0	4	2	0
		初修外国語 選択	選択	0	2	0	0
		個別分野 選択	選択	0	4	0	2
		学際科目 選択	選択	0	4	2	0
	中要件合計			8		4	2
大要件合計			28		24	2	

要件種別:

卒業要件
卒業要件
高等学校一種(数学)
中学校一種(数学)
小学校一種

履修単位・修得単位ともに、上限単位を超えた単位数は振替先に加算されます。

履修単位と修得単位の合計が必要単位に満たない場合は、赤字で表示されます。

科目区分別カリキュラム詳細

確認が終わったら、閉じるボタンをクリックしてください。

科目区分名: 個別分野科目
必修選択区分名: 選必

科目番号	科目名	担当教員	単位	得点	評価	修得年度	学期	読修前科目名
16110001	哲学		2					
16110002	歴史と文化		2					
16110003	ことばと表現		2					
16110004	日本国憲法	教員 一郎	2	85	優	2013	後期	
16110005	法と社会		2					
16110006	経済と社会		2			履修中		
16110007	国際社会と日本		2					
16110008	現代の社会		2					
16110009	心理学		2					
16110010	地域と文化		2					
16110011	芸術論		2					

科目区分のリンクから詳細画面を開き、カリキュラム一覧と修得済・履修中科目の比較を行うことができます。

未修得必修

確認が終わったら、閉じるボタンをクリックしてください。

科目名	単位数
道徳指導論	2
算数・数学科教科内容指導論Ⅱ	2
応用数学基礎	2
卒業研究(教員養成)	7

閉じる

未修得必修科目の一覧を確認できます。

取得希望資格登録

学務情報システムでの取得希望資格の登録は、教職履修カルテへの希望免許種の表示や、「成績情報参照」、「単位修得情報参照」の各画面における要件種別の選択リストに反映されます。

取得希望資格登録画面

右側の資格一覧から希望資格を選んで左側に移動、「確認」ボタンを押して確定させます。

・システムへの登録可能期間は学部により異なります。期間外の止むを得ない登録・修正は各学部の学務（教務）係にご相談ください。

教職履修カルテ登録

教員免許状取得希望者は、4年次に開講される「教職実践演習」に使用する「教職履修カルテ」を作成する必要があります。教職履修カルテは「教職に関する科目」の必修や「各教科教育法」などを対象とし、それぞれの科目で「学んだことと課題」と「自己評価」を入力します。

教職履修カルテ登録画面

各科目に対して「学んだことと課題」、「自己評価」を入力します。

■ 教職履修カルテの入力時期

教職履修カルテの作成は下記の流れで行いますので、締切日までに忘れず入力をしてください。

《履修登録》

対象となる教職科目の履修が確定した時点からカルテの入力が可能になります。

《授業終了》

授業終了後速やかに学んだことと課題・自己評価欄を記入します。内容は当該授業の評価には影響しません。

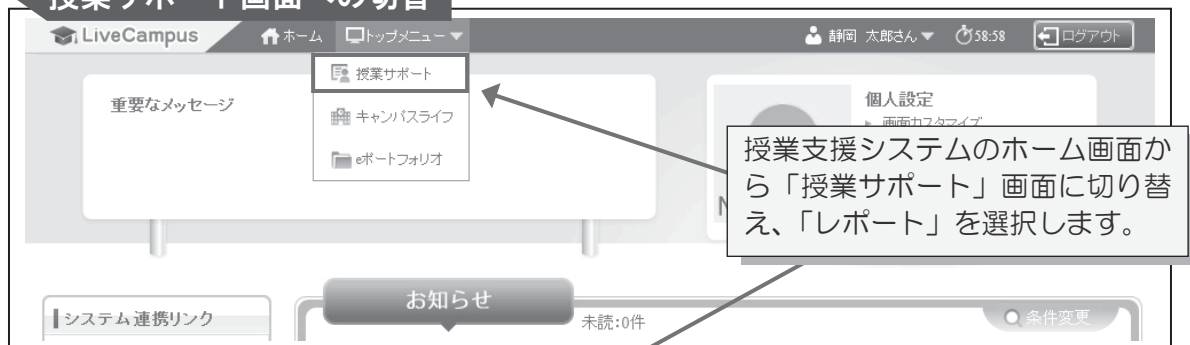
《各年度末》

各科目のカルテは授業開講の年度内であれば修正可能です。締切り後はシステムからの編集ができません。

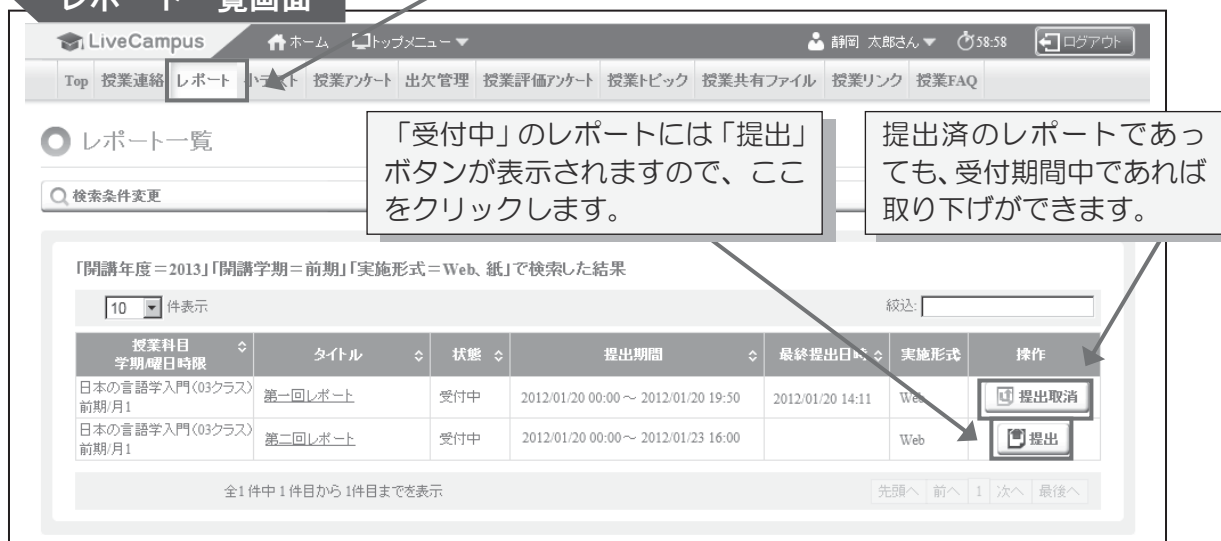
授業レポートの提出

授業担当教員から学務情報システムによるレポート提出の指示が出された場合は、以下のような手順でファイルのアップロードを行ってください。

授業サポート画面への切替



レポート一覧画面



レポート提出画面

LiveCampus
ホーム
トップメニュー

計画 太郎さん
58:58
ログアウト

Top
授業連絡
レポート
小テスト
授業アンケート
出欠管理
授業評価アンケート
授業トピック
授業共有ファイル
授業リンク
授業FAQ

レポート登録

受付中

タイトル	第二回レポート
提出期間	2012/06/01 00:00 ~ 2012/07/21 00:00
評価方法	評価(○×)
説明	第二回レポートです。2012/7/20までに必ず提出してください。
参考資料	レポート作成用資料.pdf
伝達事項	

「添付ファイル」ボタンを押して、作成したレポートファイルを指定してください。

レポート提出履歴

登録されていません。

レポート提出

提出レポート
(計50MB以内)
必須

添付ファイル

コメント
(1000文字以内)

登録

ファイル指定後に「登録」ボタンを押せば完了です。

- 授業によってはレポート以外に、小テスト、授業アンケート等の機能を利用することがありますが、これらの操作画面も「授業サポート」メニューの上部に並んだ各ボタンから遷移する流れとなります。

成績経年グラフの参照

授業支援システムの一部である「e ポートフォリオ」の画面上で、単位修得状況の経年グラフを確認することができます。年度別の評価別単位数も表示されますので、適宜参考にしてください。

e ポートフォリオ画面への切替

LiveCampus
ホーム
トップメニュー

計画 太郎さん
58:58
ログアウト

重要なメッセージ

授業サポート
キャンパスライフ
eポートフォリオ

個人設定
画面カスタマイズ

システム連携リンク
お知らせ
未読:0件
条件変更

授業支援システムのホーム画面から「e ポートフォリオ」画面に切り替えます。

プロフィールシート画面

e ポートフォリオのメニュー一覧から「プロフィールシート」を選択します。

プロフィールシート
単位修得状況では、年度／学期ごとに成績の確認を行うことができます。
累積単位数の平均値は、同一学部・同一学年における平均値を表しています。

年度学期別の修得単位数を評価毎に色分けしたグラフです。

年度学期別の累積単位数と、同一学部・同一学年の平均値をグラフ化しています。

単位修得状況

年度学期別評価

年度学期	秀	優	良	可	不可	再試	合	認定	その他	否
2010年度前期	3	9	4	4	0	0	1	0	0	0
2010年度後期	7	11	4	4	0	0	1	0	0	0

累計修得単位

年度学期	単位数	平均値
10前	21	18.8
10後	27	21.0
11前	26	23.0
11後	26	25.0
12前	20	27.0
12後	12	29.5

年度学期別評価グラフのデータを表形式で出力しています。

年度学期のリンクから、当該期間中の修得科目一覧を表示する画面に遷移します。

成績情報

この画面では、対象年度の成績情報を参照できます。

2010年度後期成績情報

10 件表示

学期	科目区分	科目名	単位区分	単位	得点	評価
後期	自由 教職	教職入門Ⅱ	選択	1	83	優
後期	自由 教職	教育相談	選択	2	85	優
後期	自由 教職	生涯学習概論	選択	2	85	優
後期	自由 教職以外	博物館実習	選択	1	85	優

全10件中1件目から10件目まで表示

科目区分絞込

科目区分
☒ 情報処理
☒ 実用英語 1年次
☒ 実用英語 2年次
☒ 初級外国語
☒ 健康体育
☒ 個別分野 人文
☒ 個別分野 自然
☒ 学際科目

「科目区分絞込」ボタンを押すことで、グラフ上で集計する科目範囲を指定できます。

〔ポートフォリオシステムについて〕

本システムは学生自らが学修成果を管理・点検するための各種機能を提供します。これらの機能を利用することで、大学での学びや就職活動に向けた取り組みを自己管理するとともに、指導教員等が定期的にレスポンスを返すやり取りが可能となります。

ポートフォリオ機能の操作概要については、学務情報システムのトップページ等に公開されている別冊子をご参照ください。

不正アクセス行為の禁止等に関する法律

(目的)

第一条 この法律は、不正アクセス行為を禁止するとともに、これについての罰則及びその再発防止のための都道府県公安委員会による援助措置等を定めることにより、電気通信回線を通じて行われる電子計算機に係る犯罪の防止及びアクセス制御機能により実現される電気通信に関する秩序の維持を図り、もって高度情報通信社会の健全な発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において「アクセス管理者」とは、電気通信回線に接続している電子計算機（以下「特定電子計算機」という。）の利用（当該電気通信回線を通じて行うものに限る。以下「特定利用」という。）につき当該特定電子計算機の動作を管理する者をいう。

2 この法律において「識別符号」とは、特定電子計算機の特定利用をすることについて当該特定利用に係るアクセス管理者の許諾を得た者（以下「利用権者」という。）及び当該アクセス管理者（以下この項において「利用権者等」という。）に、当該アクセス管理者において当該利用権者等を他の利用権者等と区別して識別することができるように付される符号であって、次のいずれかに該当するもの又は次のいずれかに該当する符号とその他の符号を組み合わせたものをいう。

一 当該アクセス管理者によってその内容をみだりに第三者に知らせてはならないものとされている符号

二 当該利用権者等の身体の一部若しくは一部の影像又は音声を用いて当該アクセス管理者が定める方法により作成される符号

三 当該利用権者等の署名を用いて当該アクセス管理者が定める方法により作成される符号

3 この法律において「アクセス制御機能」とは、特定電子計算機の特定利用を自動的に制御するために当該特定利用に係るアクセス管理者によって当該特定電子計算機又は当該特定電子計算機に電気通信回線を介して接続された他の特定電子計算機に付加されている機能であって、当該特定利用をしようとする者により当該機能を有する特定電子計算機に入力された符号が当該特定利用に係る識別符号（識別符号を用いて当該アクセス管理者の定める方法により作成される符号と当該識別符号の一部を組み合わせた符号を含む。次項第一号及び第二号において同じ。）であることを確認して、当該特定利用の制限の全部又は一部を解除するものをいう。

4 この法律において「不正アクセス行為」とは、次の各号のいずれかに該当する行為をいう。

一 アクセス制御機能を有する特定電子計算機に電気通信回線を通じて当該アクセス制御機能に係る他人の識別符号を入力して当該特定電子計算機を作動させ、当該アクセス制御機能により制限されている特定利用をし得る状態にさせる行為（当該アクセス制御機能を付加したアクセス管理者がするもの及び当該アクセス管理者又は当該識別符号に係る利用権者の承諾を得てするものを除く。）

二 アクセス制御機能を有する特定電子計算機に電気通信回線を通じて当該アクセス制御機能による特定利用の制限を免れることができる情報（識別符号であるものを除く。）又は指令を入力して当該特定電子計算機を作動させ、その制限されている特定利用をし得る状態にさせる行為（当該アクセス制御機能を付加したアクセス管理者がするもの及び当該アクセス管理者の承諾を得てするものを除く。次号において同じ。）

三 電気通信回線を介して接続された他の特定電子計算機が有するアクセス制御機能によりその特定利用を制限されている特定電子計算機に電気通信回線を通じてその制限を免れることができる情報又は指令を入力して当該特定電子計算機を作動させ、その制限されている特定利用をし得る状態にさせる行為

(不正アクセス行為の禁止)

第三条 何人も、不正アクセス行為をしてはならない。

(他人の識別符号を不正に取得する行為の禁止)

第四条 何人も、不正アクセス行為（第二条第四項第一号に該当するものに限る。第六条及び第十二条第二号において同じ。）の用に供する目的で、アクセス制御機能に係る他人の識別符号を取得してはならない。

(不正アクセス行為を助長する行為の禁止)

第五条 何人も、業務その他正当な理由による場合を除いては、アクセス制御機能に係る他人の識別符号を、当該アクセス制御機能に係るアクセス管理者及び当該識別符号に係る利用権者以外の者に提供してはならない。

(他人の識別符号を不正に保管する行為の禁止)

第六条 何人も、不正アクセス行為の用に供する目的で、不正に取得されたアクセス制御機能に係る他人の識別符号を保管してはならない。

(識別符号の入力を不正に要求する行為の禁止)

第七条 何人も、アクセス制御機能を特定電子計算機に付加したアクセス管理者になりすまし、その他当該アクセス管理者であると誤認させて、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、当該アクセス管理者の承諾を得てする場合は、この限りでない。

一 当該アクセス管理者が当該アクセス制御機能に係る識別符号を付された利用権者に対し当該識別符号を特定電子計算機に入力することを求める旨の情報を、電気通信回線に接続して行う自動公衆送信（公衆によって直接受信されることを目的として公衆からの求めに応じ自動的に送信を行うことをいい、放送又は有線放送に該当するものを除く。）を利用して公衆が閲覧することができる状態に置く行為

二 当該アクセス管理者が当該アクセス制御機能に係る識別符号を付された利用権者に対し当該識別符号を特定電子計算機に入力することを求める旨の情報を、電子メール（特定電子メールの送信の適正化等に関する法律（平成十四年法律第二十六号）第二条第一号に規定する電子メールをいう。）により当該利用権者に送信する行為

(アクセス管理者による防御措置)

第八条 アクセス制御機能を特定電子計算機に付加したアクセス管理者は、当該アクセス制御機能に係る識別符号又はこれを当該アクセス制御機能により確認するために用いる符号の適正な管理に努めるとともに、常に当該アクセス制御機能の有効性を検証し、必要があると認めるときは速やかにその機能の高度化その他当該特定電子計算機を不正アクセス行為から防御するため必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

《中略》

(罰則)

第十一条 第三条の規定に違反した者は、三年以下の懲役又は百万円以下の罰金に処する。

第十二条 次の各号のいずれかに該当する者は、一年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。

一 第四条の規定に違反した者

二 第五条の規定に違反して、相手方に不正アクセス行為の用に供する目的があることの情を知ってアクセス制御機能に係る他人の識別符号を提供した者

三 第六条の規定に違反した者

四 第七条の規定に違反した者

五 第九条第三項の規定に違反した者

第十三条 第五条の規定に違反した者（前条第二号に該当する者を除く。）は、三十万円以下の罰金に処する。

附則

13 情報基盤センターの利用について

情報基盤センターは、研究・教育利用を目的とした全学の共同利用施設ですので、学生の皆さんも大いに利用してください。センター実習室の教育用コンピュータは、全学生が利用できるようになっています。浜松キャンパスに浜松オフィス(管理室:創造科学技術大学院棟2階)、静岡キャンパスに静岡オフィス(管理室:共通教育L棟1階)があります。

利用には静岡大学から発行された静大IDとパスワードが必要となりますが、これらは各学部から通知されます。

情報基盤センター実習室は、授業で使用している場合を除き、下記の時間帯で利用できます。下記の点に特に注意して、マナーを守って利用してください。

- ① パスワードは他人に分からないようにし、他人に自分の静大IDを使用させない。
- ② 飲食・喫煙は厳禁です。
- ③ パソコンの設定を教員の指示なく勝手に変更しない。
- ④ 図書館と同じように静粛に学習する場です。

なお、「センター利用について」をよく読んでから利用してください。

※<http://www.cii.shizuoka.ac.jp/>の「学内専用サイト」をクリックし、「利用案内」の各项をクリックする。

不明な点は、センター管理室にお問い合わせください。

<情報基盤センター実習室一覧>

キャンパス	室 名	PC 台数	利用時間 (平日)	備 考
静岡キャンパス	共通教育L棟 実習室1	60	8:30~21:00	調整作業日は利用時間 が変更になります。 休業期間は利用時間の 変更と閉鎖になる実習 室があります。 休日は終日閉鎖してい ます。
	共通教育L棟 実習室2	50	8:30~21:00	
	共通教育L棟 実習室3	50	8:30~21:00	
	共通教育L棟 実習室4	24	8:30~21:00	
	共通教育L棟 実習室5	25	8:30~21:00	
	共通教育L棟 実習室6	50	8:30~17:00	
浜松キャンパス	工学部7号館 計算機室1	65	8:30~21:00	
	工学部7号館 計算機室2	25	8:30~21:00	
	工学部5号館 306 電子計算機室	100	8:30~21:00	

※授業での利用状況及び利用時間については、情報基盤センターのホームページで確認してください。

14 本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ*

平成12年 2月 3日 制定
平成29年 2月 2日 一部改正

1. Intensive Language Program, University of Nebraska at Omaha (ILUNO)を修了した学生及びアルバート大学 Visiting Student Certificate Program (VSCP)を修了した学生の申請に基づき、「英語海外研修 A」、「英語海外研修 B」、「英語ディスカッション」、「英語インテンシブ A」、「英語インテンシブ B」、「アカデミックイングリッシュ I」のうちの未修得 2 科目 4 単位として認め、評価は「秀」とする。
**
2. 国際交流センターが提供するイギリス春季短期留学の英語研修を受講し、修了書を授与された学生の申請に基づき、「英語海外研修 A」、「英語海外研修 B」のうちの未修得 1 科目 2 単位として認め、評価は「認定」とする。
3. 朝鮮大学校サマースクールの韓国語研修を受講し、修了証明書を授与された学生の申請に基づき、「初修外国語（現代韓国語）Ⅰ」、「初修外国語（現代韓国語）Ⅱ」、「初修外国語（現代韓国語）Ⅲ」、「初修外国語（現代韓国語）Ⅳ」、「ABP海外研修Ⅲ」のいずれか 1 科目 2 単位として認め、評価は「認定」とする。
4. 以下の外部試験において所定のスコアを収めた学生の申請に基づき、以下に掲げる教養科目の英語科目群のうち所定の単位を認め、評価は「秀」とする。***, ***, ****

	「英語コミュニケーションⅠ」 及び「英語演習Ⅰ」の 計 2 単位分まで	左の科目に「英語演習Ⅲ」を 加えた計 4 単位分まで
実用英語技能検定試験	準 1 級	1 級
TOEIC [®] L&R	730 点以上	875 点以上
TOEFL-PBT, TOEFL-ITP	550 点以上	600 点以上
TOEFL-iBT	80 点以上	100 点以上

5. 静岡県西部地区「共同授業」を 2 年次以降に受講し、修得した単位については、その授業科目を学際科目 2 単位とし、評価は修得した単位の素点を基に評価する。
6. ふじのくに地域・大学コンソーシアム単位互換事業提供科目を 2 年次以降に受講し、修得した単位については、その授業科目を学際科目 2 単位とし、評価は修得した単位の素点を基に評価する。
7. 放送大学の特別聴講学生として放送大学の講義を受講し、単位認定試験に合格した学生は、受講科目を教養科目として読替えて単位を認め、評価は「認定」とする。なお、授業科目の読替表等詳細は別途指示する。
8. 単位修得済み科目への認定申請はできない。

*この申合せは、平成 29 年 3 月 1 日から実施する。

**申請には国際交流センター発行の証明書が必要である。証明書の発行を受けるためには、派遣にあたって国際交流センターが定める条件を満たす必要がある。

***入学 1 年前の 4 月 1 日（ABP 留学生は 10 月 1 日）以降に受験したスコアを有効とし、公式な証明書の提出が必要である。また、「英語演習Ⅰ」及び「基礎英語演習」の期末試験として行う TOEIC[®] L&R IP テストについては、上記 4 は適用しない。

****同一基準による認定は 1 回限りとし、上位基準で追加申請する場合には、既認定単位を合算する。

*****TOEIC 以外の外部試験において所定のスコアを収めた学生が申請時に特に希望する場合は、上記 4 の表に基づき、TOEIC スコア 731 点又は 881 点の「みなし得点」を学務情報システムに登録する。

15 静岡大学全学教育科目規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人静岡大学学則(昭和24年12月21日制定)第31条の規定に基づき、大学教育センター(以下「センター」という。)が開設する授業科目(この規程において「全学教育科目」という。)に関し、必要な事項を定める。

(全学教育科目の実施)

第2条 全学教育科目は、全教員の責任と協力の下に全学で行う。

2 前項の全学教育科目に係る教育の企画、運営及び実施については、センターがこれに当たる。ただし、次条に規定する日本語・日本文化研修科目に係る教育の企画、運営及び実施については、国際交流センターがこれに当たる。

(全学教育科目の区分)

第3条 全学教育科目の区分は、次のとおりとする。

大区分	科目区分	小科目区分
教養科目	基軸教育科目	新入生セミナー
		情報処理
		英語
		初修外国語
		健康体育
		フィールドワーク
		キャリア形成科目
	現代教養科目	個別分野科目
		学際科目
	留学生科目	日本語
		日本事情
		基礎日本語
	教職等資格科目	教職教養科目
専門科目	教職等資格科目	教職専門科目Ⅰ
		教職専門科目Ⅱ
		学芸員科目
	文系基礎科目	
	理系基礎科目	

(授業科目及び単位数)

第4条 学部ごと対象となる全学教育科目の授業科目及び単位数は、別表Ⅰのとおりとする。

(単位の計算)

第5条 各授業科目の単位は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果及び授業時間外に必要な学修を考慮して、次に定める基準により計算する。

- (1) 講義については、1時間の授業に対して2時間の授業時間外の学修を必要とするものとし、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、授業の内容により、1時間の授業に対して2時間又は0.5時間の授業時間外の学修を必要とするものとし、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技については、授業の内容により、1時間の授業に対して0.5時間の授業時間外の学修を必要とするときは30時間、授業時間外の学修を要しないときは45時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 講義、演習、実験、実習又は実技のうち、複数の方法の併用により授業を行う場合は、その組み合わせに応じ、次表の学修時間により計算した総学修時間数が45時間となる授業をもって1単位とする。

授業の種類	授業 1 時間当たりの学修時間
講義	3 時間
演習	授業の内容により 1.5 時間又は 3 時間
実験、実習及び実技	授業の内容により 1 時間又は 1.5 時間

(履修要件)

第 6 条 学生が履修すべき教養科目の単位数は、別表Ⅱのとおりとする。

2 学生は、前項の定めにより授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

(履修手続)

第 7 条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の期日までに、所属する学部届け出なければならない。

(試験及び単位の認定)

第 8 条 試験は、学期末又は学年末に行う。学期を単位としない授業科目については、随時行う。

2 授業科目の単位の認定は、試験その他の方法により行う。

3 前条に定める手続を経ない授業科目については、単位の認定を行わない。

4 病気その他やむを得ない事由で試験を受けることのできなかった者は、センターが別に定める手続により追試験を受けることができる。

(成績評価)

第 9 条 成績評価は、「秀」、「優」、「良」、「可」及び「不可」の評語で表し、「秀」、「優」、「良」及び「可」を合格とし、「不可」を不合格とする。

2 前項の規定のほか、授業科目によっては、「合」及び「否」の評語で表すことができることとし、「合」を合格とし、「否」を不合格とする。

(入学前の既修得単位等の取扱い等)

第 10 条 学生が、入学前の既修得単位等の認定等を大学教育センター長に願い出たときの教養科目の取扱いは、センターが別に定める。

(編入学等の単位の取扱い)

第 11 条 編入学、転入学又は再入学を許可された者の教養科目の修得単位の取扱いは、センターが別に定める。

(科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生)

第 12 条 全学教育科目を受講する科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生に関し必要な事項は、センターが別に定める。

(日本語・日本文化研修科目)

第 13 条 第 3 条に規定する日本語・日本文化研修科目の授業科目、単位数及び履修要件は、別表Ⅲのとおりとする。

(補則)

第 14 条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に必要な事項は、センターが別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 静岡大学共通科目規程は、廃止する。
- 3 静岡大学専門科目（基礎）に関する規程は、廃止する。
- 4 平成 17 年度以前に入学した学生については、この規程(第 9 条を除く。)にかかわらず、なお従前の例による。

＜平成 19 年～平成 28 年の附則は省略＞。

附 則

- 1 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 28 年 9 月以前に入学した学生については、この規程による改正後の静岡大学全学教育科目規程の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表Ⅲ(第13条関係)

教養科目(日本語・日本文化研修科目)

科目 区分	小科目区分	授業科目	単位	授業 形態	難易度	備 考	
日本語・日本 文化研修科目	日本語研修科目	日本語初級Ⅰ	10	演習	初級前半	左記6科目を同一学期に全て履修すること。 なお、再履修は原則認めない。	
		日本語初級Ⅱ	1	演習			
		日本語初級Ⅲ	1	演習			
		日本語初級Ⅳ	1	演習			
		日本語初級Ⅴ	1	演習			
		日本語初級Ⅵ	1	演習			
		日本語中級Ⅰ	2	演習	中級後半	左記10科目を同一学期に全て履修すること。 なお、再履修は原則認めない。	
		日本語中級Ⅱ	2	演習			
		日本語中級Ⅲ	2	演習			
		日本語中級Ⅳ	2	演習			
		日本語中級Ⅴ	2	演習			
		日本語中級Ⅵ	2	演習			
		日本語中級Ⅶ	2	演習			
		日本語中級Ⅷ	2	演習			
		日本語中級Ⅸ	2	演習			
		日本語中級Ⅹ	2	演習			
		日本語1A-S(入門)	4	演習	初級前半		
		日本語1A-F(入門)	4	演習	初級後半		
		日本語2A-S(基礎)	3	演習			初級後半
		日本語2A-F(基礎)	3	演習	中級前半		
		日本語3A-S(読解・文法)	1	演習			中級前半
		日本語3A-F(読解・文法)	1	演習			
		日本語3B-S(聴解・語彙)	1	演習			
		日本語3B-F(聴解・語彙)	1	演習			
		日本語3C-S(作文・話し方)	1	演習			
		日本語3C-F(作文・話し方)	1	演習			
		日本語3D-S(総合)	1	演習			
		日本語3D-F(総合)	1	演習			
		日本語4A-S(読解・文法)	2	演習	中級後半		
		日本語4A-F(読解・文法)	2	演習			
	日本語4B-S(聴解・語彙)	2	演習				
	日本語4B-F(聴解・語彙)	2	演習				
	日本語4C-S(作文・話し方)	2	演習				
	日本語4C-F(作文・話し方)	2	演習				
	日本語4D-S(総合)	2	演習				
	日本語4D-F(総合)	2	演習				
	日本語5A-S(総合)	2	演習	上級			
	日本語5A-F(総合)	2	演習				
	日本語5B-S(総合)	2	演習				
	日本語5B-F(総合)	2	演習				
	日本文化研修科目	日本文化研修	2	演習	初級後半～		

注意

1. 日本語・日本文化研修科目は、特別聴講学生(大学間又は部局間交流協定に基づく交換留学生に限る。)及び科目等履修生(日本語・日本文化研修留学生に限る。)対象の科目であり、日本人学生の履修は認めない。
2. 受講を特別に許可された正規留学生が履修した場合は、原則として卒業単位にはならない。ただし、「留学生科目等に関する申合せ」により読替えが認められた場合は、この限りでない。

16 教養科目の成績評価に関わる指針

平成 14 年 12 月 5 日

制定の目的

授業担当教員（非常勤講師を含む。以下同じ。）が以下の各項目を念頭におき、成績評価の透明性・厳正性の向上に努めることを目的とする。

- 1 成績評価は、授業科目の目的・目標に照らして、その達成度について行われるものである。したがって、各授業科目について、その目的や到達目標を明確にすることが重要である。
- 2 成績評価は、各授業科目の目的・目標に沿って行われるものであるとともに、教養教育全体として円滑かつ効果的に実施されるものでなければならない。
- 3 教養教育の効果を高めるため、厳格かつ説明可能な成績評価を実施する。
- 4 各授業科目の成績評価は、授業担当教員の責任において行う。
- 5 授業担当教員は、履修学生に評価の基準を明確に示したうえで、その基準に沿って評価する。
- 6 同一授業科目の成績評価については、授業担当教員によって成績評価の極端なばらつきが生じないように、分科会は成績評価の基準設定に努める。
特に、学生が選択できないクラス指定の授業科目の成績評価基準については、成績評価方法も含めてできる限り共通化の方向を検討する。
- 7 授業担当教員は、学生の学習意欲の促進や学習指導に努める。
- 8 授業担当教員は、受講生の出席を把握するよう努める。

17 入学前の既修得単位等の取り扱い等について

全学教育科目規程第10条に関する入学前の既修得単位の取り扱いについて、次のように定める。

1 教養科目の既修得単位の取り扱いの手順

(1) 申請の窓口

学生は、別紙様式第1の書類(※)を教務課教務係又は浜松教務課共通教育係窓口へ所定の期日までに提出する。

(2) 審査書類等

教務課は、審査書類及び必要な資料を準備する。

(3) 審査及び協議

① 授業計画実施専門委員会で申請資料を審査する。

審査に際して、専門委員会は必要な場合、認定申請科目に関係する科目部と協議する。

② 専門委員会での審査結果を、大学教育センター運営委員会で承認する。

③ 大学教育センター運営委員会で承認した結果に基づき、学生の入学前に修得した教養科目の単位認定を決定する。

2 1年次に入学した者で、教養科目の単位認定の対象とすることができる入学前の既修得単位及び認定科目の範囲等は、次のとおりとする。

(1) 次に掲げる教育課程等で修得した単位及び本学の平成17年度以前のカリキュラムで修得した単位

① 大学又は短期大学（本学以外）

② 短期大学又は高等専門学校の専攻科

③ 大学の専攻科（本学以外）

④ 高等専門学校（4・5学年で履修するもので、大学教育に相当する水準を有するものに限る。）

⑤ 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のもの（大学教育に相当する水準を有するものに限る。）

ただし、情報処理、新入生セミナー、フィールドワーク、キャリアデザイン及び学際科目（放送大学の一部の科目は学際科目として認定可能）を除く。また、教職教養科目については認定課程を有する大学及び認定課程を有する短期大学（専攻科を含む。）において「教職に関する科目」として修得したものに限る。

(2) 本学の平成18年度以降のカリキュラムで修得した単位

教養科目について修得した科目全部を認定の取扱科目とする。

(3) 英語科目の外部試験（実用英語検定、TOEIC[®] L&R 及び TOEFL の成果の認定）に基づく単位の認定については、「本学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する申合せ」の第4項による。

3 本取り扱いは、平成29年度入学者から適用する。

※全学教育科目の申請書は、教務課教務係と浜松教務課共通教育係にあります。専門科目は所属学部/学部の学務（教務）係に相談してください。

18 編入学等の単位の取り扱いについて

全学教育科目規程第 11 条に関する取り扱いについて、次のように定める。

- 1 3 年次編入の学生について、教養科目の取り扱いを次のようにする。
 - (1) 「編入学の取り扱いに関する申し合わせ」(全学教務委員会平成 6 年 3 月 1 日制定、全学教育企画委員会平成 18 年 7 月 6 日修正)により取り扱う。
 - (2) 上記の取り扱いに関し、学部事務部と教務課が事務的連絡を行い、その内容を授業計画実施専門委員会が検討し、大学教育センター運営委員会へ報告する。
- 2 転入学又は再入学を許可された者の教養科目の取り扱いを次のようにする。

全学教育科目規程第 10 条に関する取り扱いに準じて取り扱う。

19 科目等履修生等の取り扱いについて

全学教育科目規程第 12 条に関する取り扱いについて、次のように定める。

- 1 科目等履修生の取り扱い
 - (1) 全学教育科目に関する受講の審査は、授業計画実施専門委員会が行う。
 - ① 全学教育科目に係る科目等履修生の出願等について、別紙(※)のとおり行う。
 - ② 出願期間及び選考は全学同一期間に行う。(但し、集中講義は別途期日を定める場合あり。)
前学期の授業の履修に関して・・・出願期間：3 月上旬、選考：3 月中旬(年度により調整)
後学期の授業の履修に関して・・・出願期間：9 月上旬、選考：9 月中旬(年度により調整)
 - (2) 納付金(検定料・入学料・授業料)などの事務の処理
 - ① 全学教育科目と学部専門科目の申請者について
検定料を 1 回納入という便宜を図ることから、専門科目に係る学部で取り扱う。
 - ② 全学教育科目のみの申請者について
静岡キャンパス：教務課
浜松キャンパス：浜松教務課共通教育係 } で取り扱う。
 - (3) 履修できる授業科目及び単位数
 - ① 1 年間に履修できる単位数は、10 単位以内とする。
 - ② 受講可能人数は、1 授業科目について 3 名以内とする
 - ③ 全学教育科目のうち、情報処理、英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ
(但し、英語コミュニケーションⅠを修得していること)、「健康体育Ⅰ」、「健康体育Ⅱ」(但し、健康体育の履修には、健康体育科目部授業実施委員との事前相談が必要)、個別分野科目、学際科目、教職教養科目、教職専門科目及び学芸員科目とする。(教職実践演習《教職専門科目》は、事前に受付事務にて履修可否の確認が必要)
- 2 聴講生及び特別聴講学生の取り扱い
科目等履修生に準じて行う。
- 3 本取り扱いは、平成 27 年度から適用する。

※出願要領は、教務課と浜松教務課共通教育係にあります。

20 留学生科目等に関する申合せ

平成24年11月 8 日制定
平成28年 7 月 7 日一部改正
大学教育センター運営委員会

この申合せは、静岡大学全学教育科目規程別表Ⅰ（第4条関係）及び別表Ⅲ（第13条関係）に規定する、留学生科目及び日本語・日本文化研修科目の修得単位の振替、読替及び履修に関し、必要な事項を申し合わせる。

1 日本語について

- (1) 日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ及びⅥは留学生対象の科目とし、修得した単位は英語（1単位科目及び2単位科目）、初修外国語（1単位科目及び2単位科目）又は現代教養科目（ただし、ＡＢＰ関連科目を除く）の単位として振替えることができる。ただし、英語及び初修外国語の1単位科目に振替える場合は、日本語2単位をもって1単位分とする。
- (2) 一定以上の日本語運用能力を有していると授業担当者が認定した場合を除いて、留学生は日本語Ⅰ、Ⅱ及びⅢの3科目を履修するものとする。（履修を希望しない場合は、必ず授業担当者の認定を受けなければならない。）
- (3) 留学生以外の学生は履修できない。

2 日本事情について

- (1) 日本事情は、原則として留学生対象の科目とし、修得した単位は現代教養科目（ただし、ＡＢＰ関連科目を除く）の単位として振替えることができる。
- (2) 授業担当者が特に認めた場合は、留学生以外の学生も履修することができ、修得した単位は、学際科目（ただし、ＡＢＰ関連科目を除く）の単位として振替えることができる。

3 ＡＢＰ関連科目の単位への振替えについて

上記規定に関わらず、ＡＢＰ留学生コースの学生に対し、学部教務委員会が特に認めた場合は、日本語Ⅰ～Ⅵ及び日本事情の単位のうち、教養科目選択（英語以外の学部指定履修科目の単位を除く）及び自由科目（情報学部においては専門科目その他）の必要単位数の合計を超えて修得した単位に限り、ＡＢＰ基礎日本語又はＡＢＰ科目として指定された個別分野科目の単位として振替えることができる。ただし、ＡＢＰ基礎日本語の1単位科目に振替える場合は、日本語2単位をもって1単位分とする。

4 日本語・日本文化研修科目について

- (1) 日本語初級Ⅰ～Ⅵ、日本語中級Ⅰ～Ⅹ、日本語1A-S～5B-F、日本文化研修は特別聴講学生（大学間又は部局間交流協定に基づく交換留学生に限る。）及び科目等履修生（日本語・日本文化研修留学生に限る。）対象の科目とするが、授業担当者等が特に認めた場合は、正規留学生も履修することができる。ただし、卒業単位にはならない。
- (2) 前項の規定に関わらず、ＡＢＰ留学生コースの学生が日本語中級Ⅰ～Ⅹを履修した場合は、修得した各科目の単位（2単位）を、対応するＡＢＰ基礎日本語Ⅰ～Ⅹの単位（1単位）として、それぞれ読替えるものとする。

附 則（平成28年7月7日改正）

- 1 この申合せは、平成28年10月1日から実施する。
- 2 平成26年度以前に入学した学生については、この申合せの規定にかかわらず、なお従前の例による。

21 TOEIC スコアのデータ登録に関する申合せ

平成 25 年 9 月 5 日 制定
平成 29 年 2 月 2 日 一部改正
第 9 回大学教育センター運営委員会

1. 学務情報システムに登録する TOEIC スコアは、入学 1 年前の 4 月 1 日(ABP 留学生は 10 月 1 日)以降に当該学生が受験したものを有効とし、学生本人の申告に基づき、本学学務部教務課（以下、教務課）において登録することを原則とする。
2. 但し、静大生協主催の *TOEIC*® L&R IP テストおよび学期末試験として実施するものについては、教務課において一括登録する。これに関連して、以下の細則を設ける。
 - (1) 学務情報システムへの登録が完了した後、教務課は学務情報システムからその旨を学内連絡として学生宛にメールで通知する。
 - (2) 静大生協主催の *TOEIC*® L&R IP テストの場合、学籍番号、生年月日、性別いずれかのマークに誤りがあった際は、当該学生の TOEIC スコアは学務情報システムに登録しない。
 - (3) 学期末試験の場合、学籍番号、生年月日、性別いずれかのマークに誤りがあった際は、教務課で修正して TOEIC スコアを学務情報システムに登録する。
 - (4) 一括登録に関わる誤登録の修正や未登録データの登録は、学生の申請に応じて、教務課に保存する元データと照合の上で行う。登録データの修正後、教務課は英語科目部にその旨を通知する。また、登録データの修正が履修科目の成績に関わる場合、翌学期の履修登録開始前日までの申請を当該科目の成績に反映するものとする。
3. 学務情報システムに登録されていない TOEIC スコアについては、科目の成績評価や選択科目の履修条件等、学務情報システム上の取り扱いには使用しない。
4. 特別な理由により、学務情報システムに「みなし得点」を登録する場合は、正規の得点と区別するため、登録する得点の下一桁を 1 点とする。
5. 本申合せは平成 29 年度入学生より適用する。

22 副専攻プログラムの履修について

1. 副専攻プログラムとは、所属する学部や学科の授業科目にとどまらず、自身の専攻(主専攻)以外に、興味や関心のある特定のテーマに沿った科目を体系的に学ぶ制度です。
2. 現在静岡大学で履修できる副専攻プログラムは、以下のとおりです。副専攻プログラムは希望学生が任意で履修する選択制で、それぞれについて修了認定に必要な要件を定めてあります。

(1)ABP 副専攻		
1	概要	静岡大学では、社会のニーズに応えるグローバル人材を育てる取り組みとして「アジア・ブリッジ・プログラム(ABP)」を実施しています。本副専攻は幅広い視野と国際的な感覚を身につけた学生を育てるためのプログラムです。
2	受講対象学部(人数)	全学部(1学年合計 60 名程度とする)
3	必要単位数	15単位
4	履修要件	ABP 科目、AL 科目、ABP 海外研修 I・II の履修には、 <i>TOEIC</i> [®] L&R 550 点以上の英語力、修了研究の履修には、 <i>TOEIC</i> [®] L&R 600 点以上の英語力が必要です。 (ABP=Asia Bridge Program、AL=Active Learning)
5	修了要件	修了には、必要単位数(15単位)の修得が必要です。
6	申請方法	所定の申請書をグローバル企画推進室窓口(静岡・浜松)へ提出。
7	問い合わせ先	グローバル企画推進室 : 054-238-3063
(2)静岡大学地域づくり副専攻		
1	概要	静岡大学では、国や地方がかかえる「地域課題」に対し、その解決策を提案し、さらにそれを実現できる人材の養成をコンセプトとして、「地域創造学環」を開始しました。本副専攻は地域社会で求められる課題解決能力を有する人材を育成するためのプログラムです。
2	受講対象学部(人数)	全学部(1学年合計 50 名程度とする)
3	必要単位数	18単位
4	修了要件	必要単位数18単位の修得 + 学修成果報告書の提出
5	申請方法	2年次以降、所定の申請書を教務課教務係窓口(静岡)または浜松教務課共通教育係(浜松)へ提出すること。詳細は、地域づくり副専攻ガイドンス(4月)で確認してください。
6	問い合わせ先	地域創造学環事務室 : 054-238-4311, 4315

3. 副専攻の修了が認められると「副専攻修了証書」が授与されます。「副専攻修了証書」は、主専攻の他にも特定の学習テーマに基づいた科目群を履修したことを外部に証明するものです。
4. 副専攻で修得した科目の多くは、卒業単位に含めることができます。詳細は所属学部の規則を確認してください。

ABP副専攻

(教養科目)

区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修 の別	履修 年次	必要 単位	備 考	
ABP科目*	個別分野科目 〈人文・社会分野〉	哲学 (Philosophy)	2	選択必修	1～3	8単位以上	ABP科目(英語)として 指定された個別分野科目から4科目8単位必修 ※開講される科目は年度により異なる場合がある。 TOEIC550点以上取得者が履修できる。 *ABP=Asia Bridge Program	
		歴史と文化 (History and Culture)	2	選択必修	1～3			
		ことばと表現 (Language Arts)	2	選択必修	1～3			
		日本国憲法 (The Japanese Constitution)	2	選択必修	1～3			
		法と社会 (Law and Society)	2	選択必修	1～3			
		経済と社会 (Economy and Society)	2	選択必修	1～3			
		国際社会と日本 (International Society and Japan)	2	選択必修	1～3			
		現代の社会(Contemporary Japanese Society)	2	選択必修	1～3			
		心理学 (Psychology)	2	選択必修	1～3			
		地域と文化 (Region and Culture)	2	選択必修	1～3			
	芸術論 (Aesthetics)	2	選択必修	1～3				
	〈自然科学分野〉	数学の世界 (Introduction to Mathematics)	2	選択必修	1～3			
		数理の構造 (The Structure of Mathematics)	2	選択必修	1～3			
		物理の世界 (Introduction to Physics)	2	選択必修	1～3			
		自然と物理 (Nature and Physics)	2	選択必修	1～3			
		化学の世界 (Introduction to Chemistry)	2	選択必修	1～3			
		生活の科学 (Sciences of Living)	2	選択必修	1～3			
		生命科学 (Life Science)	2	選択必修	1～3			
		生物と環境 (Life and the Environment)	2	選択必修	1～3			
		地球科学 (Earth Science)	2	選択必修	1～3			
		進化と地球環境 (Evolution and the Earth's Environment)	2	選択必修	1～3			
		科学と技術 (Science and Technology)	2	選択必修	1～3			
AL科目*		学際科目	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。		選択必修	2～3	4単位以上	AL科目として指定された学際科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) 英語で開講される科目は、TOEIC550点以上取得者が履修できる。 *AL=Active Learning
海外研修科目	英語	英語海外研修A	2	選択必修	1～4	2単位以上	ABP海外研修Ⅰ・Ⅱは、TOEIC550点以上取得者が履修できる。	
		英語海外研修B	2	選択必修	1～4			
	学際科目	海外大学交流研修Ⅰ	2	選択必修	3			
		ABP海外研修Ⅰ	2	選択必修	2～4			
		ABP海外研修Ⅱ	2	選択必修	2～4			
		ABP海外研修Ⅲ	2	選択必修	2～4			
修了認定科目	学際科目	ABP修了研究	1	必修	3～4	1単位	TOEIC600点以上取得者が履修できる。	
合計						15単位以上		

注意

1. 上記科目のうち、卒業単位となる科目は所属学部規則の定めるところによる。
2. TOEIC得点による履修制限は、各学期開始前の履修登録期間前日までに学務情報システムに登録されている得点を対象とする。

ABP (アジア・ブリッジ・プログラム) について

静岡大学では全学的な教育改革と組織改編によるグローバル人材育成機能の強化を掲げ、平成27年度よりアジアの国々(特に、タイ、インドネシア、ベトナム、インド)を対象とする国際プログラム (ABP) を開始しました。

学部レベルでは、上記4ヶ国からの学部留学生を毎年40名受け入れ、高度な日本語力を身につけた人材の育成を図ります。また、ABP副専攻(60名)を設け、国際的な実務能力の高い人材を輩出することを目指します。大学院レベルでは、理系の修士課程を一本化した英語による修士課程(40名)を創設し、海外からの優秀な人材の獲得を目指します。また、日本人修士学生のためのABP副専攻(40名)も併設します。

このプログラムは、静岡県内の企業、自治体、NPO法人などと協力し、国際的な実務能力の高い人材を育成するものであり、静岡県内企業への国際的人材の提供が期待されています。

ABP副専攻プログラムにかかる問い合わせ先:

静岡大学 グローバル企画推進室

054-238-3063

kglobal [at] ipc.shizuoka.ac.jp

<http://www.abp.icsu.shizuoka.ac.jp/>

静岡大学地域づくり副専攻

区分	科目名	単位数	授業形態	年次	開講学部	備 考
必修科目	地域創造概論	2	講	2～3	全学教育科目	
	地域づくりフィールドワーク ※	2	実	2～3	全学教育科目	地域づくりフィールドワーク、地域連携プロジェクト型セミナーから1科目2単位必修。
	地域連携プロジェクト型セミナー ※	2	演	2～3	全学教育科目	
	小 計	4単位				
選択必修科目	地域づくりの課題Ⅰ	2	講	2～3	全学教育科目	左記選択必修科目から2科目4単位必修。
	社会調査入門	2	講	1	人文社会科学部	
	統計・データ解析Ⅰ ※	2	講	1	人文社会科学部	
	地域連携論	2	講	1～3	人文社会科学部	
	統計学Ⅰ	2	講	2	人文社会科学部	
	統計学入門 ※	2	講	1	情報学部	
	社会調査法 ※	2	講	2	情報学部	
	小 計	4単位				
選択科目	社会資本マネジメント論	2	講	2～3	全学教育科目	コース融合プログラムのため左記選択科目から10単位以上を履修。
	NPO・ボランティア論	2	講	2～3	全学教育科目	
	実践からの防災行政論	2	講	2～3	全学教育科目	
	公共施設デザイン論	2	講	2～3	全学教育科目	
	地域社会と災害	2	講	2～3	全学教育科目	
	地震防災	2	講	2～3	全学教育科目	
	災害時におけるリスク危機マネジメント	2	講	2～3	全学教育科目	
	静岡県の防災・減災と原子力	2	講	2～3	全学教育科目	
	スポーツプロモーション論	2	講	2～3	全学教育科目	
	ヘルスプロモーション論	2	講	2～3	全学教育科目	
	スポーツマネジメント論	2	講	2～3	全学教育科目	
	フィジカルフィットネス論	2	講	2～3	全学教育科目	
	アートマネジメント概論	2	講	1	人文社会科学部	
	地域政策Ⅰ	2	講	1～3	人文社会科学部	
	地域経営Ⅰ	2	講	1～3	人文社会科学部	
	環境共生と地域の社会学	2	講	1～3	人文社会科学部	
	地域社会と文学文化	2	講	1～4	人文社会科学部	
	環境政策	2	講	1～4	人文社会科学部	
	男女共同参画論	2	講	2～3	人文社会科学部	
	地域社会学	2	講	2～3	人文社会科学部	
	臨床心理学Ⅰ	2	講	2～3	人文社会科学部	
	家族とジェンダーの社会学	2	講	2～3	人文社会科学部	
	仕事の社会学	2	講	2～3	人文社会科学部	
	地域社会と福祉	2	講	2～3	人文社会科学部	
	臨床社会心理学Ⅱ	2	講	2～3	人文社会科学部	
	劇場・音楽堂概論	2	講	2～3	人文社会科学部	
	政策過程論	2	講	2～4	人文社会科学部	
	地域政策Ⅱ	2	講	2～4	人文社会科学部	
	地域経営Ⅱ	2	講	2～4	人文社会科学部	
	環境と経済	2	講	2～4	人文社会科学部	
	環境法	2	講	2～4	人文社会科学部	
	アートマネジメント各論	2	講	3～4	人文社会科学部	
	アートマネジメント特講	2	講	3～4	人文社会科学部	
	スキー演習	2	演	1	教育学部	
	ニューススポーツ演習	2	演	1～2	教育学部	
	芸術鑑賞演習	2	演	3～4	教育学部	
	美術とメディア	2	講	2	情報学部	
	都市デザイン論	2	講	2～4	情報学部	
	パブリック・ガバナンス論	2	講	2～4	情報学部	
	家族福祉政策論	2	講	3	情報学部	
	地域情報マネジメント	2	講	3	情報学部	
	自治体行政論	2	講	3	情報学部	
	コミュニティ発展論	2	講	3～4	情報学部	
	コミュニティ・地域再生論	2	講	3～4	情報学部	
	生態学入門	2	講	1	農学部	
	環境と化学	2	講	1	農学部	
	生活の中の物理	2	講	1	農学部	
	食のリスクマネジメント	2	講	2	農学部	
	水と空気と光の物理化学	2	講	2	農学部	
	生活と防災の高分子科学	2	講	2	農学部	
小 計	10単位以上					
合 計	18単位以上					

注意

1. 所属学部専門科目の履修年次については、所属学部規則の定めるところによる。
2. 必修科目及び選択必修科目の区分において必要単位数を超えて修得した単位は、合計18単位に含まれない。
3. 「地域づくりフィールドワーク」、「地域連携プロジェクト型セミナー」、「統計・データ解析Ⅰ」、「統計学入門」及び「社会調査法」（※印の科目）は学環指定科目に含まれない。

23 防災マイスター称号制度について

（１）防災マイスターとは

静岡大学防災マイスター称号制度は、一定レベルの防災知識を備えた学生を養成して社会に送り出すために 2011 年度に立ち上げられました。この制度では、静岡県でとりわけ危惧される東海地震をはじめとする自然災害に対する科学的な知識を有し、それに基づいて災害時に自己や他者の生命と災害後の生活を守る上で有用な最低限の防災知識・スキルを獲得することを目標としています。

本制度は防災総合センターが中心となり、所定の科目を履修し授与を申請した学生に防災マイスター称号を与えるものであり、静岡キャンパスで先行して実施され、2015 年度までに 54 名が静岡大学防災マイスターの称号を得ています。

（２）到達目標

静岡県でとりわけ危惧される東海地震をはじめとする自然災害に対する科学的な知識を有し、それに基づいて災害時に自己や他者の生命と災害後の生活を守る上で有用な最低限の防災知識・スキルを獲得すること。また教育学部にあつては、それを学校安全の推進に活用できる能力を獲得することを目標としています。

（３）称号取得に必要な科目と認定条件

必修科目 3 単位、選択必修科目 4 単位以上、選択科目 5 単位以上の合計 12 単位以上の取得と、修了レポートの提出と合格が認定条件となります。

（４）単位修得後の資格取得の手続き

認定条件を満たしたのち、「静岡大学防災マイスター称号授与申請書」と単位取得確認書類（成績証明書）を提出してください。学位記授与式にて「静岡大学防災マイスター認定証」が授与されます。

（５）書類提出

防災マイスター称号制度に関する書類の提出は、静岡キャンパスは防災総合センター（大学会館 1 階）、浜松キャンパスは S-Port 1 階レポートボックスまたは書式を添付してメールアドレス： bousai-hama★shizuoka.ac.jp（★を@にしてください）をお願いします。

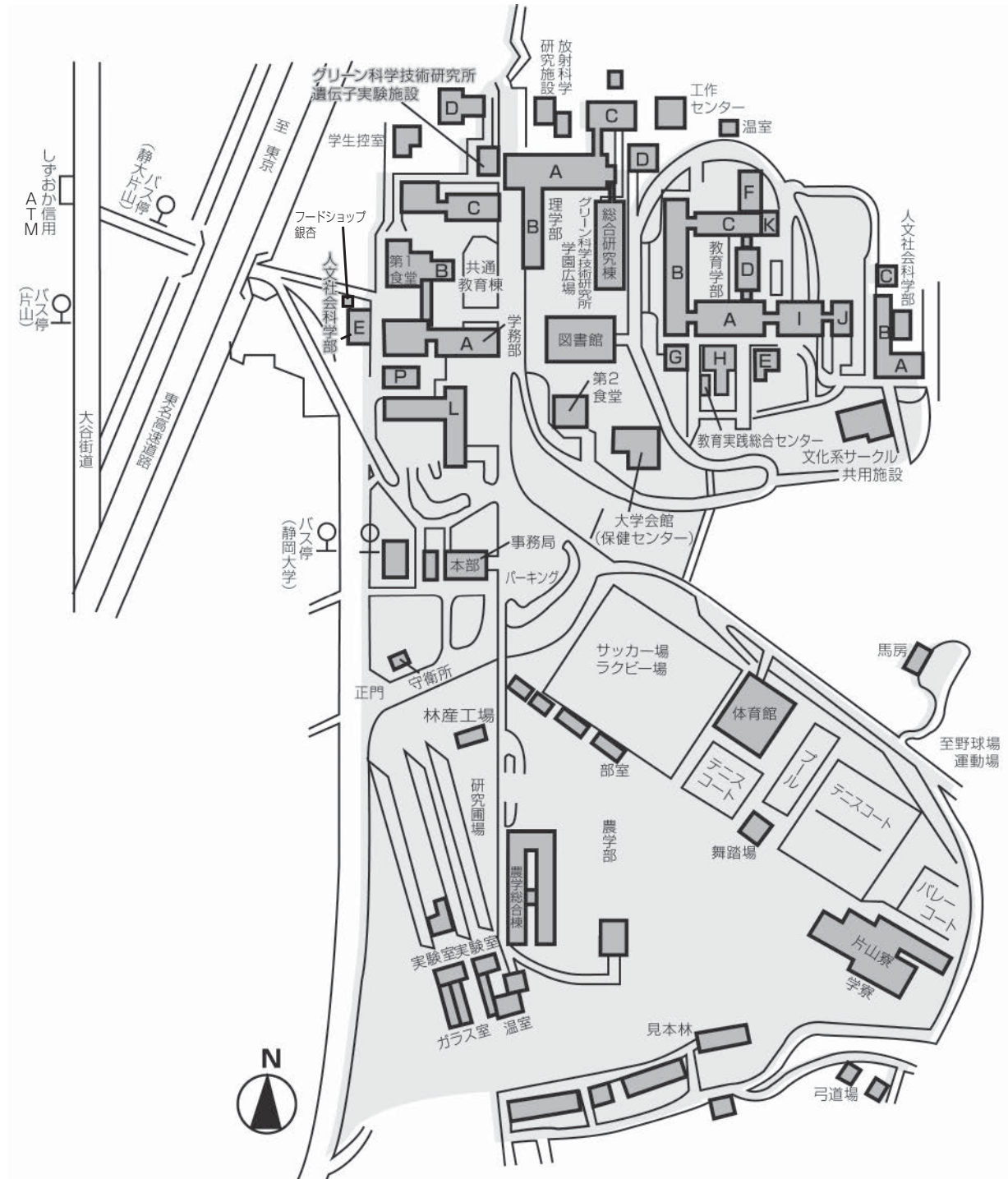
（６）相談窓口

防災マイスター称号制度に関する疑問・質問は、静岡キャンパスは防災総合センター（大学会館 1 階）、浜松キャンパスは工学部教務係、情報学部教務係をお願いします。

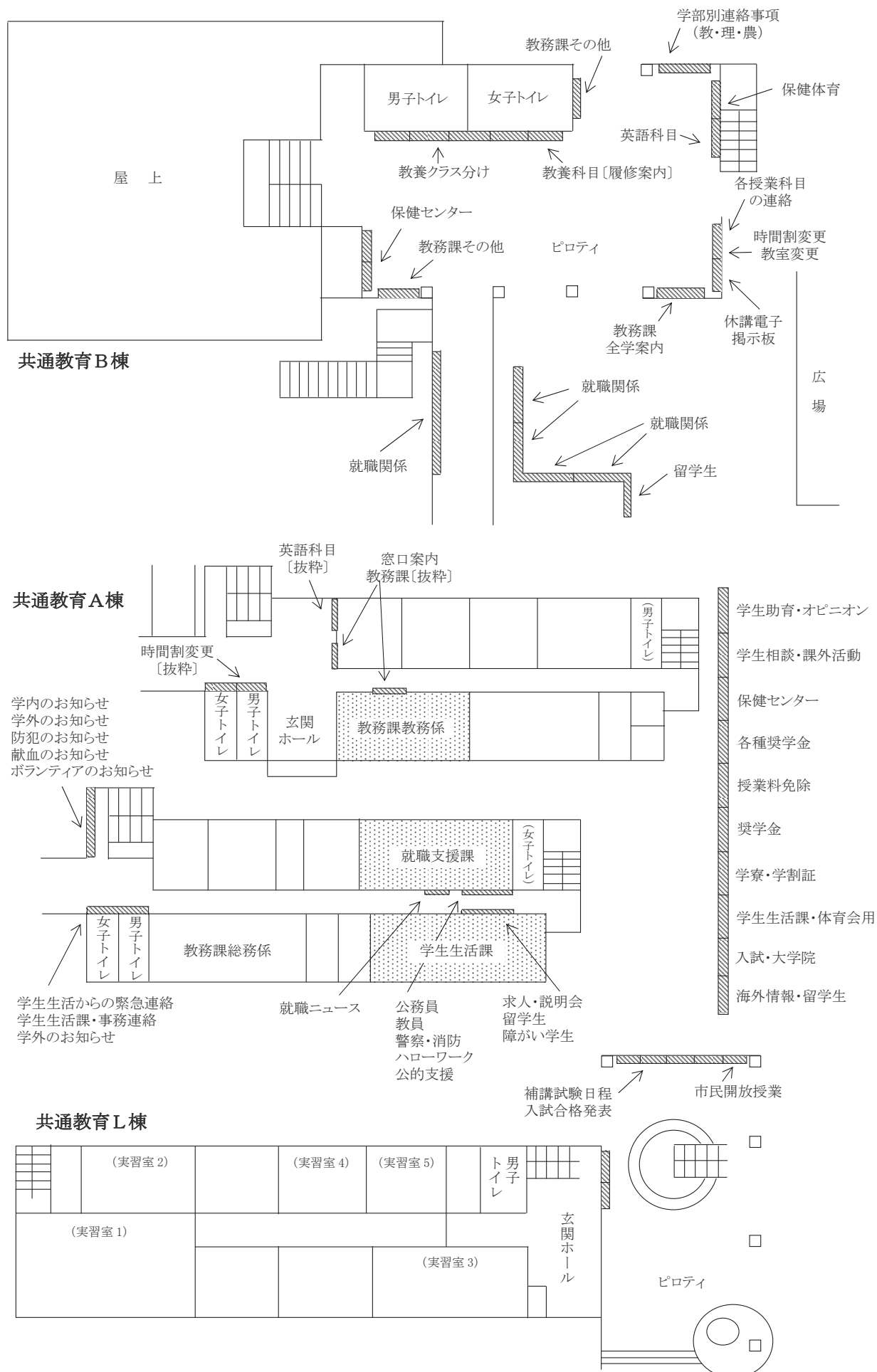
（７）防災マイスター称号制度ガイダンス

防災マイスター称号制度のガイダンスが 4 月上旬と 1 月下旬に開催されますので、取得を希望される方は参加してください。

24 静岡キャンパス共通教育棟校舎配置図

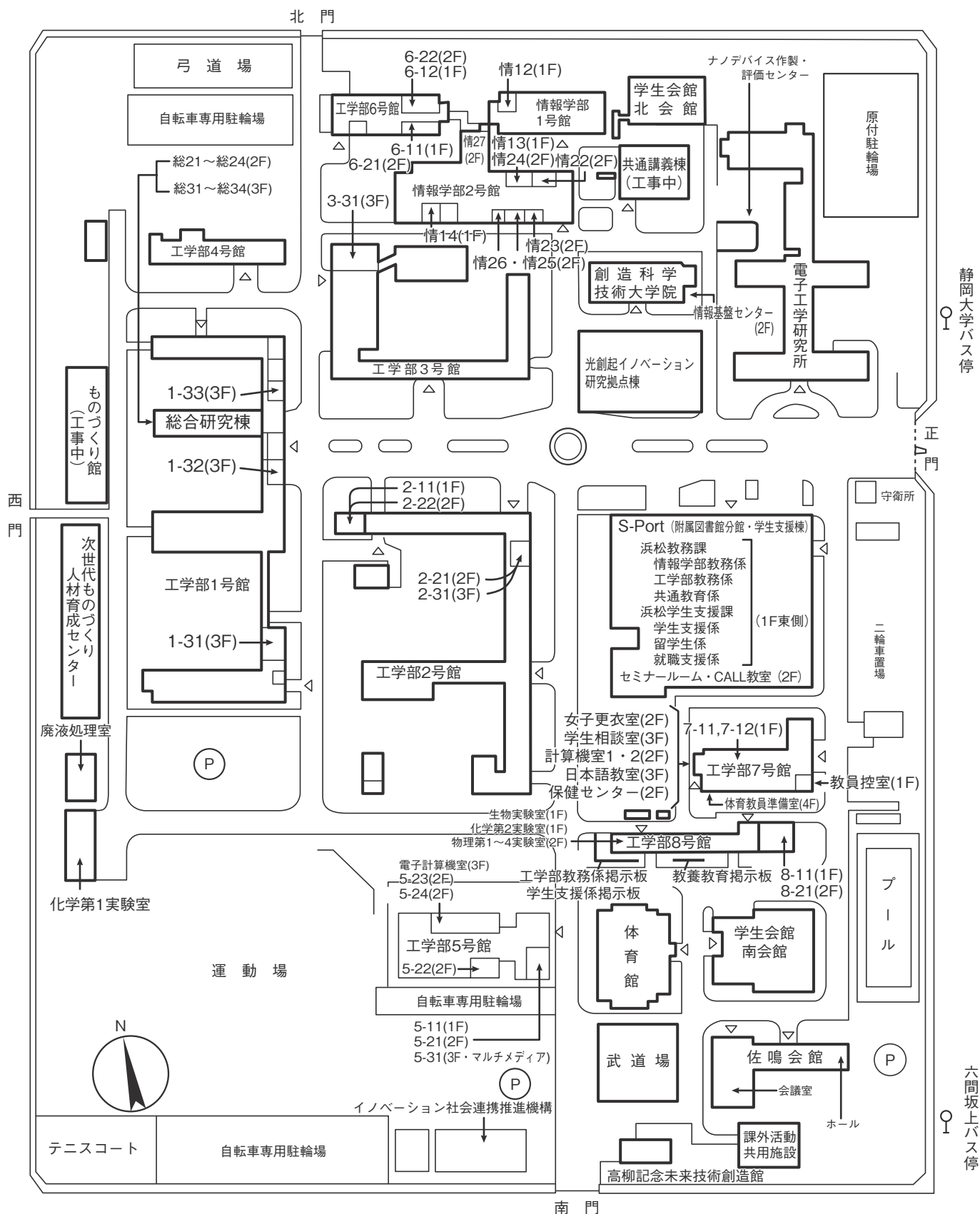


25 共通教育棟周辺掲示板



26 浜松キャンパス建物配置図・教室名

和 地 山 グ ラ ウ ン ド



全学教育科目の
学部別授業科目一覧
及び
必要単位数
(A B P 留学生コース)

2016(平成 28 年度) 10 月入学
A B P 留学生用

※A B P 留学生は p. 83～p. 100 までの別表を参照すること。

27 全学教育科目の学部別授業科目一覧(ABP留学生コース)

「必修・選択の別」の用語説明

「必修」:卒業するために必ず履修しなければならない科目

「選択必修」:複数の授業科目のなかから定められている単位数を必ず履修しなければならない科目

「選択」:必ず履修しなければならない科目ではないが、卒業に必要な履修単位に含まれる科目

(1)人文社会科学部(ABP留学生コース)

(教養科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備考
基軸教育科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)
	情報処理	情報処理	2	選択	演習	1	学部指定履修科目
	英語	英語コミュニケーションⅠ	1	選択	演習	1	
		英語演習Ⅰ	1	選択	演習	1	学部指定履修科目 「英語演習Ⅰ」は再履修できない。
		基礎英語演習	1	選択	演習	1	「基礎英語演習」は「英語演習Ⅰ」が不可だった者のみ履修できる。
		英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1～2	英語コミュニケーションⅠの単位修得者が履修できる。
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2	TOEIC400点以上取得者が履修できる。
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		英語インテンシブB	2	選択	演習	2	
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	クラスごとに履修条件の設定がある。
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	1	初修外国語入門Ⅰ及びⅡと併せて同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	2	
	健康体育	健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	1～4	
		健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	1～4	
	フィールドワーク	ABPインターンシップ	2	必修	演習	2～3	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1	
現代教養科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	ABP科目として指定された個別分野科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) ※年度によりABP科目は異なる場合がある。 *ABP=(Asia Bridge Program)
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		日本国憲法	2	選択必修	講義	2	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	(自然科学分野)	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	

	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	AL科目として指定された学際科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) *AL = (Active Learning)
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	基礎日本語	ABP基礎日本語Ⅰ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅱ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅲ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅳ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅴ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅵ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅶ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅷ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅸ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅹ	1	必修	演習	1(初)	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目(もしくは区分単位数)である。
2. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
3. 履修年次の「1(初)」とは、1年次(初学期・前学期・後学期)の初学期のことをいう。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
文系基礎科目		ABP日本の社会	1	選択必修	演習	1(初)	4科目4単位必修
		ABP日本の歴史	1	選択必修	演習	1(初)	
		ABP日本の地理	1	選択必修	演習	1(初)	
		ABP日本の政治	1	選択必修	演習	1(初)	
		ABP日本の経済	1	選択必修	演習	1(初)	

(2)教育学部(ABP留学生コース)

(教養科目)

科目 区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修 の別	授業 形態	履修 年次	備 考
基軸教育 科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)
	情報処理	*情報処理	2	必修	演習	1	
	英語	*英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1	
		*英語コミュニケーションⅡ	1	選択必修	演習	1～2	英語コミュニケーションⅠの単位修得者が履修できる。
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	TOEIC400点以上取得者が履修できる。
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2	
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	
		*英語ディスカッション	2	選択必修	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		*英語インテンシブA	2	選択必修	演習	1	
		*英語インテンシブB	2	選択必修	演習	2	
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3	クラスごとに履修条件の設定がある。
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		*英語海外研修A	2	選択必修	演習	1～4	
		*英語海外研修B	2	選択必修	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	1	
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	*健康体育Ⅰ	1	必修	講義・実技	1～4	
		*健康体育Ⅱ	1	必修	講義・実技	1～4	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～4	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～4	
	フィールドワーク	ABPインターンシップ	2	必修	演習	2～3	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1	
現代教養 科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	ABP科目として指定された個別分野科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) ※年度によりABP科目は異なる場合がある。 ただし、上記4単位に日本国憲法を含めることができる。 *ABP=(Asia Bridge Program)
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		*日本国憲法	2	選択必修	講義	1～2	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	(自然科学分野)	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	
	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は 演習	2～3	AL科目として指定された学際科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) *AL=(Active Learning)

留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	基礎日本語	ABP基礎日本語Ⅰ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅱ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅲ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅳ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅴ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅵ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅶ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅷ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅸ	1	選択	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅹ	1	選択	演習	1(初)	
教職等資格科目	教職教養科目	*教育の原理	2	必修	講義	1	
		*発達と学習	2	必修	講義	1	
		*教育と社会	2	必修	講義	2	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目（もしくは区分単位数）である。
2. *印の科目は、教員免許状取得希望学生が、必ず履修しなければならない科目である。
（英語については、必修の英語コミュニケーションⅠのほかに*印の科目から1単位以上（*印、合計2単位以上）履修すること。）
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
4. 履修年次の「1(初)」とは、1年次（初学期・前学期・後学期）の初学期のことをいう。

（専門科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
文系基礎科目		ABP日本の社会	1	選択必修	演習	1(初)	2科目2単位必修。
		ABP日本の歴史	1	選択必修	演習	1(初)	
		ABP日本の地理	1	選択必修	演習	1(初)	
		ABP日本の政治	1	選択必修	演習	1(初)	
		ABP日本の経済	1	選択必修	演習	1(初)	

(3)情報学部(ABP留学生コース)

(教養科目)

科目 区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修 の別	授業 形態	履修 年次	備 考
基軸教育 科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)
	情報処理	情報処理	2	選択	演習	1	
	英語	英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1	
		英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	英語コミュニケーションⅠの単位 修得者が履修できる。
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2	
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	TOEIC400点以上取得者が 履修できる。
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	
		英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2	TOEIC500点以上取得者が 履修できる。
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	2	
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3	TOEIC600点以上取得者が履修 できる。(集中講義)
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	クラスごとに履修条件の設定 がある。
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	必修	演習	1	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科 目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒 業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	必修	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	2	
	健康体育	健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	1～3	
		健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	1～3	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～3	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～3	
	フィールドワーク	ABPインターンシップ	2	必修	演習	2～3	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1	
現代教養 科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	ABP科目として指定された個別分野科目から2 科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も 履修可能) ※年度によりABP科目は異なる場合がある。 *ABP=(Asia Bridge Program)
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	(自然科学分野)	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	
	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福 祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸 術を含む)」 「科学・技術」	各年度の初めに、各テーマに 沿った授業科目を発表する。 一部の授業科目については、 少人数形式の「学部横断セミ ナー」として実施する。		選択必修	講義又は 演習	2～3	AL科目として指定された学際科目から2科目4 単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修 可能) *AL=(Active Learning)

留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	基礎日本語	ABP基礎日本語Ⅰ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅱ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅲ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅳ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅴ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅵ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅶ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅷ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅸ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅹ	1	必修	演習	1(初)	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目（もしくは区分単位数）である。
2. 学部横断セミナーとして開講する工学部のフィールドワーク科目「ものづくり・理科教育支援」の単位修得をした場合は、学際科目として認定する。
3. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
4. 履修年次の「1(初)」とは、1年次（初学期・前学期・後学期）の初学期のことをいう。

（専門科目）

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
理系基礎科目		線形代数学Ⅰ	2	科学必修、行動選必	講義	1	科学は情報科学科 行動は行動情報学科 社会は情報社会学科
		線形代数学Ⅱ	2	科学必修、行動選必	講義	1	
		微分積分学Ⅰ	2	科学必修、行動選必	講義	1	
		微分積分学Ⅱ	2	科学選必、行動選必	講義	1	
		離散数学	2	科学必修、行動選必	講義	2	
		情報代数及び符号理論	2	科学選必	講義	2	
		ABP基礎数学	1	科学必修、行動必修、社会選必	演習	1(初)	科学:「ABP基礎数学」・「ABP基礎物理学」・「ABP基礎統計学」は必修 行動:「ABP基礎数学」・「ABP基礎統計学」は必修、 「ABP日本の社会」・「ABP日本の歴史」・「ABP日本の地理」・「ABP日本の政治」・「ABP日本の経済」から1科目1単位必修 社会:「ABP日本の社会」は必修、 「ABP基礎数学」・「ABP基礎統計学」・「ABP日本の歴史」・「ABP日本の地理」・「ABP日本の政治」・「ABP日本の経済」から2科目2単位必修
		ABP基礎物理学	1	科学必修	演習	1(初)	
文系基礎科目		ABP基礎統計学	1	科学必修、行動必修、社会選必	演習	1(初)	
		ABP日本の社会	1	行動選必、社会必修	演習	1(初)	
		ABP日本の歴史	1	行動選必、社会選必	演習	1(初)	
		ABP日本の地理	1	行動選必、社会選必	演習	1(初)	
		ABP日本の政治	1	行動選必、社会選必	演習	1(初)	
		ABP日本の経済	1	行動選必、社会選必	演習	1(初)	

(4)理学部(ABP留学生コース)

(教養科目)

科目 区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修 の別	授業 形態	履修 年次	備 考
基軸教育 科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)
	情報処理	情報処理	2	選択	演習	1	学部指定履修科目
	英語	英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1	
		英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2	
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	
		英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	2	
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	必修	演習	1	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	1～4	学部指定履修科目
		健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	1～4	
	フィールドワーク	ABPインターンシップ	2	必修	演習	2～3	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1	
現代教養 科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	ABP科目として指定された個別分野科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) ※年度によりABP科目は異なる場合がある。 *ABP = (Asia Bridge Program)
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		日本国憲法	2	選択必修	講義	2	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	(自然科学分野)	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	
	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	AL科目として指定された学際科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) *AL = (Active Learning)

留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	基礎日本語	ABP基礎日本語Ⅰ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅱ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅲ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅳ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅴ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅵ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅶ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅷ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅸ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅹ	1	必修	演習	1(初)	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目(もしくは区分単位数)である。
2. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
3. 履修年次の「1(初)」とは、1年次(初学期・前学期・後学期)の初学期のことをいう。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
理系基礎科目		数学Ⅰ(微分積分A)	2	PCBG必修	講義	1	Mは数学科 Pは物理学科 Cは化学科 Bは生物学科 Gは地球科学科
		数学Ⅱ(線形代数A)	2	PCBG必修	講義	1	
		数学Ⅲ(微分積分B)	2	PC必修、BG選択	講義	1	
		数学Ⅳ(線形代数B)	2	PC必修、BG選択	講義	1	
		数学Ⅴ(統計)	2	PCBG選択	講義	2	
		数学Ⅵ(微分積分C)	2	PCBG選択	講義	2	
		物理学Ⅰ(力学)	2	MC選択、BG必修	講義	1	
		物理学Ⅱ(電磁気)	2	MCBG選択	講義	1	
		物理学Ⅲ(現代物理)	2	MCBG選択	講義	2	
		化学Ⅰ(物理化学A)	2	MP選択、BG必修	講義	1	
		化学Ⅱ(物理化学B)	2	MPBG選択	講義	1	
		化学Ⅲ(有機化学)	2	MPBG選択	講義	2	
		生物学Ⅰ(基礎A)	2	MPC選択、G必修	講義	1	
		生物学Ⅱ(基礎B)	2	MPCG選択	講義	1	
		地球科学Ⅰ(基礎A)	2	MPC選択、B必修	講義	1	
		地球科学Ⅱ(基礎B)	2	MPCB選択	講義	1	
		物理学実験	1	P必修、CBG選択	実験	2	
		化学実験	1	CB必修、PG選択	実験	1	
		生物学実験	1	B必修、PCG選択	実験	1～2	
		地学実験	1	G必修、PCB選択	実験	2	
		機器分析科学入門Ⅰ	1	PCBG選択	講義	2	
		機器分析科学入門Ⅱ	1	PCBG選択	講義	2	
		ABP基礎数学	1	必修	演習	1(初)	3科目3単位必修
		ABP基礎物理学	1	P必修、MCBG選択	演習	1(初)	
		ABP基礎化学	1	C必修、MPBG選択	演習	1(初)	
		ABP基礎生物学	1	B必修、MPCG選択	演習	1(初)	

(5)工学部(ABP留学生コース)

(教養科目)

科目 区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修 の別	授業 形態	履修 年次	備 考
基軸教育 科目	新入生セミナー	新入生セミナー	1	必修	演習	1	
	情報処理	情報処理	2	必修	演習	1(初)	
	英語	英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。)
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1	
		英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1～2	「英語コミュニケーションⅠ」の単位取得者が履修できる。
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	1～2	TOEIC400点以上取得者が履修できる。
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	TOEIC500点以上取得者が履修できる。
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1	TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義)
		英語インテンシブB	2	選択	演習	2	
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	必修	演習	3	クラスごとに履修条件の設定がある。
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	選択	演習	2	※「世界のことばと文化」の単位修得者が履修できる。 同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	4	
	健康体育	健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	3～4	
		健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	3～4	
	フィールドワーク	工学基礎実習	1	必修	実習	1	
		創造教育実習	1	必修	実習	1	
		ものづくり・理科教育支援	2	選択	演習	2～3	学部横断セミナーとして開講する。
		ABPインターンシップ	2	必修	演習	2～3	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	1	必修	講義	2	
現代教養 科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	ABP科目として指定された個別分野科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) ※年度によりABP科目は異なる場合がある。 *ABP=(Asia Bridge Program)
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		世界のことばと文化	2	選択必修	講義	1	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		日本国憲法	2	選択必修	講義	1～3	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	〈自然科学分野〉	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	

	学際科目 テーマ 「国際・地域」 「環境・自然」 「現代社会(情報・福祉を含む)」 「生命・人間(文化・芸術を含む)」 「科学・技術」	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	AL科目として指定された学際科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) *AL = (Active Learning)
留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	基礎日本語	ABP基礎日本語Ⅰ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅱ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅲ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅳ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅴ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅵ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅶ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅷ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅸ	1	選択	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅹ	1	選択	演習	1(初)	

注意

1. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
2. 履修年次の「1(初)」とは、1年次(初学期・前学期・後学期)の初学期のことをいう。

(専門科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
理系基礎科目		微分積分学Ⅰ	2	MEDCS必修	講義	1	Mは機械工学科 Eは電気電子工学科 Dは電子物質科学科 Cは化学・バイオ工学科 Sは数理システム工学科
		微分積分学Ⅱおよび演習	3	MEDCS必修	講義・演習	1	
		線形代数学Ⅰおよび演習	3	MEDCS必修	講義・演習	1	
		線形代数学Ⅱ	2	MEDCS必修	講義	1	
		力学・波動Ⅰ	2	MEDCS必修	講義	1	
		力学・波動Ⅱ	2	MEDCS必修	講義	1	
		電磁気学	2	MC(環境)必修 S選択	講義	2	
		現代物理	2	MED必修	講義	2	
		熱統計力学	2	EC(環境)必修 S選択	講義	2	
		工学基礎化学Ⅰ	2	MEDCS必修	講義	1	
		工学基礎化学Ⅱ	2	MEDCS必修	講義	1	
		基礎無機化学	2	D必修	講義	1	
		生物学Ⅰ	2	C(バイオ)必修 S選択	講義	2	
		生物学Ⅱ	2	C(バイオ)必修 S選択	講義	2	
		物理・化学実験	1	MEDC(環境) S必修	実験	2	
		化学・生物実験	1	C(バイオ)必修	実験	2	
		ABP基礎数学	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎物理学	1	ME必修 CDS選択	演習	1(初)	基礎物理・基礎化学・基礎生物から2科目2単位必修
		ABP基礎化学	1	M必修 EDCS選択	演習	1(初)	
		ABP基礎生物学	1	EDCS選択	演習	1(初)	

(6)農学部(ABP留学生コース)

(教養科目)

科目区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修の別	授業形態	履修年次	備 考
基礎教育科目	新入生セミナー	新入生セミナー	2	選択	演習	1	学部指定履修科目(※欄外の「注意1」を参照)
	情報処理	情報処理	2	選択	演習	1	学部指定履修科目
	英語	英語コミュニケーションⅠ	1	必修	演習	1	この2科目は、1科目1単位を必修とし1単位を超えて単位修得できない。(英語演習Ⅰを必ず履修すること。不可の場合は再履修できないので、基礎英語演習を履修すること。) 英語コミュニケーション1の単位修得者が履修できる。 TOEIC400点以上取得者が履修できる。 TOEIC500点以上取得者が履修できる。 TOEIC600点以上取得者が履修できる。(集中講義) クラスごとに履修条件の設定がある。 左記の選択科目のうち1単位を学部指定履修科目とする。
		英語演習Ⅰ	1	選択必修	演習	1	
		基礎英語演習	1	選択必修	演習	1	
		英語コミュニケーションⅡ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅱ	1	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅠ	1	選択	演習	2	
		英語リーディングⅠ	1	選択	演習	1～2	
		英語演習Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		英語ライティングⅡ	2	選択	演習	2	
		英語リーディングⅡ	2	選択	演習	1～2	
		英語ディスカッション	2	選択	演習	1～2	
		英語インテンシブA	2	選択	演習	1	
		英語インテンシブB	2	選択	演習	2	
		アカデミックイングリッシュⅠ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅡ	2	選択	演習	2～3	
		アカデミックイングリッシュⅢ	2	選択	演習	2～3	
		ビジネスイングリッシュ	2	選択	演習	3	
		英語海外研修A	2	選択	演習	1～4	
		英語海外研修B	2	選択	演習	1～4	
	初修外国語	初修外国語入門Ⅰ	1	必修	演習	1	同一言語を履修すること。 異なる言語を追加して履修する場合は、入門科目に限り別の科目として扱い、選択科目として卒業単位に含めることができる。
		初修外国語入門Ⅱ	1	選択	演習	1	
		初修外国語Ⅰ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅱ	2	選択	演習	2	
		初修外国語Ⅲ	2	選択	演習	3	
		初修外国語Ⅳ	2	選択	演習	3	
	健康体育	健康体育Ⅰ	1	選択	講義・実技	1～4	
		健康体育Ⅱ	1	選択	講義・実技	1～4	
		スポーツⅠ	1	選択	実技	2～4	
		スポーツⅡ	1	選択	実技	2～4	
	フィールドワーク	フィールド科学演習Ⅰ	2	選択	演習	1	学部指定履修科目
		フィールド科学演習Ⅱ	1	選択	演習	1	
		ABPインターンシップ	2	必修	演習	2～3	
	キャリア形成科目	キャリアデザイン	2	選択	講義	1	
現代教養科目	個別分野科目 (人文・社会分野)	哲学	2	選択必修	講義	1～3	ABP科目として指定された個別分野科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) ※年度によりABP科目は異なる場合がある。 *ABP=(Asia Bridge Program)
		歴史と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		ことばと表現	2	選択必修	講義	1～3	
		日本国憲法	2	選択必修	講義	2	
		法と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		経済と社会	2	選択必修	講義	1～3	
		国際社会と日本	2	選択必修	講義	1～3	
		現代の社会	2	選択必修	講義	1～3	
		心理学	2	選択必修	講義	1～3	
		地域と文化	2	選択必修	講義	1～3	
		芸術論	2	選択必修	講義	1～3	
	(自然科学分野)	数学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		数理の構造	2	選択必修	講義	1～3	
		物理の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		自然と物理	2	選択必修	講義	1～3	
		化学の世界	2	選択必修	講義	1～3	
		生活の科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生命科学	2	選択必修	講義	1～3	
		生物と環境	2	選択必修	講義	1～3	
		地球科学	2	選択必修	講義	1～3	
		進化と地球環境	2	選択必修	講義	1～3	
		科学と技術	2	選択必修	講義	1～3	
	学際科目 テーマ	各年度の初めに、各テーマに沿った授業科目を発表する。 一部の授業科目については、少人数形式の「学部横断セミナー」として実施する。		選択必修	講義又は演習	2～3	AL科目として指定された学際科目から2科目4単位必修(英語・日本語のどちらの科目も履修可能) *AL=(Active Learning)
	「国際・地域」						
	「環境・自然」						
	「現代社会(情報・福祉を含む)」						
	「生命・人間(文化・芸術を含む)」						
	「科学・技術」						

留学生科目	日本語	日本語Ⅰ	2	選択	演習	1～2	日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは履修することが望ましい。
		日本語Ⅱ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅲ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅳ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅴ	2	選択	演習	1～2	
		日本語Ⅵ	2	選択	演習	1～2	
	日本事情	日本事情	2	選択	講義	1～2	
	基礎日本語	ABP基礎日本語Ⅰ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅱ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅲ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅳ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅴ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅵ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅶ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅷ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅸ	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎日本語Ⅹ	1	必修	演習	1(初)	

注意

1. 学部指定履修科目は、学部毎に標準的なカリキュラムとして必ず履修することが指定されている科目（もしくは区分単位数）である。
2. 留学生科目の単位の取り扱い及び留学生以外の学生の同科目履修等については、「留学生科目等に関する申合せ」を参照すること。
3. 履修年次の「1(初)」とは、1年次（初学期・前学期・後学期）の初学期のことをいう。

（専門科目）

科目 区分	小科目区分	授業科目	単位	選択・必修 の別	授業 形態	履修 年次	備 考
理系基礎 科目		数学概論A	2	Br必修	講義	1	Brは生物資源科学科、Alは応用生命科学科
		数学概論B	2	Br必修	講義	1	
		数学概論	2	Al必修	講義	1	
		統計学	2	Al必修	講義	1	
		物理学概論A	2	Br必修	講義	1	
		物理学概論B	2	Br必修	講義	1	
		物理学概論	1	Al必修	講義	1	
		化学概論A	2	Br必修	講義	1	
		化学概論B	2	Br必修	講義	1	
		化学概論	1	Al必修	講義	1	
		物理化学1A	1	Al必修	講義	1	
		物理化学2A	1	Al必修	講義	1	
		物理化学1B	2	Al必修	講義	1	
		物理化学2B	2	Al必修	講義	1	
		生物学概論A	2	Br必修	講義	1	
		生物学概論B	2	Br必修	講義	1	
		生物学A	2	Al必修	講義	1	
		生物学B	2	Al必修	講義	1	
		物理学実験	1	Br選択	実験	1	木質科学コースのみ必修とする。
		化学実験	1	BrAl必修	実験	1	
		生物学実験	1	BrAl必修	実験	1	
		ABP基礎数学	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎物理学	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎化学	1	必修	演習	1(初)	
		ABP基礎生物学	1	必修	演習	1(初)	

各学部の教養科目必要単位数

(1)人文社会科学部(ABP留学生コース)

学科区分				社会学科	言語文化 学科	法学科	経済学科	備 考
科目区分								
教 養 科 目	必 修	科教基 目育軸	フィールドワーク	2	2	2	2	
		現代 科目 教養	個別分野科目	4	4	4	4	ABP科目から2科目4単位
			学際科目	4	4	4	4	AL科目から2科目4単位
		留学生 科学	基礎日本語	10	10	10	10	
		小 計		20	20	20	20	
	選 択	基礎 目（学 部指 定履 修科 目） 軸教育科目	新入生セミナー	2	2	2	2	
			情報処理	2	2	2	2	
			英語	1	1	1	1	
		その他		3	3	3	3	
		小 計		8	8	8	8	
	合 計			28	28	28	28	
科専 目門	合 計			76	64	70	66	専門科目の詳細は学部規則を参照。 文系基礎科目(4科目4単位)を含む。
科自 目由	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			20	32	26	30	
合 計(卒業単位数)				124	124	124	124	

(2)教育学部(ABP留学生コース)

学科区分 科目区分				学校教育教員 養成課程	備 考	
教 養 科 目	必 修	基 軸 教 育 科 目	英語	3		
			情報処理	2		
			健康体育	2		
			フィールドワーク	2		
		現 代 教 養 科 目	個別分野科目	4	ABP科目から2科目4単位	
			学際科目	4	AL科目から2科目4単位	
		留 学 生 科 目	基礎日本語	8		
		資 格 科 目 等	教職教養科目	6		
		小 計		31		
	選 択	(学部指定履修 科目) 基 軸 教 育 科 目	新入生セミナー	2		
			その他			0
			小 計			2
	合 計			33		
専 門 科 目	合 計		80	専門科目の詳細は学部規則を参照。 文系基礎科目(2科目2単位)を含む。		
自 由 科 目	教育学部の専門科目、及び教養科目で各々の 必要単位数を超えた単位数		11			
合 計(卒業単位数)				124		

(3)情報学部(ABP留学生コース)

科目区分				学科区分	情報科学科	行動情報学科	情報社会学科	備 考
教 養 科 目	必	基 軸 教 育 科 目	英語	2	2	2		
			初修外国語	2	2	2		
			フィールドワーク	2	2	2		
	修	現 代 教 養 科 目	個別分野科目	4	4	4	ABP科目から2科目4単位	
			学際科目	4	4	4	AL科目から2科目4単位	
		留 学 生 科 目	基礎日本語	10	10	10		
			小 計	24	24	24		
	選 択	(学 部 指 定 履 修 科 目) 基 軸 教 育 科 目	英語	2	2	2		
			新入生セミナー	2	2	2		
		その他		4	4	4		
		小 計		8	8	8		
	合 計				32	32	32	
専 門 科 目	必 修 科 目			86～92	86～92	86～92	(専門科目の詳細は学部規則を参照) ただし、行動情報学科は(2)の科目は認めない。	
	選 択 科 目							
	そ の 他	(1) 他大学、他学部、他学科の専門科目 (2) 教養科目の語学系科目で必要単位数を超えた科目			0～6	0～6		0～6
合 計(卒業単位数)				124	124	124		

(4)理学部(ABP留学生コース)

科目区分				学科区分		数学科	物理学科	化学科	生物科学科	地球科学科	備 考
教 養 科 目	必 修	基 礎 教 育 科 目	英語	2	2	2	2	2			
			初修外国語	1	1	1	1	1			
			フィールドワーク	2	2	2	2	2			
		現 代 教 養 科 目	個別分野科目	4	4	4	4	4	ABP科目から2科目4単位		
			学際科目	4	4	4	4	4	AL科目から2科目4単位		
		留 学 生 科 目	基礎日本語	10	10	10	10	10			
		小 計		23	23	23	23	23			
	選 択	(学 部 指 定 履 修 科 目)	英語	2	2	2	2	2			
			新入生セミナー	2	2	2	2	2			
			情報処理	2	2	2	2	2			
			健康体育	2	2	2	2	2			
		その他		4	4	4	4	4			
		小 計		12	12	12	12	12			
	合 計			35	35	35	35	35			
専 門 科 目	合 計			82	85	80	83	85	専門科目の詳細は学部規則を参照。 理系基礎科目(3科目3単位)を含む。		
自 由 科 目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			7	4	9	6	4			
合 計(卒業単位数)				124	124	124	124	124			

(5)工学部(ABP留学生コース)

学科区分 科目区分				機械工学科	電気電子 工学科	電子物質 科学科	化学バイオ 工学科	数理システ ム工学科	備 考
教 養 科 目	必 修	基 軸 教 育 科 目	英語	4	4	4	4	4	
			新入生セミナー	1	1	1	1	1	
			情報処理	2	2	2	2	2	
			フィールドワーク	4	4	4	4	4	
			キャリア形成科目	1	1	1	1	1	
		現 代 教 養 科 目	個別分野科目	4	4	4	4	4	ABP科目から2科目4 単位
			学際科目	4	4	4	4	4	AL科目から2科目4単 位
		留 学 生 科 目	基礎日本語	8	8	8	8	8	
		小 計			28	28	28	28	
	選 択	小 計			4	4	4	4	4
合 計				32	32	32	32	32	
専 門 科 目	合 計			92	92	92	94	90	専門科目の詳細は学部 規則を参照。 理系基礎科目(3科目3 単位)を含む。
自 由 科 目	教養科目,学部専門科目で必要単位 数を超えた単位数			2	2	2	0	4	
合 計(卒業単位数)				126	126	126	126	126	

(6)農学部(ABP留学生コース)

科目区分 \ 学科区分				生物資源科学科	応用生命科学科	備 考
教 養 科 目	必	基 軸 教 育 科 目	英語	2	2	
			初修外国語	1	1	
			フィールドワーク	2	2	
	修	現 代 教 養 科 目	個別分野科目	4	4	ABP科目から2科目4単位
			学際科目	4	4	AL科目から2科目4単位
		留 学 生 科 目	基礎日本語	10	10	
			小 計	23	23	
	選 択	(学 部 基 軸 指 定 履 修 科 目)	英語	1	1	
			新入生セミナー	2	2	
			情報処理	2	2	
			フィールドワーク	3	3	
		その他		0	0	
		小 計		8	8	
	合 計			31	31	
専 門 科 目	合 計			73	81	専門科目の詳細は学部規則を参照。 理系基礎科目(4科目4単位)を含む。
自 由 科 目	他学部・他学科専門科目を含む専門科目、及び教養科目で必要単位数を超えた単位数			20	12	
合 計(卒業単位数)				124	124	

行事予定 2017年度

学年開始	4月 1 日
入学式	4月 4 日
全学教育科目・教務ガイダンス	4月 5 日（教育学部、情報学部、地域創造学環） 4月 6 日（人文社会科学部、理学部、農学部） 4月 7 日（教育学部、工学部）
前学期 授業開始	4月 10 日
前学期 補講日（静岡キャンパス）	7月 25 日
（浜松キャンパス）	7月 25 日
前学期 授業終了	7月 28 日
前学期 試験	7月 31 日～8月 4 日
TOEIC 試験（「英語演習Ⅰ」試験）	8月 3 日
後学期 授業開始	10月 2 日
静大祭（浜松キャンパス）	11月 10 日～11月 12 日
（静岡キャンパス）	11月 17 日～11月 19 日
後学期 補講日（浜松キャンパス）	1月 31 日
（静岡キャンパス）	1月 31 日
後学期 授業終了	2月 2 日
後学期 試験	2月 5 日～2月 9 日
卒業式（浜松キャンパス）	3月 22 日
（静岡キャンパス）	3月 23 日
学年終了	3月 31 日

休業日：

国民の祝日に関する法律に規定する休日

日曜日

土曜日（人文社会科学部の夜間主コースを除く。）

春季休業 3月 25 日から 3月 31 日まで

夏季休業 前学期試験終了の翌日から 9月 15 日まで

冬季休業 12月 28 日から翌年 1月 5 日まで

上記のうち、春季・夏季・冬季の休業の日程は臨時に変更することがあります。
その他、必要が生じたときは、その都度臨時に休業日を定めて掲示で知らせます。



2017（平成29年度）
静岡大学 全学教育科目

履 修 案 内

学籍番号	
氏 名	

発行 静岡大学大学教育センター
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

編集 静岡大学大学教育センター
授業計画実施専門委員会
教務課教務係・浜松教務課共通教育係